Dell™ OptiPlex™ 745 Systems ユーザーズ ガイド

ミニタワーコンピュータ

デスクトップコンピュータ

スモールフォームファクターコンピュータ

ウルトラスモールフォームファクターコンピュータ

目次に戻る

アドバンス機能

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

LegacySelect テクノロジコントロール

LegacySelect テクノロジコントロールは、共通プラットフォーム、ハードドライブイメージ、およびヘルプデスク手続きを基本としたレガシーフル、レガシー限定、またはレガシーフリーソリューションを提供します。管理者は、セットアップユーティリティ、Dell OpenManage™ IT Assistant、または CFI(カスタムファクトリーインテグレーション)を介してコントロールを利用できます。

LegacySelect を使うことによって、管理者はシリアル / USB コネクタ、パラレルコネクタ、PCI スロット、フロッピードライブ、PS/2 マウスなどのコネクタおよびメディアデバイスを電子的に活動化または非活動化することができます。コネクタおよびメディアデバイスを無効にして、リソースを利用可能にします。変更を有効にするには、コンピュータを再起動する必要があります。

管理機能

ASF(Alert Standard Format)

ASF は、「オペレーティングシステム確立以前」または「オペレーティングシステム不在」警告技術を指定する DMTF 管理標準です。オペレーティングシステムがスリープモード、もしくはコンピュータの電源が切れているときに、セキュリティの問題および障害が発生している可能性があるという警告を発するよう設定されています。ASF は、オペレーティングシステム不在の際の従来の警告方法に代わるものとして設計されています。

お使いのコンピュータでは、以下の ASF バージョン 1.03 および 2.0 の警告とリモート機能をサポートしています。

警告	説明
Chassis: Chassis Intrusion - Physical Security Violation/Chassis Intrusion - Physical Security Violation Event Cleared	シャーシイントルージョン機能(一部のコンピュータでオプション提供)が搭載され有効になっているコンピュータシャーシが開けられたか、またはシャーシイントルージョン警告がクリアされました。
CPU: Emergency Shutdown Event	プロセッサ温度が高すぎるため電源ユニットがシャットダウンしました。
Cooling Device: Generic Critical Fan Failure/Generic Critical Fan Failure Cleared	ファン速度(rpm)が限界値を超えています。ファン速度(rpm)の問題が解決しました。
温度： Generic Critical Temperature Problem/Generic Critical Temperature Problem Cleared	コンピュータの温度が限界値を超えているか、またはコンピュータの温度の問題が解決しました。
Battery Low	システムバッテリーが 2.2V 以下になりました。

ASF では、ステータスが「pre-operating system(プレオペレーティングシステム)」または「operating system-absent(オペレーティングシステム不在)」のクライアントコンピュータとリモート管理コンソール間で、RMCP(Remote Management and Control Protocol)メッセージを交換できます。RMCP メッセージの送信により、クライアントコンピュータの起動、シャットダウン、再起動を指示できます。

デルの ASF 導入の詳細については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** で入手できる『ASF ユーザーズガイド』および『ASF 管理者ガイド』を参照してください。

Dell OpenManage™ アプリケーション

メモ: デルのコンピュータには、システム管理機能として、Dell OpenManage™ アプリケーションと DCCU または Dell Client Manager(DCM)のいずれかが搭載されています。DCM の詳細については、Dell Client Manager(DCM) を参照してください。

システム管理には、IT Assistant、Dell™ Client Connector Utility(DCCU)、Dell OpenManage Client Instrumentation(OMCI)を使用できます。

IT Assistant は、企業のネットワーク上のコンピュータやその他のデバイスを設定、管理、監視します。IT Assistant は、業界標準の管理ソフトウェアを装備したコンピュータの資産、設定、イベント（警告）、セキュリティを管理します。また、SNMP および CIM の業界標準に準拠する計装をサポートします。

IT Assistant の情報は、デルサポートサイト（**support.jp.dell.com**）で入手できる『Dell™ OpenManage IT Assistant ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell™ OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）は、IT Assistant などのリモート管理プログラムが、以下を実行するのを可能にします。

- お使いのコンピュータについての情報へのアクセス（搭載されているプロセッサの数や実行されているオペレーティングシステムの種類など）
- コンピュータのステータスの監視（温度プローブからの熱警告やストレージデバイスからのハードドライブ障害警告を受信することなど）

管理システムは、IT Assistant を使ってネットワーク上で Dell OpenManage™ Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）がセットアップされているコンピュータです。Dell OpenManage Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）については、デルサポートサイト（**support.jp.dell.com**）で入手できる『Dell OpenManage™ Client Instrumentation（クライアント用ソフトウェア）ユーザーズガイド』を参照してください。

Dell Client Connector Utility（DCCU）では、コンピュータのい状態を変更できます。たとえば、BIOS のアップデートや設定、リモートシャットダウンなどを実行できます。DCCU の詳細については、デルサポートサイト **support.jp.dell.com** を参照してください。

Dell Client Manager（DCM）

 メモ: デルのコンピュータには、システム管理機能として、Dell Client Manager（DCM）または Dell OpenManage™ のいずれかが搭載されています。Dell OpenManage 製品については、Dell OpenManage™ アプリケーション を参照してください。

Dell Client Manager（DCM）コンソール

Dell Client Manager（DCM）コンソールでは、企業ネットワーク上にあるデルコンピュータの構成、管理、モニターを、使いやすい GUI インタフェースを使って実行できます。業界標準管理ソフトウェアが搭載されているコンピュータのアセット、構成、イベント（アラート）、ステータス、セキュリティの管理作業を DCM コンソールから実行できます。DCM がサポートする業界標準については、**www.altiris.com** を参照してください。

DCM コンソールについては、**www.altiris.com** またはデルサポートサイト **support.dell.com** を参照してください。

DCM コンソールには、次のような機能もあります。

- お使いのコンピュータについての情報へのアクセス（搭載されているプロセッサの数や実行されているオペレーティングシステムの種類など）
- コンピュータのステータスの監視（温度プローブからの熱警告やストレージデバイスからのハードドライブ障害警告を受信することなど）
- お使いのコンピュータのステータスの変更（BIOS のアップデート、BIOS 設定、リモートでのシャットダウンなど）

管理対象システムは、Dell Client Manager をインストールしたコンソールと、クライアントソフトウェアをインストールしたクライアントコンピュータで構成されます。DCM の詳細については、デルサポートサイト **support.dell.com** を参照してください。

物理的なセキュリティ

シャーシイントルージョン検出

メモ: 管理者パスワードが有効な場合、管理者パスワードがわからないと **シャーシイントルージョン** 設定をリセットできません。

この機能（一部のコンピュータでオプション提供）は、シャーシが開けられたことを検出し、ユーザーに警告します。**シャーシイントルージョン** 設定を変更するには、次の手順を実行します。

1. セットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動を参照）。
2. 下矢印キーを押して、**System Security** オプションへ移動します。
3. <Enter> を押して、**System Security**（システムセキュリティ）オプションのポップアップメニューにアクセスします。
4. 下矢印キーを押して、**Chassis Intrusion** 設定へ移動します。
5. <Enter> を押して、オプション設定を選びます。
6. オプション設定のアップデートが終わったら、もう一度 <Enter> を押します。
7. 保存して、セットアップユーティリティを終了します。

オプション設定

- **On** - コンピュータカバーが開けられると、設定が **Detected**（検知）に変わり、次回のコンピュータ起動時の起動ルーチン中に次の警告メッセージが表示されます。

Alert! Cover was previously removed.（警告 ！ カバーが取り外されました。）

Detected（検知）の設定をリセットするには、セットアップユーティリティを起動してください（セットアップユーティリティの起動 を参照）。**Chassis Intrusion** オプションで、左右矢印キーを押して **Reset** を選択してから、**On**、**On-Silent**、または **Off** を選びます。

- **On-Silent**（オン - 警告メッセージなし、デフォルト） - コンピュータカバーが開けられると、設定が **Detected**（検知）に変わります。次回のコンピュータ起動時の起動順序中に警告メッセージは表示されません。
- **Off**（オフ）- イントルージョンモニタが行われず、メッセージも表示されません。

パドロックリングとセキュリティケーブルスロット

以下の方法の 1 つを使って、コンピュータを保護します。

- パドロックリングはパドロックのみ、またはパドロックとループ型セキュリティケーブルをいっしょに使用します。

  パドロックだけでコンピュータが開けられることを防ぐことができます。

  固定されたものにセキュリティケーブルを通し、パドロックを取り付けることで、無許可のコンピュータの移動を防ぐことができます。

- コンピュータ背面のセキュリティケーブルスロットに市販の盗難防止デバイスを取り付けます。

メモ: 盗難防止デバイスを購入する前に、お使いのコンピュータのセキュリティケーブルスロットに対応するか確認してください。

通常、盗難防止デバイスには、金属ケーブルに取り付けられているロック装置とキーが付いています。取り付け方法は、デバイスに付属のマニュアルに記載されています。

Trusted Platform Module（TPM）

メモ: オペレーティングシステムで TPM がサポートされている場合にのみ、TPM 機能により暗号化がサポートされます。詳細に関しては、ソフトウェアに同梱されている TPM ソフトウェアマニュアルおよびヘルプファイルを参照してください。

TPM は、コンピュータ生成の暗号キーを作成および管理することができる、ハードウェアベースの保護機能です。保護ソフトウェアと共に使用することにより、TPM はファイルプロテクション機能や E-メール保護などの機能を有効にして、既存のネットワークおよびコンピュータセキュリティをさらに強化します。TPM 機能はセットアップオプションから有効にします。

注意: TPM のデータおよび暗号化キーを保護するため、EMBASSY Security Center（EMBASSY セキュリティセンター）ヘルプファイルの「Archive and Restore（アーカイブおよび復元）」の項に示されているバックアップの手順に従ってください。バックアップが不完全であったり、紛失、または損傷した場合、デルでは暗号化されたデータのリカバリを援助することはできません。

TPM 機能の有効化

1. TPM ソフトウェアを有効にします。
   a. コンピュータを再起動し、Power On Self Test（POST）の間に <F2> を押してセットアップユーティリティに入ります。
   b. **セキュリティ**→ **TPM セキュリティ** を選択し、<Enter> を押します。
   c. **TPM Security** で、**On** を選択します。
   d. <Esc> を押してセットアッププログラムを終了します。
   e. プロンプトが表示されたら、**Save/Exit** をクリックします。
2. TPM セットアッププログラムを有効にします。
   a. コンピュータを再起動し、Power On Self Test（POST）の間に <F2> を押してセットアップユーティリティに入ります。
   b. **セキュリティ**→ **TPM Activation**（TPM のアクティブ化）を選択し、<Enter> を押します。
   c. **TPM Activation**（TPM のアクティブ化）の **Activate**（有効にする）を選択し、<Enter> を押します。

メモ: プログラムは一度だけ有効にすれば、以後は必要ありません。

   d. プロセスが完了すると、コンピュータが自動的に再スタートするか、コンピュータを再スタートするようにプロンプトが表示されます。

セキュリティ管理ソフトウェア

セキュリティ管理ソフトウェアは、4 種類の機能を使ってコンピュータを保護するように設計されています。

- ログイン管理
- 起動前認証（指紋リーダー、スマートカード、またはパスワードを使用）
- 暗号化

- 個人情報管理

ソフトウェアの使い方およびさまざまなセキュリティ機能の詳細に関しては、ソフトウェアの『Getting Started Guide（はじめに）』を参照してください。

スタート→ **すべてのプログラム**→ **Wave Systems Corp**→ **はじめに** をクリックします。

コンピュータ追跡ソフトウェア

コンピュータ追跡ソフトウェアは、コンピュータを紛失したり盗難に遭った場合に、コンピュータの位置を突き止めることができます。コンピュータ追跡ソフトウェアはオプションです。このソフトウェアは Dell™ コンピュータを注文する際にご購入いただくか、このソフトウェアのセキュリティ機能に関して、デルの営業担当にお問い合わせください。

メモ: コンピュータ追跡ソフトウェアは、すべての国で使用できるとは限りません。

メモ: コンピュータ追跡ソフトウェアを備えたコンピュータが紛失したり盗難に遭った場合は、追跡サービスを提供する会社にコンピュータの紛失を届け出てください。

スマートカードと指紋リーダー

メモ: お使いのコンピュータによっては、スマートカード機能や指紋リーダーが搭載されていない場合があります。

スマートカードは集積回路が内蔵された、持ち運びのできる、クレジットカードと同じ形のデバイスです。スマートカードの表の面には通常、金製の導体パッドの下に内蔵プロセッサが搭載されています。スマートカードは小型で集積回路が内蔵されていますので、安全性、データストレージ、および特殊なプログラム用の便利なツールとして利用できます。スマートカードを使って、ユーザーが持っているもの（スマートカード）とユーザーが知っているもの（暗証番号）を組み合わせて、パスワードだけの場合よりも確実なユーザー認証を提供し、システムの安全性を向上することができます。

指紋リーダーは、Dell™ コンピュータのセキュリティ保護に使用するデバイスです。このリーダーは、周辺機器に装備されている細長いセンサーです。指紋リーダーの上で指をスライドさせると、ユーザー固有の指紋を使用して身元確認が行われます。

パスワードによる保護

注意: パスワードはコンピュータ内のデータに対してセキュリティを提供しますが、絶対に安全であるというわけではありません。より強固なセキュリティが必要なデータについては、データ暗号化プログラムなどの保護機能をご自身でご用意ください。

システムパスワード

注意: システムパスワードを設定せずに操作中のコンピュータから離れたり、コンピュータをロックせずに放置した場合には、第三者がジャンパ設定を変更し、パスワードを解除することができます。その結果、ハードドライブ内のデータへのアクセスが誰にでも可能になります。

オプション設定

以下の 2 つのオプションのいずれかが表示されている場合、システムパスワードの変更や新しいパスワードの入力はできません。

- **設定** - システムパスワードが設定されています。
- **無効 -** システム基板のジャンパ設定によって、システムパスワードが無効になっています。

以下のオプションが表示された場合にのみ、システムパスワードを設定できます。

- **Not Set**（未設定） - システムパスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト設定）になっています。

システムパスワードの設定

システムパスワードの設定を途中で中止したい場合は、キーまたは <Shift> キーを押して別のフィールドに移動するか、手順 5 を終了する前に <Esc> を押します。

1. セットアップユーティリティを起動して（セットアップユーティリティの起動 を参照）、**Password Status**（パスワードステータス）が **ロック解除** に設定されているか確認します。
2. **System Password** をハイライト表示して、左または右矢印キーを押します。

   オプション名が **Enter Password** に変わり、その後に 32 文字分の空のフィールドが現れます。

3. 新しいシステムパスワードを入力します。

   32 文字まで入力できます。入力した文字を訂正する場合、<Backspace> または左矢印キーを押します。パスワードは、大文字と小文字を区別しません。

   無効なキーの組み合わせもあります。そのような組み合わせを入力すると、スピーカーからビープ音が鳴ります。

   それぞれの文字キー（または空白としてのスペースバー）を押すごとに「*」が表示されます。

4. <Enter> を押します。

   新しいシステムパスワードが 32 文字未満の場合、フィールド全部に「*」が挿入されます。次に、オプション名が **Verify Password** に変わり、その後ろに 32 文字分の別の空のフィールドが現れます。

5. パスワードを確認するために、もう一度パスワードを入力して <Enter> を押します。

   パスワード設定は **Set** に変わります。

6. セットアップユーティリティを終了します。

   コンピュータを再起動すると、パスワード保護機能は有効になります。

システムパスワードの入力

コンピュータを起動または再起動すると、以下のプロンプトが画面に表示されます。

Password Status が **Locked** に設定されている場合

```
Type the password and press <Enter>（パスワードを入力し、<Enter>を押してください。）
```

管理者パスワードが設定されている場合、コンピュータは管理者パスワードをシステムパスワードの代用として受け付けます。

入力したシステムパスワードが間違っていると、次のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **（誤ったパスワード。）
```

再び誤ったパスワードまたは不完全なパスワードを入力すると、同じメッセージが表示されます。システムパスワードを 3 回間違えると、それ以降は以下のメッセージが表示されます。

```
** Incorrect password. **
Number of unsuccessful password attempts: 3
System halted! Must power down.（誤ったパスワード。間違ったパスワード入力の回数：3　システムが停止しました！電源を切ってください。）
```

コンピュータの電源を入れなおした後でも、再び誤ったシステムパスワード、または不完全なシステムパスワードを入力するたびに、上記のメッセージが表示されます。

メモ: System Password と **Admin Password** を併用して **Password Status** を使用すると、無許可の変更に対してコンピュータの保護を強化できます。

既存のシステムパスワードの取り消しまたは変更

1. セットアップユーティリティを起動します（ セットアップユーティリティの起動を参照）。
2. **システムパスワード** をハイライト表示して、<Enter> を押します。
3. プロンプトが表示されたら、システムパスワードを入力します。
4. <Enter> を 2 回押して、既存のシステムパスワードをクリアします。設定は **Not Set** に変わります。

   Not Set と表示されている場合、システムパスワードは削除されています。**Not Set**（未設定）と表示されていない場合は、<Alt><b> を押してコンピュータを再起動し、手順 3 および 4 を繰り返します。

5. システムパスワードの設定 の手順に従って、新しいパスワードを設定します。
6. セットアップユーティリティを終了します。

管理者パスワード

オプション設定

次の 2 つのオプションのいずれかが表示された場合は、管理者パスワードを変更したり、新しい管理者パスワードを入力することはできません。

- **Set**（設定済み） - 管理者パスワードが設定されています。
- **Disabled**（無効） - システム基板のジャンパ設定によって、管理者パスワードが無効になっています。

次のオプションが表示された場合のみ、管理者パスワードを設定できます。

- **Not Set**（未設定） - 管理者パスワードが設定されていない状態で、システム基板のパスワードジャンパが有効設定（デフォルト設定）になっています。

管理者パスワードの設定

管理者 **パスワード** とシステムパスワードは同じでも構いません。

メモ: これら 2 つのパスワードが異なる場合は、管理者パスワードをシステムパスワードの代わりに使用することができます。ただし、システムパスワードを管理者パスワードの代わりに使用することはできません。

1. セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動 を参照）、**システム管理者パスワード** が **Not Set**（未設定）に設定されているか確認します。

2. **Admin Password** をハイライト表示して、左または右矢印キーを押します。

   パスワードの入力と確認のプロンプトが表示されます。パスワードに使用できない文字の場合、ビープ音が鳴ります。

3. パスワードを入力して確認します。

   パスワードの確認が終わると、**Admin Password** の設定は、**Set** に変わります。次回のセットアップユーティリティ起動時に、管理者パスワードの入力が求められます。

4. セットアップユーティリティを終了します。

   Admin Password の変更は、ただちに有効になります（コンピュータを再起動する必要はありません）。

管理者パスワードが有効な場合のコンピュータの操作

セットアップユーティリティを起動すると、**Admin Password** オプションがハイライト表示され、パスワードの入力を求められます。

正しいパスワードを入力しないと、セットアップオプションを変更することはできませんが、セットアップユーティリティ画面は表示されます。

メモ: **Setup Password** と **Password Status** を併用すると、無許可の変更に対してシステムパスワードを保護できます。

既存の管理者パスワードの削除または変更

既存の管理者パスワードを変更するには、管理者パスワードを知っている必要があります。

1. セットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動を参照）。

2. プロンプトで管理者パスワードを入力します。

3. **Admin Password** をハイライト表示し、左または右矢印キーを押して既存の管理者パスワードを削除します。

   設定は **Not Set** に変わります。

   新しい管理者パスワードを設定するには、管理者パスワードの設定 の手順を実行します。

4. セットアップユーティリティを終了します。

忘れたパスワードの取り消しと新しいパスワードの設定

システムパスワードまたは管理者パスワードをリセットするには、忘れたパスワードの消去 を参照してください。

セットアップユーティリティ

概要

セットアップユーティリティは以下の場合に使用します。

- ハードウェアを追加、変更、取り外した後に、システム設定情報を変更する場合
- ユーザーパスワードなどユーザー選択可能オプションを設定または変更する場合
- 現在のメモリの容量を調べたり、取り付けられたハードドライブの種類を設定する場合

セットアップユーティリティを起動する前に、後で参照できるようにセットアップユーティリティ画面の情報を記録しておいてください。

セットアップユーティリティの起動

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

2. 青色の DELL™ のロゴが表示された場合、すぐに <F2> を押します。

   ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft Windows デスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして（コンピュータの電源を切るを参照）もう一度やりなおしてみます。

セットアップ画面

セットアップユーティリティ画面は、お使いのコンピュータの現在のまたは変更可能な設定情報を表示します。画面上の情報は、オプションリスト、アクティブオプションフィールド、キーファンクションの 3 つの領域に分かれます。

<table>
<tr><td rowspan="2">Options List - このフィールドは、セットアップユーティリティウィンドウの左側に表示されます。このフィールドは、取り付けられたハードウェア、省電力機能、およびセキュリティ機能を含む、コンピュータの構成を定義するオプションを表示する、スクロール可能なリストです。

上下矢印キーを使って、一覧を上下にスクロールします。オプションがハイライト表示されている際、Option Field はそのオプションの詳細とオプションの現在の設定および利用可能な設定を表示します。</td><td>Option Field - このフィールドには、各オプションについての情報が表示されます。このフィールドで、現在の設定を表示させたり設定を変更することができます。

左右矢印キーを使って、オプションをハイライト表示します。<Enter> を押して、選択を有効にします。</td></tr>
<tr><td>Key Functions - このフィールドは、Option Field の下に表示され、アクティブなセットアップユーティリティフィールドのキーおよびそれらのファンクションのリストが表示されます。</td></tr>
</table>

セットアップオプション

メモ: お使いのコンピュータおよび取り付けられているデバイスによって、この項に一覧表示された項目は異なる場合があります。

System	
System Info	コンピュータ名、**BIOS バージョン、サービスタグ、エクスプレスサービスコード**（該当する場合）、**Asset Tag**（アセットタグ）が表示されます。いずれのフィールドも変更できません。
Processor Info	CPU のタイプ、バススピード、クロックスピード、L2 キャッシュサイズを表示します。プロセッサのハイパースレッディング、マルチコア機能、64 ビットテクノロジのサポート状況も表示されます。
Memory Info	実装メモリのタイプ、サイズ、速度、チャネルモード（デュアルまたはシングル）を表示します。
PCI Info	実装されている PCI カードまたは PCI Express カードの情報を表示します。
Date/Time	現在の日付および時刻設定を表示します。
Boot Sequence	コンピュータはこのリストで指定したデバイスの順番で起動を試みます。

Drives	
Diskette Drive （**Internal**デフォルト）	このオプションでフロッピードライブを有効または無効にします。オプションは、**Off**、**Internal**、**USB**、および **Read Only** です。 **メモ:** **USB** を選択する場合は、Onboard Devices（オンボードデバイス）の USB Controller（USB コントローラ）オプションを **On**（オン）に設定してください。
Drive 0～Drive n	システム基板の SATA または IDE コネクタに接続されたドライバを識別し、有効または無効にし、そのハードドライブの容量を表示します。 **メモ:** このオプションは、デスクトップ、ミニタワー、スモールフォームファクターコンピュータでは **Drive 0～Drive 3**、ウルトラスモールフォームファクターコンピュータでは **Drive 0～Drive 5** と表示されます。
SATA Operation （デフォルトは **Normal**）	このオプションを **Normal**（通常）に設定すると、SATA コントローラはネイティブモードになります。**Legacy**（レガシー） に設定すると、旧バージョンのオペレーティングシステムとの互換性が維持されます。
SMART Reporting	この設定は、システムの起動時に内蔵ドライブエラーを報告するかどうかを決定します。

(**Off** デフォルト)	

Onboard Devices	
Integrated NIC (**On** デフォルト)	内蔵 NIC コントローラを有効または無効にします。設定値は、 **On**、**Off**、**On w/RPL**、**On w/ PXE** のいずれかです。**On w/ PXE** または **On w/RPL** に設定すると、ネットワークサーバーから起動ルーチンを実行できない場合は、起動順序に従って、次のデバイスから起動します。
Integrated Audio (**On** デフォルト)	オンボードオーディオコントローラを有効または無効にします。
USB Controller (**On** デフォルト)	内蔵 USB コントローラを有効または無効にします。 **No Boot**（起動しない）に設定すると、コントローラは有効になりますが、USB デバイスからは起動できなくなります。 **メモ:** オペレーティングシステムが USB をサポートする場合、**No Boot**（起動しない）を選択に関係なく、USB フロッピードライブは認識されます。
Front USB (**On** デフォルト)	前面の USB ポートを有効または無効にします。
Rear Quad/Triad USB (**On** デフォルト)	コンピュータ背面の USB ポート（上）を有効または無効にします。
Rear Dual USB (**On** デフォルト)	コンピュータ背面の USB ポート（下）を有効または無効にします。
PCI Slots (**On** デフォルト)	PCI スロットと PCI Express スロットをすべて有効または無効にします。
LPT Port Mode (**PS/2** デフォルト)	内蔵パラレルポートの動作モードを指定します。 **Off** はポートを無効にします。 **AT** は、AT 互換ポートの設定です。**PS/2** は、PS/2 互換ポートの設定です。**EPP** はポートを EPP 双方向プロトコル用に設定します。 **ECP** はポートを ECP 双方向プロトコル用に設定します。 **メモ:** **LPT Port Mode**（LPT ポートモード） を **ECP** に設定している場合、**LPT Port DMA**（LPT ポート DMA） がオプションに表示されます。
LPT Port Address	ビルトインパラレルポートで使用するアドレスを指定します。
Serial Port #1 (**Auto**デフォルト)	シリアルポートの動作を指定します。 デフォルト設定の **Auto** は、コネクタを自動的に特定のポートに設定します（**COM1** または **COM3**）。
Serial Port #2 (**Auto**デフォルト)	シリアルポートの動作を指定します。 デフォルト設定の **Auto** は、コネクタを自動的に特定の指定先（**COM2** または **COM4**）に設定します。

Video	
Primary Video (**Auto**デフォルト)	どのビデオコントローラがプライマリかを指定します。**Auto**（自動）または **Onboard/Card**（オンボード / カード） のいずれかを設定します。Auto（自動）を選択すると、アドインビデオコントローラが使用されます。 **メモ:** PCI Express グラフィックスカードは、内蔵ビデオコントローラよりも優先されます。

Performance	
HyperThreading (**On** デフォルト)	物理プロセッサを 1 つまたは 2 つの論理プロセッサとして表示するかどうかを指定します。論理プロセッサを追加すると、パフォーマンスが向上するアプリケーションもあります。 **On** は、ハイパースレッディングを有効にします。
Multiple CPU Core (**On** デフォルト)	プロセッサが持つ有効なコアが 1 つか、または 2 つか、指定します。**On**（オン）を指定すると、2 番目のコアが有効になります。
Virtualization (**Off** デフォルト)	Intel® 仮想化テクノロジの追加ハードウェア機能を仮想マシンモニター（VMM）で使用できるかどうかを指定します。
SpeedStep (**Off** デフォルト)	コンピュータ内のサポート対象プロセッサで、Intel® SpeedStep を有効にします。この設定により、プロセッサの消費電力と周波数が変わります。 **メモ:** このオプションは、お使いのコンピュターで使用できない場合があります。
Limit CPUID Value (**Off** デフォルト)	プロセッサの標準 CPUID 機能がサポートする最大値を制限します。サポートする CPUID 機能の最大値を 4 以上の値にすると、一部のオペレーティングシステムではインストールを完了できなくなります。
HDD Acoustic Mode (**Bypass**デフォルト)	• **Quiet**（静音）- ハードドライブは最も静かな設定で動作します。 • **Performance** - ハードドライブは最大速度で動作します。 • **Bypass** - お使いのコンピュータは、現在のアコースティックモードの設定をテストまたは変更しません。

	• **Suggested** - ハードドライブは、ハードドライブ製造元が推奨する速度レベルで動作します。 **メモ:** Performance モードへ切り替えると、ドライブはより大きなノイズを発生する場合がありますが、動作に影響はありません。アコースティック設定を変更しても、ハードドライブイメージは変わりません。

Security	
Unlock Setup （**Locked** デフォルト）	システム管理者パスワードの使用中、ユーザーによるシステムセットアップの設定値の変更を許可します。プロンプトにシステム管理者パスワードを入力すると、セットアップユーティリティのロックが解除されます。 正しいパスワードを入力しないと、設定値の表示は可能ですが、変更はできません。
Admin Password (**Not Set** デフォルト)	セットアップユーティリティのパスワードセキュリティ機能の現在の状態を表示し、新しいシステムパスワードの設定と確認を行います。
System Password (**Not Set** デフォルト)	システムのパスワードセキュリティ機能の現在の状態が表示され、新しいシステムパスワードを設定したり確認することができます。
Drive *0-n* Password (**Not Set** デフォルト)	ハードドライブのパスワードセキュリティ機能に関する現在の状態が表示されます。新しいハードドライブパスワードの設定や確認が可能です。
Password Changes (**Unlocked** デフォルト)	**システム** パスワードと **管理者** パスワードの関係を指定します。**Locked**（ロック）を選択すると、有効な **管理者**パスワードを持たないユーザーは、**システム**パスワードを変更できなくなります。**Unlocked**（ロック解除）を選択すると、有効な**システム**パスワードを持つユーザーに、システムパスワードの変更を許可します。
Chassis Intrusion （**On-Silent** デフォルト）	スイッチが搭載されていて有効な場合、このオプションはコンピュータの次回の起動時に、コンピュータカバーが開けられたことをユーザーに警告します。設定は **On** または **On-Silent**（デフォルト設定）、および **Off** です。
Intrusion Detected	シャーシイントルージョンのアラーとを通知およびクリアします。
TPM Security (**Off** デフォルト)	Trusted Platform Module（TPM）セキュリティデバイスを有効または無効にします。
TPM Activation （**Deactivate** デフォルト）	Trusted Platform Module（TPM）セキュリティデバイスをアクティブまたは非アクティブにします。**Clear**（クリア）を選択すると、これまで TPM をアクティブにして使用していたユーザが保存したデータが消去されます。 **メモ:** TPM をアクティブにするには、**TPM セキュリティ** を **On**（オン）に設定する必要があります。
Execute Disable (**On** デフォルト)	Execute Disable メモリ保護テクノロジを有効または無効にします。
Computrace （**Deactivate** デフォルト）	Absolute Software が提供するオプションの Computrace サービスの BIOS インタフェースを有効または無効にします。このモニターサービスは、別途購入する必要があります。 **Activate** *permanently*（パーマネントに有効）を選択すると、BIOS-Computrace インタフェースが有効になります。**Disable** *permanently*（パーマネントに無効） を選択すると、BIOS-Computrace インタフェースが無効になります。 **Deactivate** *temporarily*（一時的に無効）を選択すると、BIOS-Computrace インタフェースが非アクティブになります。 **メモ:** サービスをアクティブにすると、使用中のコンピュータから Computrace サーバーへのデータ転送が許可されます。

Power Management	
AC Recovery (**Off** デフォルト)	電源の切断後 AC 電源が復旧したときのシステムの動作を指定します。**Off**（オフ）を選択すると、電源が復旧してもオフの状態になります。前面パネルの電源ボタンを押すと、システムの電源が入ります。**On**（オン）を選択すると、電源が復旧するとシステムが起動します。**Last**（前回の電源切断時）を選択すると、電源が復旧すると、電源が切断された時点の状態に戻ります。
Auto Power On (**Off** デフォルト)	コンピュータが自動的にオンになるように設定します。 **Off**（オフ）を選択すると、この機能は無効になります。**Everyday**（毎日）を選択すると、毎日、**Auto Power Time**（パワーオン時間）で設定した時間に電源が入ります。**Weekdays**（平日）を選択すると、月曜日から金曜日まで、**Auto Power Time**（パワーオン時間）で設定した時間に電源が入ります。 **メモ:** この機能は、電源タップやサージプロテクタのスイッチを使ってコンピュータをシャットダウンした場合は動作しません。
Auto Power Time	コンピュータを自動的にオンにする時間を設定します。 時間は、標準的な 12 時間形式（*時:分*）です。左右矢印キーを押して、数値を増減するか、日付と時間のフィールドの両方に数値を入力して、起動する時間を変更します。
Low Power Mode (**Off** デフォ	**Low Power Mode**（省電力モード）を選んだ場合、Remote Wakeup イベントは、オンボードのネットワークコントローラを介して **Hibernate**（休止状態）または **Off**（オフ）から起動しなくなります。

ルト)	
Remote Wake-Up (**Off** デフォルト)	このオプションは、Network Interface Controller または Remote Wakeup 機能を持つモデムがウェイクアップ信号を受け取った際に、システムを起動させます。 **On** がデフォルト設定です。**On w/ Boot to NIC** の場合、コンピュータは起動順序を使用する前に、ネットワークから起動しようとします。 **メモ:** 通常、システムはサスペンドモード、休止状態モード、または電源が切れた状態からリモートで起動できます。**Power Management** メニューで **Low Power Mode** が有効な場合、システムは **Suspend** からのみリモートで起動できます。
Suspend Mode (**S3** デフォルト)	コンピュータのサスペンドモードを設定します。**S1** を選択すると、低電力モードで実行するサスペンド状態になります。**S3** を選択すると、ほとんどのコンポーネントの電源は削減または切られますが、システムメモリはアクティブになるスタンバイ状態になります。

Maintenance	
Service Tag	コンピュータの Service Tag を表示します。
SERR Message (**On** デフォルト)	一部のグラフィックスカードでは、SERR メッセージを無効にする必要があります。
Load Defaults	セットアップオプションを出荷時のデフォルト値に戻します。
Event Log	**イベントログ**の表示を許可します。**既読は R**、**未読は U** です。**Mark All Entries Read**(すべて既読にする)を選択すると、すべてのエントリが **R** になります。**Clear Log**(ログのクリア)を選択すると、**イベントログ** を消去します。
ASF Mode	ASF 起動前メッセージのオンとオフを切り替えます。選択可能なオプションは、**Off**(オフ)、**On**(オン)、**Alert Only**(警告のみ) です。

POST Behavior	
Fastboot (**On** デフォルト)	有効にすると、互換性に関する一部の手順をバイパスすることにより、起動時間が短縮されます。**Off**(オフ)を選択すると、すべての手順を実行して起動します。**On**(オン)を選択すると、短い時間で起動します。
Numlock Key (**On** デフォルト)	キーボードの右にある数字キーの機能を指定します。**Off**(オフ)を選択すると、キーパッドは矢印キーになります。**On**(オン)を選択すると、数字キーになります。
POST Hotkeys (**Setup & Boot Menu** デフォルト)	始動画面に、**セットアップユーティリティ**または**クイック起動機能**を起動するのに必要なキーの入力のメッセージを表示するかどうかを決定します。**Setup & Boot Menu**(セットアップおよび起動メニュー)は、両方のメッセージを表示します (F2=Setup and F12=Boot Menu)。**Setup** はセットアップメッセージのみ表示します (F2=Setup)。**Boot Menu** はクイック起動メッセージのみ表示します(F12=Boot Menu)。**None** はメッセージは表示されません。
Keyboard Errors (**Report** デフォルト)	**Report**(レポート)(有効) に設定されていて POST 中にエラーが検知された場合、BIOS によりエラーメッセージが表示され、プロンプトに <F1> を押して続行するか、<F2> を押してセットアップユーティリティを起動するように表示されます。 **Do Not Report**(レポートなし)(無効)に設定されていて POST 中にエラーが検知された場合、BIOS によりエラーメッセージが表示され、コンピュータの起動が続行されます。

起動順序

この機能を使って、デバイスの起動順序を変更します。

オプション設定

- **USB Device** (USB デバイス) - USB デバイスからの起動を試みます。オペレーティングシステムがない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Onboard or USB Floppy Drive**(オンボードまたは USB フロッピードライブ) - コンピュータはフロッピードライブからの起動を試みます。ドライブ内のフロッピーディスクが起動用でない場合、またはフロッピーディスクがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Onboard SATA Hard Drive**(オンボード SATA ハードドライブ) - コンピュータはプライマリシリアル ATA ハードドライブからの起動を試みます。オペレーティングシステムがドライブにない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Onboard or USB CD-ROM Drive**(オンボードまたは USB CD-ROM ドライブ) - コンピュータは CD ドライブからの起動を試みます。ドライブに CD がない場合、あるいは CD にオペレーティングシステムがない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。
- **Onboard Network Controller**(オンボードネットワークコントローラ) - ネットワークコントローラからの起動を試みます。オペレーティングシステムがない場合、コンピュータはエラーメッセージを生成します。

一回のみの起動順序の変更

この機能を使用すると、たとえば、コンピュータを CD ドライブから起動することによって『Drivers and Utilities CD』を挿入します。診断テスト終了した後は、コンピュータをハードドライブから起動するように設定できます。この機能を使って、フロッピードライブ、メモリキー、または CD ドライブなどの USB デバイスからコンピュータを再起動することができます。

メモ: USB フロッピードライブから起動する場合、セットアップユーティリティでフロッピードライブを USB に設定する必要があります(セットアップユーティリティ を参照)。

1. USB デバイスから起動する場合、USB デバイスを USB コネクタに接続します。
2. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
3. 画面の右上角に `F2 = Setup, F12 = Boot Menu` と表示されたら、<F12>を押します。

   ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次にコンピュータをシャットダウンして（コンピュータの電源を切るを参照）もう一度やりなおしてみます。

   すべての利用可能な起動デバイスを一覧表示した **Boot Device Menu** が表示されます。各デバイスには、横に番号があります。

4. メニューの一番下で、一回のみの起動に使用するデバイスの数を入力します。

   たとえば、USB メモリキーから起動する場合、**USB デバイス**をハイライトして、<Enter> を押します。

メモ: USB デバイスから起動するには、デバイスが起動可能である必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

次回からの起動順序の変更

1. セットアップユーティリティを起動します（ セットアップユーティリティの起動を参照）。
2. 矢印キーを使って **Boot Sequence** メニューオプションをハイライト表示し、<Enter> を押してポップアップメニューにアクセスします。

メモ: 後で元に戻すこともできるよう、現在の起動順序を書きとめます。

3. デバイスのリスト内を移動するには、上下矢印キーを押します。
4. スペースバーを押して、デバイスを有効または無効にします（有効にしたデバイスにはチェックマークが付いています）。
5. 選択したデバイスをリストの上または下に移動するには、<Shift><Up Arrow> または <Shift><Down Arrow> を押します。

USB デバイスからの起動

メモ: USB デバイスから起動するには、デバイスが起動可能である必要があります。デバイスのマニュアルを参照して、デバイスが起動可能であるか確認してください。

メモリキー

1. USB ポートにメモリキーを挿入して、コンピュータを再起動します。
2. 画面の右上角に `F12 = Boot Menu` と表示されたら、<F12> を押します。

   BIOS がデバイスを認識し、USB デバイスオプションを起動メニューに追加します。

3. 起動メニューから、USB デバイスの隣に表示されている番号を選択します。

   コンピュータは USB デバイスから起動します。

フロッピードライブ

1. セットアップユーティリティで、**Diskette Drive** オプションを **USB** に設定します。
2. 保存して、セットアップユーティリティを終了します。
3. USB フロッピードライブに接続し、起動フロッピーを挿入して、システムを再起動します。

ジャンパ設定

ミニタワーおよびデスクトップ

スモールフォームファクター

ウルトラスモールフォームファクターコンピュータ

ジャンパ	設定	説明
PSWD		パスワード機能が有効になっています（デフォルト設定）。
		パスワード機能が無効になっています。
RTCRST		リアルタイムクロックはリセットされていません。
		リアルタイムクロックはリセットされています（一時的にジャンパありの状態）。

ジャンパあり　ジャンパなし

忘れたパスワードの消去

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: この手順を行うと、システムパスワードと管理者パスワードの両方が消去されます。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. システム基板の 2 ピンパスワードジャンパ(PSWD)の位置を確認し、ジャンパを取り外して、パスワードを消去します。ジャンパ設定を参照してください。
3. コンピュータカバーを取り付けます(コンピュータカバーの取り外しを参照)。
4. コンピュータとモニターをコンセントに接続して、電源を入れます。
5. コンピュータに Microsoft Windows のデスクトップが表示されたら、コンピュータをシャットダウンします(コンピュータの電源を切る を参照)。
6. モニターの電源を切って、コンセントから外します。
7. コンピュータの電源ケーブルをコンセントから外し、電源ボタンを押して、システム基板の静電気を除去します。
8. コンピュータカバーを開きます。
9. システム基板の 2 ピンパスワードジャンパの位置を確認し、ジャンパを取り付けてパスワード機能を再度有効にします。
10. コンピュータカバーを取り付けます(コンピュータカバーの取り外しを参照)。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

11. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

メモ: これで、パスワード機能は有効になります。セットアップユーティリティを起動すると(セットアップユーティリティの起動 を参照)、システムパスワードオプションと管理者パスワードオプションの両方が **Not Set**(未設定)と表示されます。つまり、パスワード機能は有効ですが、パスワードは設定されていません。

12. 新しいシステムパスワード、または管理者パスワードを設定します。

CMOS 設定のリセット

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. 現在の CMOS 設定をリセットします。
   a. システム基板の パスワード(PSWD)および CMOS(RTC_RST)ジャンパ を確認します(ジャンパ設定を参照)。
   b. パスワードジャンパプラグをピンから取り外します。
   c. パスワードのジャンパプラグをRTC_RST ピンに差込み、約 5 秒待ちます。
   d. ジャンパプラグをRTC_RST ピンから抜き、パスワードピンに戻します。
3. コンピュータカバーを取り付けます(コンピュータカバーの取り外しを参照)。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

4. コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます。

ハイパースレッディングおよびデュアルコアテクノロジ

ハイパースレッディングは Intel® テクノロジであり、1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させることでコンピュータ全体の性能を向上させるので、特定のタスクを同時に実行することができます。デュアルコアは、1 つのプロセッサパッケージに 2 つの物理計算ユニットを集積し、それによって計算効率とマルチタスク機能を向上させた Intel® テクノロジです。Windows XP オペレーティングシステムは、ハイパースレッディングテクノロジを利用するために最適化されているので、Microsoft Windows XP SP1 以降のオペレーティングシステムを使用することをお勧めします。

多くのプログラムは、ハイパースレッディングやデュアルコアテクノロジの恩恵を受けることになりますが、このようなテクノロジ用に最適化されていないプログラムもあります。それらのプログラムは、ソフトウェア製造元によるアップデートが必要な場合があります。ハイパースレッディングまたはデュアルコアテクノロジで使用するソフトウェアのアップデートや情報については、ソフトウェアの製造元にお

問い合わせください。ご使用中のコンピュータがハイパースレッディングテクノロジに対応しているかどうかは、セットアップユーティリティの Performance（パフォーマンス）タブにある Hyper-Threading（ハイパースレッディング）で確認できます（セットアップユーティリティ を参照）。

電力の管理

お使いのコンピュータは、作業しない場合に少ない電力で動作するよう設定できます。電力使用の制御は、コンピュータにインストールされたオペレーティングシステムおよびセットアップユーティリティの特定のオプション設定で行います（セットアップユーティリティ を参照）。節電されている期間を「スリープモード」と呼びます。

メモ: PCI Express x16 スロットにカードが装着され、サスペンド（S3）をサポートしない周辺機器を追加すると、スタンバイモードを開始できなくなります。

 メモ: スタンバイモードになるには、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネントが休止状態モードまたはスタンバイモード機能をサポートし、また適切なドライバがロードされている必要があります。詳細については、各コンポーネントの製造元のマニュアルを参照してください。

- **スタンバイ —** このスリープモードでは、冷却ファンを含むほとんどのコンポーネントへの電力は低減されているか、切られています。しかし、システムメモリは活動状態にあります。
- **休止状態 —** このスリープモードは、システムメモリのすべてのデータをハードドライブに書き込み、次に、システム電源を切ることによって、電力消費を最小にします。このモードからウェイクアップするとコンピュータが再起動し、メモリの内容が回復されます。その後、コンピュータは休止状態モードに入る前の動作状態に戻ります。
- **シャットダウン —** このスリープモードは、補助用のわずかな量を除いてコンピュータからすべての電源を切ります。コンピュータがコンセントに接続されている限り、自動的にまたはリモートで起動することができます。たとえば、セットアップユーティリティ の **Auto Power On**（自動パワーオン）オプションを使うと（セットアップユーティリティ を参照）、コンピュータを特定の時間に自動的に起動することができます。また、ネットワーク管理者は電源管理イベント（Remote Wake Up など）を使って、コンピュータをリモートで起動することができます。

次の表に、スリープモードとそれぞれのモードから復帰させるために使用できる方法を示します。

スリープモード	**ウェイクアップの方法（Windows XP）**
スタンバイ	・電源ボタンを押す ・オートパワーオン ・マウスを動かすかクリックする ・キーボードで入力する ・USB デバイスアクティビティ ・電源管理イベント
休止状態	・電源ボタンを押す ・オートパワーオン ・電源管理イベント
シャットダウン	・電源ボタンを押す ・オートパワーオン ・電源管理イベント

メモ: 電源管理の詳細については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

目次に戻る

目次に戻る

バッテリー

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

バッテリーの取り付け

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

コイン型バッテリーは、コンピュータの設定、日付、時間の情報を保持します。バッテリーの寿命は数年間です。

起動ルーチン中に日付や時刻が間違っていて、次のメッセージが表示される場合、バッテリーを交換する必要があります。

`Time-of-day not set - please run SETUP program`（日時が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください。）

または

`Invalid configuration information -`
`please run SETUP program`（無効な設定情報 － セットアップユーティリティを実行してください。）

または

`Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility`
（続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。）

バッテリーの交換が必要かどうか確認するには、セットアップユーティリティで日付と時刻を再入力し、プログラムを終了してその情報を保存します。コンピュータの電源を切り、コンセントから 2～3 時間外しておきます。次に、コンピュータをコンセントに接続しなおし、電源を入れてセットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。セットアップユーティリティに表示される日付と時刻が間違っている場合、バッテリーを交換します。

バッテリーがなくてもコンピュータは動作しますが、電源をオフにしたり、コンセントから電源プラグを抜いた場合、コンピュータ設定情報は消去されます。この場合は、セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動 を参照）、構成オプションをリセットしてください。

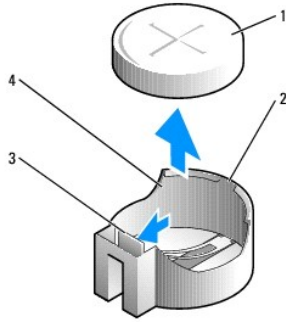
警告: 新しいバッテリーを取り付ける場合、正しく取り付けてください。破裂する場合があります。 交換するバッテリーは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。 使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

バッテリーを取り外すには次の手順を実行します。

1. まだ行っていない場合、セットアップユーティリティにある設定情報を書きとめておきます。
2. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
3. バッテリーソケットを確認します。

注意: 道具（先端の鋭くないもの）を使用して、バッテリーをソケットから取り出す場合は、道具がシステム基板に触れないよう注意してください。必ず、バッテリーとソケットの間に道具を確実に挿入してから、バッテリーを外します。それを怠ると、バッテリーソケットが外れたり、システム基板の回路を切断するなど、システム基板に損傷を与える恐れがあります。

注意: バッテリーコネクタへの損傷を防ぐために、バッテリーを取り外す際はコネクタをしっかりと支えておく必要があります。

4. システムバッテリーを取り外します。
   a. コネクタのプラス側をしっかり押さえ込んで、バッテリーコネクタを支えます。
   b. バッテリーコネクタを支えたまま、バッテリータブを押してコネクタのプラス側から離し、バッテリーをコネクタのマイナス側にある固定タブから持ち上げて取り外します。

1	システムバッテリー
2	バッテリーコネクタのプラス側
3	バッテリーソケットタブ
4	バッテリーソケット

注意: バッテリーコネクタへの損傷を防ぐために、バッテリーを取り付ける際はコネクタをしっかりと支えておく必要があります。

5. 新しいシステムバッテリーを取り付けます。
   a. コネクタのプラス側をしっかり押さえ込んで、バッテリーコネクタを支えます。
   b. バッテリーの「＋」側を上に向け、コネクタのプラス側にある固定タブの下にスライドさせます。
   c. バッテリーがカチッと所定の位置に収まるまで、コネクタをまっすぐに押し下げます。

6. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

7. セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動 を参照）、1ステップ で記録しておいた設定に戻します。

8. 古いバッテリーは適切に廃棄します。バッテリーの廃棄については、『製品情報ガイド』を参照してください。

目次に戻る

目次に戻る

作業を開始する前に

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

本章では、コンピュータのコンポーネントの取り付けおよび取り外しの手順について説明します。特に指示がない限り、それぞれの手順では以下の条件を満たしていることを前提とします。

- コンピュータの電源を切ると コンピュータ内部の作業を始める前にの手順をすでに完了していること。
- お使いの Dell™『製品情報ガイド』の安全に関する情報を読んでいること。
- 取り外しの手順と逆の手順を行うことで部品の取り付けが可能であること。

奨励するツール

このドキュメントで説明する操作には、以下のようなツールが必要な場合があります。

- 細めのマイナスドライバ
- プラスドライバ
- フラッシュ BIOS アップデートプログラムのフロッピーディスクまたは CD

コンピュータの電源を切る

注意: データの損失を避けるため、コンピュータの電源を切る前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。

1. オペレーティングシステムをシャットダウンします。

   a. 開いているすべてのプログラムやファイルを保存して終了します。**スタート** ボタンをクリックして、**終了オプション** をクリックします。

   b. **コンピュータの電源を切る** ウィンドウで、**電源を切る** をクリックします。
   オペレーティングシステムのシャットダウンプロセスが終了した後に、コンピュータの電源が切れます。

2. コンピュータと取り付けられているすべてのデバイスの電源が切れているか確認します。
   オペレーティングシステムをシャットダウンしたときに、コンピュータおよび接続デバイスの電源が自動的に切れなかった場合は、ここで電源を切ります

オペレーティングシステムをシャットダウンせずにコンピュータの電源を切らないでください。データが消失する危険があります。ただし、シャットダウンせずに電源を切る必要がある場合は、電源ボタンを押したまま、6 秒間待ってください。

コンピュータ内部の作業を始める前に

コンピュータの損傷を防ぎ、ご自身の身体の安全を守るために、以下の点にご注意ください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 部品やカードの取り扱いには十分注意してください。カード上の部品や接続部分には触れないでください。カードを持つ際は縁を持つか、金属製の取り付けブラケットの部分を持ってください。プロセッサのようなコンポーネントは、ピンの部分ではなく端を持つようにしてください。

注意: コンピュータシステムの修理は、資格を持っているサービス技術者のみが行ってください。デルが許可していない修理による損傷は、保証できません。

注意: ケーブルを外すときは、コネクタまたはストレインリリーフループの部分を持ち、ケーブル自身を引っ張らないでください。ケーブルによってはコネクタにロックタブが付いていることがあります。このタイプのケーブルを外す場合は、ロックタブを押し込んでからケーブルを抜いてください。コネクタを抜く際には、コネクタピンを曲げないように、まっすぐ引き抜いてください。また、ケーブルを接続する際は、両方のコネクタの向きが合っていることを確認してください。

注意: コンピュータの損傷を防ぐため、コンピュータ内部の作業を始める前に、次の手順を実行します。

1. コンピュータの電源を切ります。

注意: ネットワークケーブルを外すには、まずネットワークケーブルをコンピュータから外し、次に壁のネットワークジャックから外します。

2. コンピュータからすべての電話線または通信回線を取り外します。

3. コンピュータと接続されているすべてのデバイスをコンセントから取り外し、電源ボタンを押してシステム基板の静電気を除去します。

4. コンピュータスタンドが取り付けられている場合は、コンピュータスタンドを取り外します（手順については、コンピュータスタンド付属のマニュアルを参照してください）。ケーブルカバーが取り付けられている場合は、ケーブルカバーも取り外してください（ケーブルカバー（オプション） を参照）。

警告: 感電防止のため、カバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

5. コンピュータカバーを取り外します。

- **ミニタワーコンピュータについて**は、コンピュータカバーの取り外しを参照
- **デスクトップコンピュータについて**は、コンピュータカバーの取り外しを参照
- **スモールフォームファクターコンピュータについて**は、コンピュータカバーの取り外しを参照
- **ウルトラスモールフォームファクターコンピュータについて**は、コンピュータカバーの取り外しを参照

注意: コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

目次に戻る

目次に戻る

コンピュータのクリーニング

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

コンピュータ、キーボード、および モニター

警告: コンピュータをクリーニングする前に、コンピュータの電源ケーブルをコンセントから抜きます。コンピュータのクリーニングには、水で湿らせた柔らかい布をお使いください。液体クリーナーやエアゾールクリーナーは使用しないでください。可燃性物質を含んでいる場合があります。

- キーボードのキーの間のほこりをクリーニングするには、圧縮空気の缶スプレーを使用します。

注意: ディスプレイにはアンチグレアコーティングが施してあるので、洗剤やアルコールで拭かないでください。

- モニター画面をクリーニングするには、水で軽く湿らした柔らかくて清潔な布を使います。可能であれば、画面クリーニング専用ティッシュまたはモニターの帯電防止コーティング用に適した溶液を使ってください。
- キーボード、コンピュータ、およびモニターのプラスチック部分は、水と中性液体洗剤を 3 対 1 で混ぜ合わせた溶液で湿らした柔らかで清潔な布を使って拭きます。

  この溶液に布を浸さないでください。また、コンピュータやキーボードの内部に溶液が入らないようにしてください。

マウス

注意: マウスは、コンピュータから外してからクリーニングしてください。

画面のカーソルが飛んだり、異常な動きをする場合、マウスをクリーニングします。

光学式ではないマウスのクリーニング

1. マウスの表面は、中性洗剤の溶液で湿らした柔らかな布を使って拭きます。
2. マウスの底部にある固定リングを左に回して外し、ボールを取り出します。
3. 清潔で糸くずのでない布でボールを拭きます。
4. ボールケージのほこりや糸くずは、吹き飛ばすか、圧縮空気で除去します。
5. ボールケージの中にあるローラーが汚れている場合、消毒用アルコール（イソプロピルアルコール）を軽く浸した綿棒を使って、ローラーの汚れを拭き取ります。
6. ローラーが溝からずれてしまった場合、中央になおします。綿棒の綿毛がローラーに残っていないか確認します。
7. ボールと固定リングをマウスに取り付けて、固定リングを時計回りに回して元の位置にはめ込みます。

光学式マウスのクリーニング

マウスの表面は、中性洗剤の溶液で湿らした柔らかな布を使って拭きます。

フロッピードライブ

注意: 綿棒でドライブヘッドを拭かないでください。ヘッドの位置がずれてドライブが動作しなくなることがあります。

市販のクリーニングキットでフロッピードライブをクリーニングします。これらのキットには、通常の使用時にドライブヘッドに付いた汚れを落とすように前処理されたフロッピーディスクが入っています。

CD および DVD

注意: オプティカルドライブのレンズの手入れには、必ず圧縮空気を使用して、圧縮空気に付属しているマニュアルに従ってください。ドライブのレンズには絶対に触れないでください。

CD や DVD がスキップしたり、音質や画質が低下したりする場合、ディスクを掃除します。

1. ディスクの外側の縁を持ちます。中心の穴の縁にも触ることができます。

注意: 円を描くようにディスクを拭くと、ディスク表面に傷を付ける恐れがあります。

2. 糸くずの出ない柔らかな布で、ディスクの裏面（ラベルのない面）をディスクの中心から外側に向けて丁寧にまっすぐ拭きます。

   頑固な汚れは、水、または水と刺激性の少ない石鹸の希釈溶液で試してください。ディスクの汚れを落とし、ほこりや指紋、ひっかき傷などからディスクを保護する市販のディスククリーナーもあります。CD 用のクリーナーは DVD にも使用できます。

目次に戻る

[目次に戻る]

デスクトップコンピュータ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

お使いのデスクトップコンピュータについて

正面図

1	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスからの起動については、セットアップユーティリティを参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
2	LAN インジケータライト	このライトは、LAN（ローカルエリアネットワーク）接続が確立されていることを示します。
3	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意:** データの損失を防ぐため、電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。詳細に関しては、コンピュータの電源を切るを参照してください。 **注意:** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
4	デルバッジ	このバッジを回転させて、コンピュータの方向に合わせることができます。バッジを回転させるには、バッジの外回りに指を置き、しっかり押してバッジを回します。バッジの下側近くにあるスロットを使って回転させることもできます。
5	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで以下のさまざまな動作状態を示します。 l 消灯 - コンピュータの電源は切れています。 l 緑色の点灯 - コンピュータは、通常の動作状態です。 l 緑色の点滅 - コンピュータは、省電力モードです。 l 黄色の点滅または点灯 - 電源の問題を参照してください。 省電力モードから復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスが設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止モード、および省電力モードからの復帰の詳細に関しては、電力の管理を参照してください。 システム障害のトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、システムライトを参照してください。
6	診断ライト	診断ライトは、診断コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細については、 診断ライト を参照してください。
7	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブがアクセスされているときに、このライトが点滅します。
8	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます
9	マイク用コネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。
10	3.5 インチドライブベイ	オプションのフロッピードライブまたはオプションのメディアカードリーダー用に使用します。
11	5.25 インチドライブベ	オプティカルドライブ用に使用します。このドライブに、CDまたはDVD（サポート対象の場合）を挿入します。

	イ	

背面図

1	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
2	背面パネルコネクタ	シリアル デバイスや USB デバイスなどを、正しいコネクタに接続します(背面パネルコネクタ を参照してください)。
3	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
4	電圧切り替えスイッチ	お使いのコンピュータには、手動の電圧切り替えスイッチが装備されています。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、スイッチはお使いになる地域の AC 電源に最も合った電圧に設定してください。 **注意:** 日本では電圧切り替えスイッチを 115 V に設定してください。 また、モニターやコンピュータに接続している周辺機器もお使いになる地域の AC 電源で動作するように設定してください。
5	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
6	カバーリリースラッチ	コンピュータカバーを開くことができます。

背面パネルコネクタ

1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ:** パラレルコネクタを持つカードが内蔵パラレルコネクタと同じアドレスに設定されていることをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細については、セットアップオプションを参照してください。
2	リンク保全ライト	・ 緑色 - 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・ 橙色- 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・ 黄色 - 1 Gbps(または 1000 Mbps)ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・ オフ - コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ:** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。

		カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタを使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン入力 / マイクコネクタ	青とピンクのライン入力 / マイクコネクタには、カセットプレーヤ、CD プレーヤ、VCR などの記録 / 再生デバイスや、サウンドプログラムや電話プログラムへの音声入力または音楽入力用マイクを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	USB 2.0 コネクタ（6）	プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
8	ビデオコネクタ	VGA 対応 モニターからのケーブルを青色のコネクタに接続します。 **メモ:** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ:** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
9	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細に関しては、セットアップオプションを参照してください。

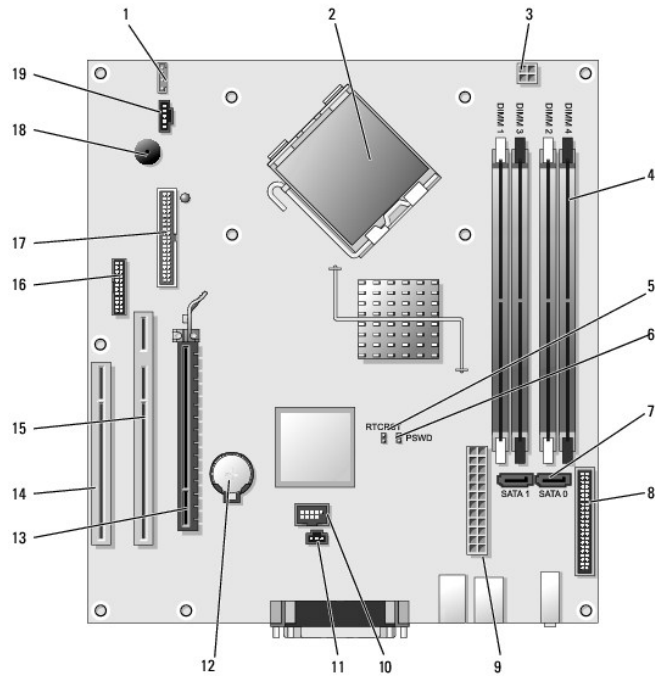
コンピュータ内部

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータカバーを開く際に、ケーブルをシステム基板から外してしまうことがないよう注意してください。

1	ドライブベイ（メディアカードリーダーまたはフロッピードライブ、オプティカルドライブおよびハードドライブ）	5	カードスロット
2	電源装置	6	ヒートシンクアセンブリ
3	オプションのシャーシイントルージョンスイッチ	7	前面 I/O パネル
4	システム基板		

システム基板コンポーネント

1	内蔵スピーカー（INT_SPKR）	11	イントルージョンスイッチコネクタ（INTRUDER）
2	プロセッサコネクタ（CPU）	12	バッテリーソケット（BATT）
3	プロセッサ電源コネクタ（12 V 電源）	13	PCI Express x16 コネクタ（SLOT1）
4	メモリモジュールコネクタ (DIMM_1、DIMM_2、DIMM_3、DIMM_4)	14	PCI コネクタ（SLOT3）
5	RTC リセットジャンパ（RTCRST）	15	PCI コネクタ（SLOT2）
6	パスワードジャンパ（PSWD）	16	シリアルコネクタ（SER2）
7	SATA コネクタ（SATA0、SATA1）	17	フロッピードライブコネクタ（DSKT）
8	前面パネルコネクタ（FNT_PANEL）	18	システム基板のスピーカー（BEEP）
9	電源コネクタ（POWER）	19	ファンコネクタ（FAN）
10	内蔵 USB（INTERNAL_USB）		

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ 745 ユーザーズ ガイド

デスクトップコンピュータ

メモ、注意、警告

メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Dell n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合は、このマニュアルの Microsoft Windows オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

モデル DCTR、DCNE、DCSM、および DCCY

2006 年 6 月　KH288　Rev. A00

[目次に戻る]

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

- 拡張カード

拡張カード

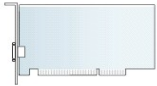
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

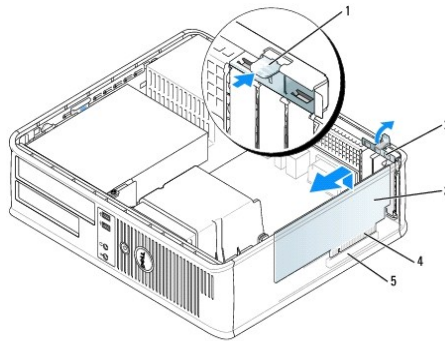
お使いの Dell™ コンピュータはシリアルポートアダプタをサポートしており、PCI カードおよび PCI Express カード用に以下のスロットを備えています。

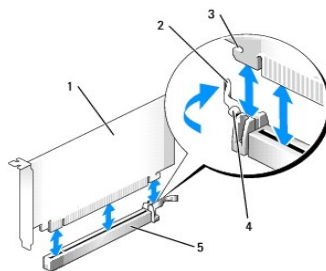
- ロープロファイル PCI カードスロットを 2 つ
- ロープロファイル PCI Express x16 カードスロットを 1 つ

メモ: お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

PCI カード

拡張カードの取り付け

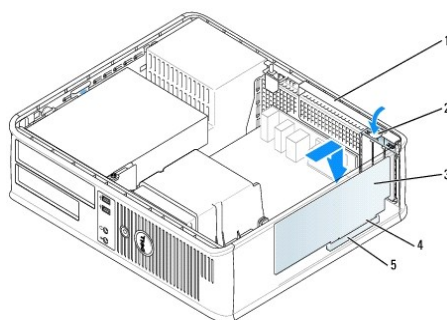
拡張カードを交換する場合、現在のカード用のドライバをオペレーティングシステムから削除します。詳細については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. カード固定ラッチのリリースタブを軽く押します。

1	リリースタブ	4	カードエッジコネクタ
2	カード固定ラッチ	5	カードコネクタ
3	カード		

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に手順 5 に進みます。
4. PCI Express x16 カードを取り付ける場合は、親指で、固定タブのレバーが外れるまで押します。

1	PCI Express x16 カード
2	レバー
3	固定スロット（すべてのカードに付いているわけではありません）
4	カードクリップタブ
5	PCI Express x16 カードコネクタ

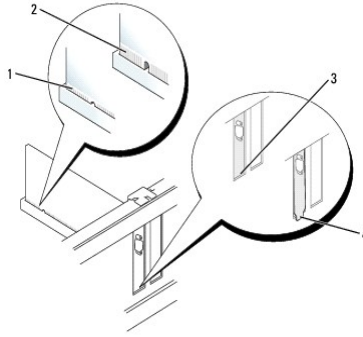
5. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

6. カードを取り付ける準備をします。

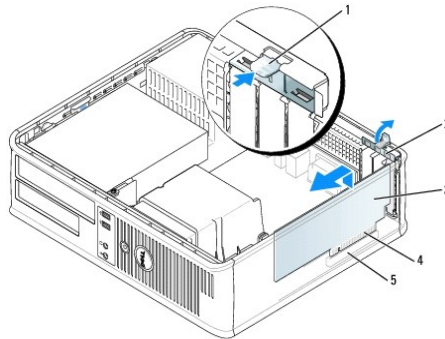
メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

1	カード固定ラッチ
2	リリースタブ
3	カード
4	カードエッジコネクタ
5	カードコネクタ

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

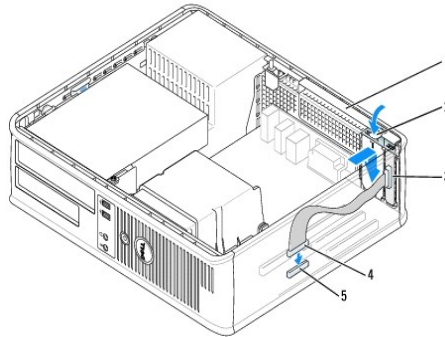
7. PCI Express カードを取り付ける場合は、固定タブのレバーを押し、カードコネクタから外れた状態で新しいカードを挿入します。

8. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	完全に装着されたカード
2	完全に装着されていないカード
3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット

9. PCI Express カードを取り付ける場合は、固定タブのレバーを押して、カード前面端にある切り込みに固定タブを合わせます。

10. カード固定ラッチを軽く下に押して、カードを固定します。

1	リリースタブ	4	カードエッジコネクタ
2	カード固定ラッチ	5	カードコネクタ
3	カード		

注意: カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

11. シリアルポートアダプタの取り付けでは、システム基板のシリアルポートアダプタコネクタ(SER2)にアダプタケーブルを接続します(システム基板コンポーネント を参照)。

1	カード固定ラッチ
2	リリースタブ
3	シリアルポートアダプタブラケット
4	シリアルポートアダプタコネクタ

5	シリアルポートアダプタシステム基板コネクタ（SER2）

12. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

13. コンピュータカバーを取り付け（コンピュータカバーの取り外し を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに差し込んで電源を入れます。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

14. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**オーディオコントローラ** を選んでから設定を **Off**（オフ）にします（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

   b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルまたは前面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

15. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

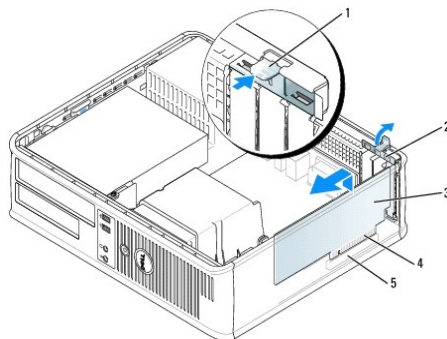
   a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller**（ネットワークコントローラ）を選んでから、設定を **Off**（オフ）にします（2セットアップユーティリティの起動 を参照）。

   b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルを背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

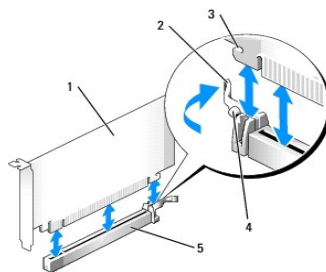
16. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを軽く押して、外側に回転させます。

1	リリースタブ	4	カードエッジコネクタ
2	カード固定ラッチ	5	カードコネクタ
3	カード		

3. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

4. PCI Express x16 カードを取り外す場合は、親指で、固定タブのレバーが外れるまで押します。

1	PCI Express x16 カード
2	レバー

3	固定スロット（すべてのカードに付いているわけではありません）
4	カードクリップタブ
5	PCI Express x16 カードコネクタ

5. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。

6. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

7. カード固定ラッチを所定の位置にはめ込みます。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータカバーを取り付け、（コンピュータカバーの取り外し を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに差し込んで電源を入れます。

9. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

10. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動し、**オーディオコントローラ** を選んでから設定を **On**（オン）にします（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

11. ネットワークアダプタカードを取り外した場合は、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller**（ネットワークコントローラ）を選択して、設定を **On**（オン）に変更します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

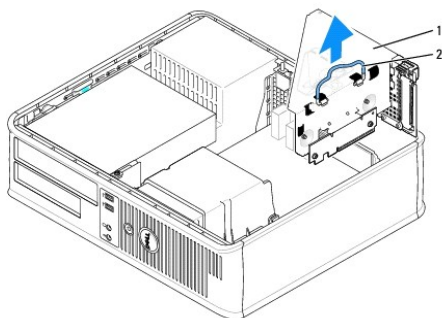
PCI カードのライザーカードケージへの取り付け

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. システム基板上の PCI3 コネクタにカードが取り付けてある場合は、これを取り外します。

3. ライザーカードケージを取り外すには、次の手順を実行します。

    a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。コンピュータから取り外すと、短くてライザーカードケージに届かなくなるケーブルをすべて外します。

    b. ハンドルを注意深く引き、ライザーカードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	ライザーカードケージ
2	ハンドル

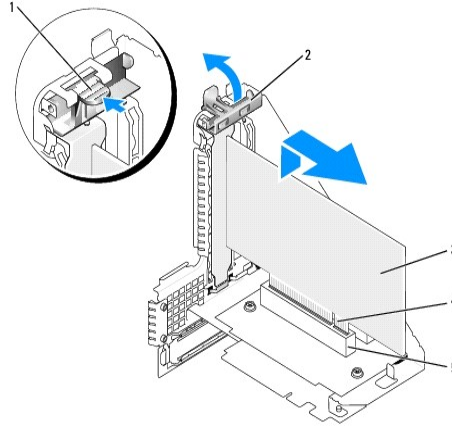
4. 新しいカードを取り付ける場合、空のカードスロット開口部用のフィラーブラケットを取り外します。

   コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。カードの角を持って、コネクタから取り外します。

メモ: カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

5. 新しいカードを取り付ける準備をします。

⚠ **警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。 感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。**

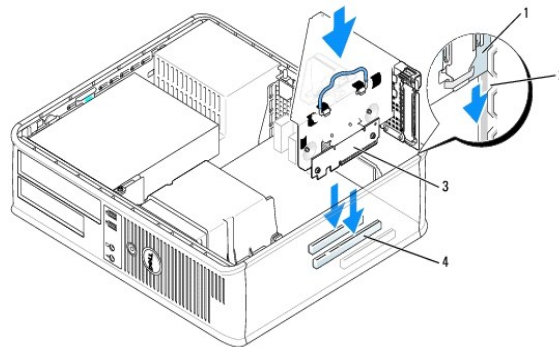
6. リリースタブを押して、カード保持ラッチを上げます。

1	リリースタブ	4	カードエッジコネクタ
2	カード固定ラッチ	5	カードコネクタ
3	カード		

7. カードをライザーカードケージのカードコネクタにしっかりと挿入します。

8. カード固定ラッチを下ろして所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

9. ライザーカードケージを取り付けるには、次の手順を実行します。

   a. ライザーカードケージ側面のタブをコンピュータ側面のスロットに合わせ、ライザーカードケージを所定の位置へ押し下げます。

   b. ライザーカードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

1	ライザーカードケージ	3	ライザーカード(2)
2	スロット	4	システム基板コネクタ(2)

10. 3ステップ で取り外したすべてのケーブルを接続します。

11. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

注意: カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。 ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

12. コンピュータカバーを取り付け(コンピュータカバーの取り外し を参照)、コンピュータとデバイスをコンセントに差し込んで電源を入れます。

13. サウンドカードを取り付ける場合、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**オーディオコントローラ** を選んでから、設定を **Off**（オフ）にします（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

14. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller**（ネットワークコントローラ）を選んで、設定を **Off**（オフ）にします（ セットアップユーティリティの起動 を参照）。

b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

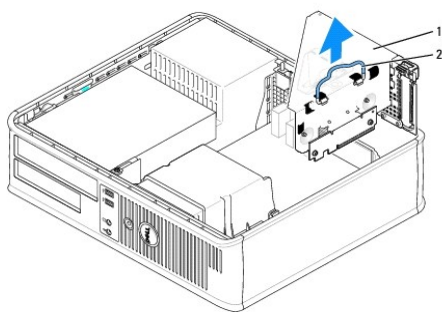
15. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

PCI カードのPCI ライザーカードケージからの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. ライザーカードケージを取り外すには、次の手順を実行します。

a. 背面パネルの開口部を通してカードに接続されているすべてのケーブルをチェックします。コンピュータから取り外すと、短くてライザーカードケージに届かなくなるケーブルをすべて外します。

b. ハンドルを注意深く引き、ライザーカードケージを持ち上げてコンピュータから取り外します。

1	ライザーカードケージ
2	ハンドル

3. タブを押して、カード固定ラッチを持ち上げます。

4. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

5. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。

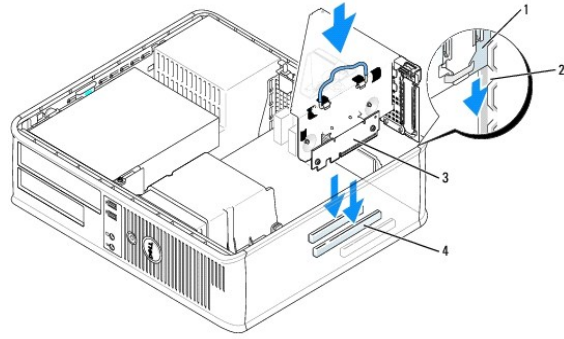
6. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

7. カード固定ラッチを下ろして所定の位置に押し込みます。

8. ライザーカードケージを取り付けるには、次の手順を実行します。

a. ライザーカードケージ側面のタブをコンピュータ側面のスロットに合わせ、ライザーカードケージを所定の位置へ押し下げます。

b. ライザーカードがシステム基板のコネクタにしっかりと装着されているか確認します。

1	ライザーカードケージ	3	ライザーカード（2）
2	スロット	4	システム基板コネクタ（2）

9. コンピュータカバーを取り付け（コンピュータカバーの取り外し を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに差し込んで電源を入れます。

10. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

11. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Audio Controller**（オーディオコントローラ）を選んでから設定を **On**（オン）にします（ セットアップユーティリティの起動 を参照）。
    b. 外付けオーディオデバイスを、コンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

12. ネットワークアダプタカードを取り外した場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller**（ネットワークコントローラ）を選択して、設定を **On**（オン）に変更します（ セットアップユーティリティの起動 を参照）。
    b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

目次に戻る

[目次に戻る]

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

プロセッサ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

プロセッサの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. ヒートシンクアセンブリの両端にある拘束ネジを緩めます。

警告: プラスティック製のシールドがあっても、ヒートシンクアセンブリは正常な動作中に過熱する場合があります。十分な時間を置いて温度が下がったのを確認してから、ヒートシンクアセンブリに触るようにします。

3. ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させ、コンピュータから取り外します。
   サーマルグリースが付いた面を上に向けて、ヒートシンクを上向きに置きます。

1	ヒートシンクアセンブリ
2	拘束ネジハウジング（2）

注意: 新しいプロセッサに新しいヒートシンクを取り付ける必要がある場合は、プロセッサを交換する際に、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

4. ソケット上にあるセンターカバーラッチの下からリリースレバーをスライドさせて、プロセッサカバーを開きます。次にレバーを後方に引いて、プロセッサを取り出します。

1	センターカバーラッチ
2	プロセッサカバー
3	プロセッサ
4	ソケット
5	リリースレバー

注意: プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

5. 注意深くプロセッサをソケットから取り外します。

   新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

プロセッサの取り付け

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

注意: プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

注意: コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

3. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。

4. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みを、ソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。

5. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わせ用切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印
4	プロセッサソケット	9	背面位置合わせ用切り込み
5	センターカバーラッチ		

注意: プロセッサへの損傷を防ぐため、プロセッサとソケットがきちんと揃っているか確認します。プロセッサを取り付ける際は、力を入れすぎないでください。

6. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。

7. プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

   プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

8. カチッと所定の位置に収まるまで、ソケットリリースレバーをソケットの方に戻して、プロセッサを固定します。

9. ヒートシンクの下面からサーマルグリースを除去してください。

注意: 新しいサーマルグリースを塗ります。サーマルグリースは、重要な熱接着機能を持ち、プロセッサの最適稼動に必要です。

10. プロセッサの表面に、新しいサーマルグリースを塗ります。

11. ヒートシンクアセンブリを取り付けます。

   a. ヒートシンクアセンブリをヒートシンクアセンブリブラケットに元のように配置します。

   b. ヒートシンクアセンブリをコンピュータの底面方向に動かし、2 つの拘束ネジを締めます。

注意: ヒートシンクアセンブリが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンクアセンブリ
2	ヒートシンクアセンブリブラケット
3	拘束ネジハウジング（2）

12. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

目次に戻る

[目次に戻る]

ドライブ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- SATA（シリアルATA）ハードドライブを 1 台
- オプションのフロッピードライブまたはメディアカードリーダーを 1 台
- オプションの SATA オプティカルドライブを 1 台

メモ: このコンピュータのドライブベイおよびコントローラの数には限りがあるため、すべてのデバイスを一度に接続することはできません。

メモ: オプティカルドライブまたは 3.5 インチデバイス（フロッピードライブまたはメディアカードリーダー）を実装しないでコンピュータを稼動する場合、ドライブにはドライブベイカバーを取り付ける必要があります。ドライブベイカバーが必要な場合は、デルにお問い合わせください。

1	オプティカルドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

SATA ハードドライブまたはオプティカルドライブを、システム基板の「SATA」というラベルのコネクタに接続します（システム基板コンポーネント を参照）。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

SATA コネクタ

1	インタフェースケーブルコネクタ
2	インタフェースコネクタ

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（ケーブルの片側に色帯が付いています。シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません）が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意： インタフェースケーブルを誤った方向に差し込むと、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

プルタブが付いたケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

SATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。

オプティカルドライブ

警告：本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

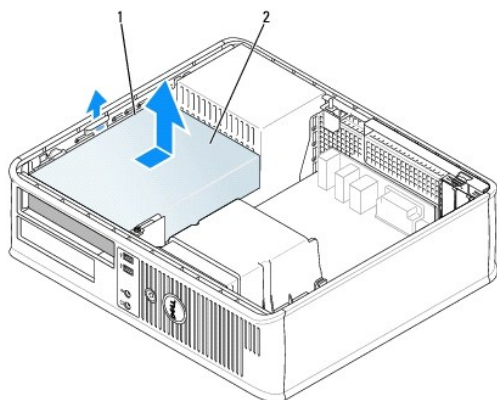
警告：感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

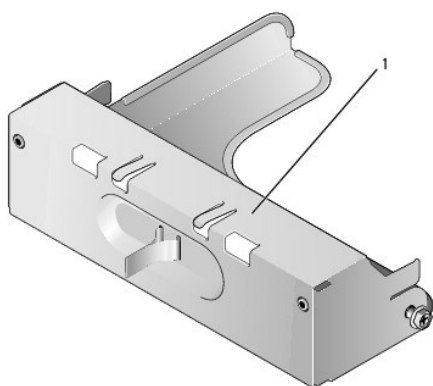
メモ： オプティカルドライブまたは 3.5 インチデバイス（フロッピードライブまたはメディアカードリーダー）を実装しないでコンピュータを稼動する場合、ドライブにはドライブベイカバーを取り付ける必要があります。ドライブベイカバーが必要な場合は、デルにお問い合わせください。

オプティカルドライブの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

注意： ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

2. ドライブリリースラッチを引き上げ、ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。次に、ドライブをコンピュータから持ち上げて取り外します。

1	ドライブリリースラッチ
2	オプティカルドライブ

3. 電源ケーブルおよびデータケーブルを、ドライブの背面から取り外します。

1	オプティカルドライブベイカバー

4. オプティカルドライブを実装しない場合は、オプティカルドライブベイカバーをドライブベイに挿入し、カチッと所定の位置に収まるまで押し込みます。ドライブベイカバーが必要な場合は、デルにお問い合わせください。

オプティカルドライブの取り付け

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

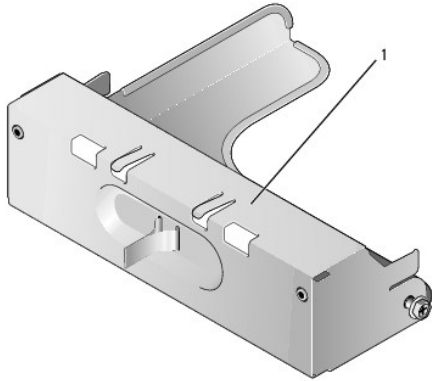
   ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。

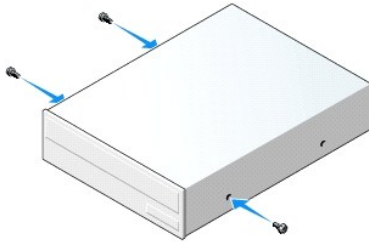
2. 新しいドライブを取り付ける場合は、以下の手順を行います。

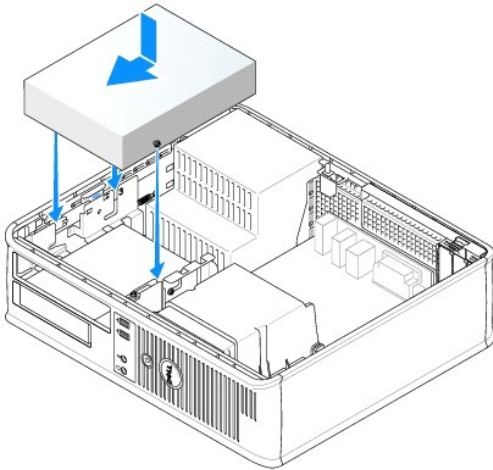
   a. ドライブベイカバーの上部にある 2 つの留め金を押し、ベイカバーをコンピュータの前面方向に動かします。

   b. ドライブベイカバーから 3 本の肩付きネジを外します。

   c. 3 本の肩付きネジを新しいフロッピードライブの側面に挿入して締めます。

   d. ドライブベイに取り付けられているフロッピードライブベイカバーを引っ張って外します。

1	フロッピードライブベイカバー

3. 既存のドライブを交換する場合は、以下の作業を行います。
   a. 既存のドライブから 3 本の肩付きネジを外します。
   b. 3 本の肩付きネジを新しいフロッピードライブの側面に挿入して締めます。

4. 電源ケーブルおよびデータケーブルをドライブに接続します。

5. 肩付きネジをネジガイドに合わせ、カチッと所定の位置に収まるまでドライブをベイにスライドさせます。

6. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

7. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

8. **Drives** の **Drive** オプション（**0** または **1**）を設定し、構成情報をアップデートします。詳細は、セットアップユーティリティを参照してください。

9. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

フロッピードライブとメディアカードリーダー

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メモ: オプティカルドライブまたは 3.5 インチデバイス（フロッピードライブまたはメディアカードリーダー）を実装しないでコンピュータを稼動する場合、ドライブにはドライブベイカバーを取り付ける必要があります。ドライブベイカバーが必要な場合は、デルにお問い合わせください。

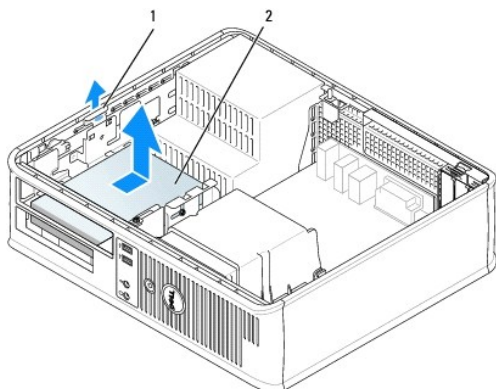
フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り外し

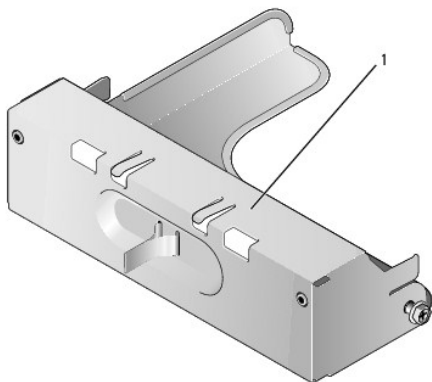
1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

メモ: 以下の手順では、オプティカルドライブを完全に取り外す必要はないので、オプティカルドライブを接続しているケーブルを外す必要はありません。

2. オプティカルドライブを慎重に取り外します（オプティカルドライブ を参照）。

注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

3. ドライブリリースラッチを引き上げ、フロッピードライブまたはメディアカードリーダーをコンピュータ背面の方向にスライドさせます。次に、ドライブをコンピュータから持ち上げて取り外します。

1	ドライブリリースラッチ
2	フロッピードライブ

4. フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの背面から電源ケーブルおよびデータケーブルを取り外します。

1	フロッピードライブベイカバー

5. フロッピードライブまたはメディアカードリーダーを取り付けない場合は、フロッピードライブベイカバーをドライブベイに挿入し、カチッと所定の位置に収まるまで押し込みます。ドライブベイカバー

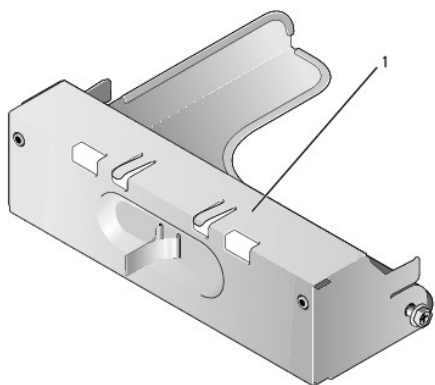
が必要な場合は、デルにお問い合わせください。

フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り付け

1. 新しいドライブまたはメディアカードリーダーを取り付ける場合

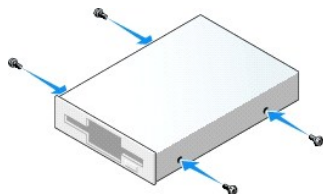
   a. ドライブベイカバーの背面で、細めのマイナスドライバを使って、慎重にベイカバーを外します。

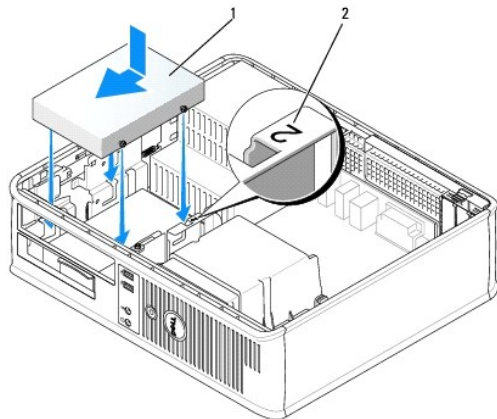
   b. ドライブベイカバーから 4 本の肩付きネジを外します。

   c. ドライブベイに取り付けられているフロッピードライブベイカバーを引っ張って外します。

1	フロッピードライブベイカバー

2. 既存のドライブまたはメディアカードリーダーを取り付ける場合

   既存のドライブまたはメディアカードリーダーから 4 本の肩付きネジを外します。

3. 新しいフロッピードライブまたはメディアカードリーダーの側面に 4 本の肩付きネジを挿入して締めます。

4. フロッピードライブまたはメディアカードリーダーに電源ケーブルおよびデータケーブルを取り付けます。

5. 肩付きネジをネジガイドに合わせ、カチッと所定の位置に収まるまでドライブまたはメディアカードリーダーをベイにスライドさせます。

1	電源ケーブル
2	スロット検証番号

6. オプティカルドライブを取り付けます（オプティカルドライブ を参照）。
7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。
8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。
9. セットアップユーティリティを起動し、**FD ドライブ** オプションで新しいフロッピードライブを有効に設定します。（セットアップユーティリティを参照）。
10. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

ハードドライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

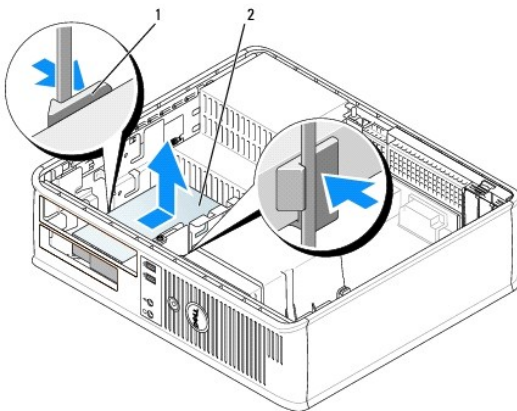
ハードドライブの取り外し

1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

メモ: 以下の手順では、オプティカルドライブおよびフロッピードライブを完全に取り外す必要はないので、これらの 2 つのドライブを接続しているケーブルを外す必要はありません。

4. ベイからオプティカルドライブを慎重に取り外します（オプティカルドライブ を参照）。
5. ベイからフロッピードライブを慎重に取り外します（フロッピードライブとメディアカードリーダー を参照）。
6. ドライブ両端の 2 つのプラスチックの固定クリップを押し込み、ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。

注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

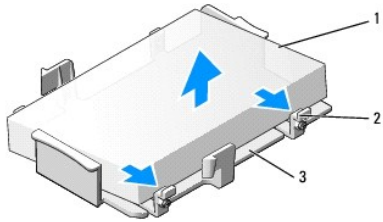
7. ドライブを持ち上げてコンピュータから出し、電源ケーブルおよびデータケーブルをドライブから外します。

1	固定クリップ（2）
2	ハードドライブ

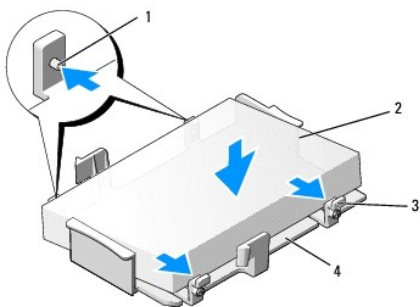
ハードドライブの取り付け

1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

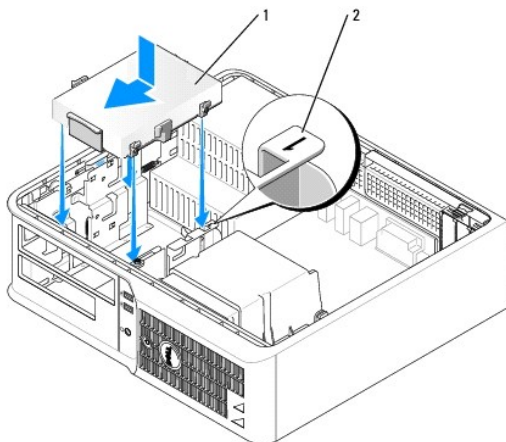
注意： ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

2. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。

3. 交換用のハードドライブにプラスチックのハードドライブブラケットがない場合は、既存のドライブからブラケットをカチッと取り外します。

1	ハードドライブ
2	リリースタブ（2）
3	プラスチック製のハードドライブブラケット

4. ブラケットを新しいドライブにはめ込んで取り付けます。

1	固定タブ（2）	3	リリースタブ（2）
2	ドライブ	4	プラスチック製のハードドライブブラケット

5. 電源ケーブルおよびデータケーブルをドライブに接続します。

6. ドライブの正しいスロットの位置を確認し、カチッと所定の位置に収まるまでドライブをベイにスライドさせます。

1	ハードドライブ
2	スロット検証番号

7. フロッピードライブとオプティカルドライブを取り外します。

8. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

10. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。

11. コンピュータの電源を入れます。

12. セットアップユーティリティを起動して、適切な**Primary Drive**（プライマリドライブ）オプション（**0** または **2**）をアップデートします。（セットアップユーティリティの起動を参照）、

13. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

14. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

15. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします（ Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

16. ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

目次に戻る

[目次に戻る]

I/O パネル

I/O パネルの取り外し

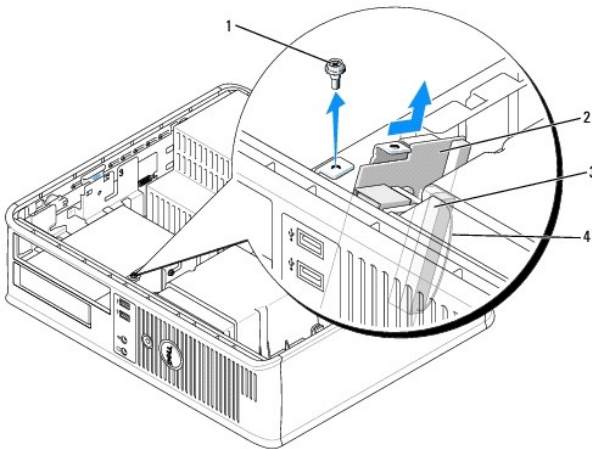
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メモ: ケーブルを外す前に、新しい I/O パネルを取り付けるときに正しく配線できるよう、ケーブルのすべての配線経路をメモしておいてください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. ケーブルのプルループを引っ張って、I/O パネルからケーブルを外します。
3. I/O パネルをデスクトップコンピュータに固定しているネジを外します。

注意: I/O パネルをコンピュータから引き出すときには、特に注意を払ってください。注意を怠ると、ケーブルコネクタおよびケーブル配線クリップに損傷を与える場合があります。

4. I/O パネルを慎重に動かして、コンピュータから引き出します。

1	固定ネジ
2	I/O パネル
3	I/O ケーブルコネクタ
4	I/O コネクタプルループ

I/O パネルの取り付け

1. I/O パネルを取り付けるには、取り外し手順を逆の順序で実行します。

メモ: I/O パネルブラケットにあるガイドを使って I/O カードを正しい位置に合わせ、I/O パネルブラケットにある切り込みを使ってカードを設置してください。

[目次に戻る]

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

電源装置

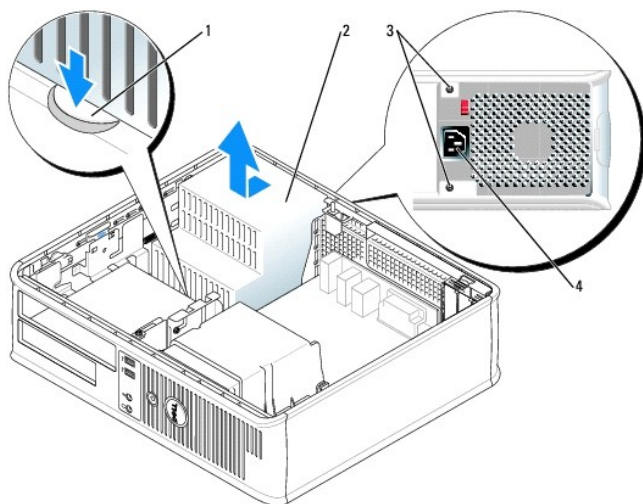
電源装置の交換

警告: **本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

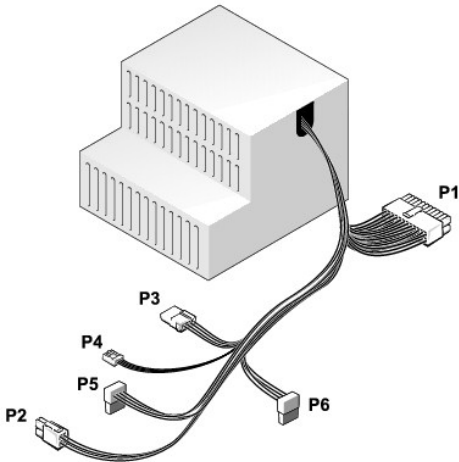
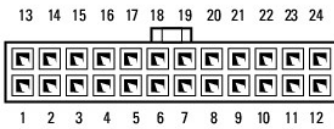
   DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータシャーシ内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. コンピュータシャーシの背面に電源装置を取り付けている 2 本のネジを外します。
4. オプティカルドライブを慎重に取り外します（オプティカルドライブ を参照）。
5. コンピュータシャーシの底面にあるリリースボタンを押します。

1	リリースボタン
2	電源装置
3	ネジ（2）
4	AC 電源コネクタ

6. 電源装置を、コンピュータの前側へ約 2.5 cm ほどスライドさせます。
7. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
8. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
9. 電源装置をコンピュータシャーシの背面に固定するネジを取り付けます。
10. DC 電源ケーブルを接続します。

11. オプティカルドライブを取り付けます（オプティカルドライブ を参照）。

12. AC 電源ケーブルをコネクタに接続します。

13. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

DC 電源コネクタ

DC 電源コネクタ P1

13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	GND	黒色
4	+5 VDC	赤色
5	GND	黒色
6	+5 VDC	赤色
7	GND	黒色
8	PS_PWRGOOD*	灰色
9	P5AUX	紫色
10	+12 VDC	白色
11	+12 VDC	白色
12	+3.3 VDC	橙色
13	+3.3 VDC/SE	橙色
14	+12 VDC*	青色
15	GND	黒色
16	PWR_PS_ON*	緑色
17	GND	黒色
18	GND	黒色
19	GND	黒色
20	NC	NC
21	+5 VDC	赤色

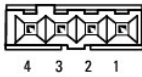
22	+5 VDC	赤色
23	+5 VDC	赤色
24	GND	黒色
* 18 AWG ワイヤの代わりに 22 AWG ワイヤを使用		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	GND	黒色
2	GND	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+12VDC	黄色
2	GND	黒色
3	GND	黒色
4	+5 VDC	赤色

DC 電源コネクタ P4

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色
2	GND	黒色
3	GND	黒色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P5 および P6

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	GND	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	GND	黒色
5	+12 VDC	黄色

目次に戻る

目次に戻る

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

コンピュータカバーの取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. 背面パネルのパドロックリングにパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。
3. 図に示されているカバーリリースラッチを確認します。次に、カバーを持ち上げながらリリースラッチを後方にスライドさせます。
4. コンピュータカバーの側面を持ち、ヒンジタブをてこの支点としてカバーを上に動かします。
5. カバーをヒンジタブから取り外し、柔らかく傷が付きにくい場所に置いておきます。

警告: グラフィックカードのヒートシンクは、通常の操作でも大変熱くなる可能性があります。グラフィックカードのヒートシンクの熱が冷めるまで十分な時間を置いてから触れるようにします。

1	セキュリティケーブルスロット
2	カバーリリースラッチ
3	パドロックリング

目次に戻る

目次に戻る

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

デスクトップコンピュータの仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	Intel® Pentium 4® プロセッサ、Pentium® D プロセッサ、Celeron® プロセッサ、Core™ プロセッサ
内蔵キャッシュ	512 KB 以上のパイプラインバースト、8 ウェイセットアソシエィティブ、ライトバック SRAM

メモリ	
タイプ	533 MHz、667 MHz、800 MHz の DDR2 SDRAM **メモ:** 2 GB 800 MHz メモリモジュールはサポート対象外です。
メモリのコネクタ	4
対応するメモリモジュール	256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB 非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル: 512 MBシングルチャンネル: 256 MB
最大搭載メモリ	**533 MHz または 667 MHz**: 8 GB **800 MHz**: 4 GB
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Intel® Q965 Express
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	32 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ（NVRAM）	8 Mb
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.03 および 2.0 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能

ビデオ	
タイプ	Intel® グラフィックメディアアクセラレータ 3000 または PCI Express x16 グラフィックスカード

オーディオ	
タイプ	ADI 1983 HDA（ハイ・デフィニッション・オーディオ）
ステレオ変換	20 ビット AD 変換および 20 ビット DA 変換

コントローラ	
ドライブ	2 つの SATA コントローラがそれぞれ 1 つのデバイスをサポート

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 2.3

	PCI Express 1.0A SATA 1.0A および 2.0 USB 2.0
バス速度	PCI: 133 MB/s PCI Express x16:8 GB/s 双方向スピード SATA: 1.5 Gbps および 3.0 Gbps USB: 480 Mbps
カード	オプションのライザーカードケージでハーフレングスカードおよびフルハイトカードをサポート
デフォルト: ライザーカードケージなし	ロープロファイルカードをサポート
PCI	
コネクタ	2 つ
カードサイズ	ロープロファイル
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット
PCI Express	
コネクタ	x16、1 つ
カードサイズ	ロープロファイル
電源	最大 25 W
コネクタサイズ	120 ピン(x16)
コネクタデータ幅(最大)	16 PCI Express レーン(x16)
オプション: フルハイト PCI Express ライザーカードケージ	ロープロファイルカードおよびフルハイトカードをサポート
PCI	
コネクタ	2 つ
カードサイズ	ロープロファイルカード × 1 およびフルハイトカード × 1
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット
PCI Express	
コネクタ	x16、1 つ
カードサイズ	フルハイト
電源	最大 25 W
コネクタサイズ	120 ピン(x16)
コネクタデータ幅(最大)	16 PCI Express レーン(x16)
オプション: フルハイト PCI ライザーカードケージ	ロープロファイルカードおよびフルハイトカードをサポート
PCI	
コネクタ	3 つ
カードサイズ	ロープロファイルカード × 1 およびフルハイトカード × 2
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット

ドライブ	
外部アクセス可能	3.5 インチドライブ × 1 オプティカルドライブまたはオプションのセカンドハードドライブ用ベイ × 1
内部アクセス可能	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換
パラレル	双方向 25 ピンコネクタ(メス)
ビデオ	15 ピン VGA コネクタ(メス)
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
セカンダリシリアルポートアダプタ付き PS/2(オプション)	6 ピンミニ DIN × 2
USB	USB 2.0 互換コネクタ(前面パネル X 2、背面パネル X 6)
オーディオ	ライン入力 / マイクとライン出力用の 2 つのコネクタ、前面パネル

	のヘッドフォンおよびマイク用の 2 つのコネクタ
システム基板コネクタ:	
SATA	7 ピンコネクタ × 2
内蔵 USB	オプションのメディアカードリーダー(3.5 インチベイデバイス)用の 10 ピンヘッダー
フロッピードライブ	34 ピンコネクタ
シリアル	オプションのセカンドシリアルポートカード用 12 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ
PCI 2.3	120 ピンコネクタ × 2
前面パネル	40 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	Microsoft® Windows® XP では、Windows Security ウィンドウを表示、MS-DOS モードでは、コンピュータを再スタート(再起動
<F2> または<Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動(システム起動時のみ)
<Ctrl><Alt><b>	セットアップユーティリティの **Boot Sequence** オプションのデバイスからではなく、PXE(リモート起動環境)によって指定されたネットワーク環境からコンピュータを自動的に起動(システム起動時のみ)
<F12> または<Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー(システム起動時のみ)、またハードドライブおよびシステム診断プログラムを実行するオプションを表示

ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト - スリープモードのときは緑色に点滅、電源がオンのときは緑色に点灯 黄色のライト - 黄色の点滅は、インストールされたデバイスに問題があることを示し、黄色の点灯は内蔵電源の問題を示す(電源の問題 を参照)
ハードドライブアクセスライト	緑色
リンクライト	ネットワーク接続時は緑色の点灯
リンク保全ライト(内蔵ネットワークアダプタ上)	10 Mb 伝送時は緑色のライト 100 Mb 伝送時は橙色のライト 1000 Mb(1 Gb)伝送時は黄色のライト
動作ライト(内蔵ネットワークアダプタ上)	黄色の点滅ライト
診断ライト	前面パネルある 4 つのライト。診断ライトを参照してください。
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電源	
DC 電源装置:	**メモ:** コンピュータの電源を抜くと、消費電力はゼロ
ワット数	280 W
熱消費	955 BTU/hr **メモ:** 熱消費は電源供給率に基づいて算出されます。
電圧	手動設定電源装置 - 50/60 Hz で 90～135 V、50/60 Hz で 180～265 V
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

寸法	
縦幅	11.4 cm
横幅	39.9 cm
長さ	35.3 cm
重量	10.4 kg

環 境	
温度:	
動作時	10～35 ℃
保管時	-40～65 ℃
相対湿度	20～80 %（結露しないこと）
最大耐久震度:	
動作時	0.25 G（3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分）
保管時	0.5 G（3～200 Hz、1 オクターブ / 分）
最大耐久衝撃:	
動作時	50.8 cm / 秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm / 秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	-15.2～3,048 m
保管時	-15.2～10,668 m

目次に戻る

FCC 規定（米国のみ）

FCC クラス B

この装置は、ラジオ周波数のエネルギーを発生、使用、放射する可能性があります。製造元のマニュアルに従わずに取り付けて使用した場合、ラジオやテレビに受信障害を生じさせる場合があります。本装置は、試験の結果、FCC 規則パート 15 に準拠するクラス B デジタル装置の規制に適合しています。

この装置は FCC（米国連邦通信委員会）規定の第 15 項に適合しています。次の 2 つの条件にしたがって使用してください。

1. 本装置が有害な障害を引き起こさないこと。
2. 本装置は、受信障害を起こすと、望ましくない操作が必要になる場合もあります。

注意: FCC 規則では、デルによって明確に許可されていない変更修正を行った場合、その装置を使用する権限が無効になることがあると規定されています。

この規制は、個人の家に取り付けた場合に、有害な障害に対する適正な保護を提供するよう設計されています。ただし、特定の設定で電波障害が発生しないという保証はありません。本装置のスイッチをオンオフすることにより、本装置がラジオやテレビに受信障害を引き起こしていることが確認された場合は、次の方法をお試しになるようお勧めします。

- 受信アンテナの方向を変えてください。
- 受信機に対してシステムを再配置してください。
- 受信機からシステムを遠ざけてください。
- システムを別のコンセントにつないで、システムと受信機を別々の分岐回路上に置いてください。

詳細については、デルの担当者またはラジオ / テレビの技術者にご相談ください。

次の情報は、FCC 規則に準拠する本書で取り扱う装置に関するものです。

- 製品名: Dell™ OptiPlex™ 745
- Model numbers: DCTR、DCNE、DCSM、DCCY
- 会社名:
  Dell Inc.
  Worldwide Regulatory Compliance & Environmental Affairs
  One Dell Way
  Round Rock, TX 78682 USA
  512-338-4400

メモ: 認可機関の詳細情報に関しては、『サービス & サポートのご案内』を参照してください。

目次に戻る

情報の検索方法

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

メモ: 一部の機能やメディアはオプションなので、出荷時にコンピュータに搭載されていない場合があります。特定の国では使用できない機能やメディアもあります。

メモ: 追加の情報がコンピュータに同梱されている場合があります。

何をお探しですか?	こちらをご覧ください
• コンピュータの診断プログラム • コンピュータのドライバ • コンピュータのマニュアル • デバイスのマニュアル • DSS(デスクトップシステムソフトウェア)	**『Drivers and Utilities CD』(『ResourceCD』ともいいます)** **メモ:** 『*Drivers and Utilities CD*』はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。 マニュアルおよびドライバは、本コンピュータにすでにインストールされています。この CD を使って、ドライバの再インストール(ドライバと ユーティリティの再インストール を参照)、Dell Diagnostics(診断)プログラムの実行(Dell Diagnostics(診断)プログラム を参照)、マニュアルへのアクセスが可能です。 CD 内に Readme ファイルが含まれている場合があります。この Readme ファイルでは、コンピュータの技術的変更に関する最新のアップデートや、技術者または専門知識をお持ちのユーザーを対象とした高度な技術資料を参照できます。 **メモ:** ドライバおよびマニュアルのアップデート版は、**support.jp.dell.com** で入手できます。
• コンピュータのセットアップ方法 • 基本的なトラブルシューティングの情報 • Dell Diagnostics(診断)プログラムの実行方法 • エラーコードおよび診断ライト • ツールとユーティリティ • 部品の取り外しおよび取り付け方法	**クイックリファレンスガイド** **メモ:** このマニュアルはオプションの場合があるため、必ずしもお使いのコンピュータに付属しているとは限りません。 **メモ:** このマニュアルは、PDF 形式のものをウェブサイト(**support.jp.dell.com**)でご覧いただけます。
• 安全にお使いいただくための注意 • 認可機関の情報 • 作業姿勢に関する情報 • エンドユーザライセンス契約	**Dell™ 製品情報ガイド**

• サービスタグとエクスプレスサービスコード • Microsoft Windows ライセンスラベル	**サービスタグおよび Microsoft® Windows® ライセンス** これらのラベルはお使いのコンピュータに貼られています。 • サービスタグは、**support.jp.dell.com** をご参照の際に、またはサポートへのお問い合わせの際に、コンピュータの識別に使用します。 • エクスプレスサービスコードを利用すると、サポートに直接電話で問い合わせることができます。
• 技術情報 -トラブル解決ナビ、Q&A • サービスと保証 - 問い合わせ先、保証、および修理に関する情報 • サービスおよびサポート - サービス契約 • 参照資料 - コンピュータのマニュアル、コンピュータの設定の詳細、製品の仕様、およびホワイトペーパー • ダウンロード - 認定されたドライバ、パッチ、およびソフトウェアのアップデート • デスクトップシステムソフトウェア（DSS） - お使いのコンピュータでオペレーティングシステムを再インストールする場合は、DSS ユーティリティも再インストールする必要があります。DSS は、お使いのオペレーティングシステムのための重要な更新を提供し、Dell™ 3.5 インチ USB フロッピードライブ、Intel Pentium プロセッサ、オプティカルドライブ、および USB デバイスをサポートします。DSS はお使いの Dell コンピュータが正しく動作するために必要なものです。ソフトウェアはお使いのコンピュータおよびオペレーティングシステムを自動的に検知して、設定に適した更新をインストールします。	**デルサポートサイト - support.jp.dell.com** **メモ:** 適切なサポートサイトを表示するには、お住まいの地域または業務部門を選択します。 デスクトップ**システムソフトウェアは、support.jp.dell.com にてダウンロードできます。** **メモ: support.jp.dell.com** のユーザーインタフェースは、選択の仕方によって異なります。
• Windows XP の基本情報 • プログラムとファイルの操作方法 • デスクトップのカスタマイズ方法	**Windows ヘルプとサポートセンター** 1. **スタート**→ **ヘルプとサポート** とクリックします。 2. 問題に関連する用語や文節をボックスに入力して、矢印アイコンをクリックします。 3. 問題に関連するトピックをクリックします。 4. 画面に表示される指示に従ってください。
• オペレーティングシステムの再インストール方法	**オペレーティングシステム CD** **メモ:**『オペレーティングシステム CD』はオプションなので、出荷時にお使いのコンピュータに必ずしも付属しているわけではありません。 オペレーティングシステムは、本コンピュータにすでにインストールされています。オペレーティングシステムを再インストールする場合は、『オペレーティングシステム CD』を使用します。Windows XP の再インストールを参照してください。 オペレーティングシステムを再インストールしたら、オプションの『Drivers and Utilities CD』（『ResourceCD』）を使用してコンピュータに同梱のデバイスのドライバを再インストールします。詳細に関しては、『Drivers and Utilities CD』（『ResourceCD』ともいいます）を参照してください。 オペレーティングシステムのプロダクトキーラベルは、コンピュータに貼られています（サービスタグおよび Microsoft® Windows® ライセンス を参照）。 **メモ:** 注文されたオペレーティングシステムによって、CD の色が違います。

目次に戻る

目次に戻る

困ったときは

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

テクニカルサポート

警告: コンピュータカバーを取り外す必要がある場合、まずコンピュータの電源ケーブルとモデムケーブルをすべてのコンセントから取り外します。

1. トラブルシューティングツールと ユーティリティ の手順を完了します。
2. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します(Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照)。
3. Diagnostics(診断)チェックリストを印刷して(Diagnostics(診断)チェックリストを参照)記入します。
4. インストールとトラブルシューティングの手順については、デルサポート(**support.jp.dell.com**)から、広範囲をカバーするオンラインサービスを利用してください。
5. これまでの手順で問題が解決されない場合、デルにお問い合わせください。

メモ: デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。サポート担当者がコンピュータでの操作をお願いすることがあります。

デルのオートテレフォンシステムの指示に従って、エクスプレスサービスコードを入力すると、電話は適切なサポート担当者に転送されます。

サポートサービスのご利用方法に関しては、サポートサービスを参照してください。

オンラインサービス

デルサポートへは、**support.jp.dell.com** でアクセスすることができます。**サポートサイトへようこそ** のページから、サポートツール、情報などをお選びください。

インターネット上でのデルへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- World Wide Web

  www.dell.com/

  www.dell.com/ap/(アジア / 太平洋諸国)

  www.dell.com/jp(日本)

  www.euro.dell.com(ヨーロッパ)

  www.dell.com/la/(南アメリカおよびカリブ海地域)

  www.dell.ca(カナダ)

- サポートウェブサイト

  mobile_support@us.dell.com

  support@us.dell.com

  la-techsupport@dell.com(南アメリカおよびカリブ海地域のみ)

  apsupport@dell.com(アジア太平洋地域)

  support.jp.dell.com(日本)

  support.euro.dell.com(ヨーロッパ)

24 時間納期案内電話サービス

注文した Dell™ 製品の状況を確認するには、**support.jp.dell.com** にアクセスするか、または、24 時間納期案内電話サービスにお問い合わせください。音声による案内で、注文について調べて報告するために必要な情報をお伺いします。

サポートサービス

デル製品に関するお問い合わせは、デルのサポートサービスをご利用ください。サポートスタッフはその情報を元に、正確な回答を迅速に提供します。

テクニカルサポートにお問い合わせになる場合は、まず 困ったときは を参照してから、デルへのお問い合わせ に記載されているお住まいの地域の番号にご連絡ください。

ご注文に関する問題

欠品、誤った部品、間違った請求書などの注文に関する問題があれば、デルカスタマーケアにご連絡ください。お電話の際は、納品書または出荷伝票をご用意ください。

製品情報

デルが提供しているその他の製品に関する情報が必要な場合や、ご注文になりたい場合は、デルウェブサイト **www.dell.com / jp** をご覧ください。お住まいの地域のお問い合わせ先電話番号および販売担当者の電話番号に関しては、デルへのお問い合わせを参照してください。

保証期間中の修理または返品について

『サービス & サポートのご案内』をご覧ください。

お問い合わせになる前に

メモ: お電話の際は、エクスプレスサービスコードをご用意ください。エクスプレスサービスコードがおわかりになると、デルで自動電話サポートシステムをお受けになる場合に、より効率良くサポートが受けられます。サービスタグ（コンピュータの背面または下面にあります）が必要になる場合があります。

必ず Diagnostics（診断）チェックリスト（Diagnostics（診断）チェックリストを参照）に記入してください。デルへお問い合わせになるときは、できればコンピュータの電源を入れて、コンピュータの近くから電話をおかけください。キーボードからコマンドを入力したり、操作時に詳細情報を説明したり、コンピュータ自体でのみ可能な他のトラブルシューティング手順を試してみるようにお願いする場合があります。システムのマニュアルがあることを確認してください。

警告: コンピュータ内部の作業を始める前に、『製品情報ガイド』の安全にお使いいただくための注意に従ってください。

Diagnostics（診断）チェックリスト
名前:
日付:
住所:
電話番号:
サービスタグ（コンピュータ背面または下面にあるバーコード）:
エクスプレスサービスコード:
返品番号（デルサポート担当者から提供された場合）:
オペレーティングシステムとバージョン:
周辺機器:
拡張カード:
ネットワークに接続されていますか?　はい　いいえ
ネットワーク、バージョン、およびネットワークアダプタ:
プログラムとバージョン:
システムのスタートアップファイルの内容を確認するときは、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。コンピュータにプリンタを接続している場合、各ファイルを印刷します。印刷できない場合、各ファイルの内容を記録してからデルにお問い合わせください。
エラーメッセージ、ビープコード、または診断コード:
問題点の説明と実行したトラブルシューティング手順:

デルへのお問い合わせ

インターネット上でのデルへのアクセスは、次のアドレスをご利用ください。

- **www.dell.com/jp**
- **support.jp.dell.com**（サポート）

デルへお問い合わせになる場合、次の表の E-メールアドレス、電話番号、およびコードをご利用ください。国際電話のかけ方については、国内または国際電話会社にお問い合わせください。

メモ: デルへの問い合わせ情報は、本書の印刷時で確定している内容であり、変更される場合があります。

国（市） 国際電話アクセスコード 国番号 市外局番	**部署名またはサービス地域、 ウェブサイトおよび E-メールアドレス**	**市内番号 フリーダイヤル**
日本（川崎） 国際電話アクセスコード: **001** 国番号: **81** 市外局番: **44**	Web サイト: **support.jp.dell.com**	
	テクニカルサポート(Dell Precision、OptiPlex、およびLatitude)	フリーダイヤル:0120-198-433
	テクニカルサポート（海外から）（Dell Precision™、OptiPlex™、および Latitude）	81-44-556-3894
	Fax 情報サービス	044-556-3490
	24 時間納期情報案内サービス	044-556-3801
	カスタマーケア	044-556-4240
	ビジネスセールス本部（従業員数 400 人未満）	044-556-1465
	法人営業本部（従業員数 400 人以上）	044-556-3433
	官公庁 / 研究・教育機関 / 医療機関セールス	044-556-5963
	デルグローバルジャパン	044-556-3469
	個人のお客様	044-556-1760
	代表	044-556-4300

目次に戻る

目次に戻る

用語集

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

A B C D E F G H I K L M N P R S T U V W X Z あ か さ た な は ま や ら

この用語集に収録されている用語は、情報の目的として提供されています。お使いのコンピュータに搭載されている機能についての記載がない場合もあります。

A

AC - alternating current（交流）- コンピュータの AC アダプタ電源ケーブルをコンセントに差し込むと流れる電気の様式です。

ACPI - advanced configuration and power interface - Microsoft Windows オペレーティングシステムがコンピュータをスタンバイモードや休止状態モードにして、コンピュータに接続されている各デバイスに供給される電力量を節約できる電源管理規格です。

AGP - accelerated graphics port - システムメモリをビデオ関連の処理に使用できるようにする専用のグラフィックスポートです。AGP を使うとビデオ回路とコンピュータメモリ間のインタフェースが高速化され、True-Color のスムーズなビデオイメージを伝送できます。

AHCI - Advanced Host Controller Interface - SATA ハードドライブ対応のホストコントローラです。AHCI を使用することにより、ストレージドライバでネイティブコマンドキューイング（NCQ）やホットプラグなどのテクノロジが使用可能になります。

ALS - 環境証明センサー - ディスプレイの輝度を調整する機能です。

ASF - alert standards format - ハードウェアおよびソフトウェアの警告を管理コンソールに報告する方式を定義する標準です。ASF は、どのプラットフォームやオペレーティングシステムにも対応できるよう設計されています。

B

BIOS - basic input/output system（基本入出力システム）- コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つプログラム（またはユーティリティ）です。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。 *セットアップユーティリティ*とも呼ばれています。

Bluetooth ワイヤレステクノロジ - 短距離内（9 メートル）にある複数のネットワークデバイスが、お互いを自動的に認識できるようにするワイヤレステクノロジ標準です。

bps - ビット / 秒 - データの転送速度を計測する標準単位です。

BTU - British thermal unit（英国熱量単位）- 熱量の単位です。

C

C - セルシウス（摂氏）- 温度の単位で、水の氷点を 0 度、沸点を 100 度としています。

L1 キャッシュ - プロセッサの内部に設置されているプライマリキャッシュ。

L2 キャッシュ - プロセッサに外付けされた、またはプロセッサアーキテクチャに組み込まれたセカンダリキャッシュ。

CD-R - CD recordable - 書き込み可能な CD です。CD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

CD-RW - CD rewritable - 書き換え可能な CD です。データを CD-RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます（再書き込み）。

CD-RW drive - CD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込むことができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

CD-RW / DVD ドライブ - コンボドライブとも呼ばれます。CD および DVD のデータを読み取ったり、CD-RW（書き換え可能な CD）ディスクや CD-R（書き込み可能な CD）ディスクにデータを書き込んだりすることができるドライブです。CD-RW ディスクには、繰り返し書き込むことが可能ですが、CD-R ディスクには一度しか書き込むことができません。

COA - Certificate of Authenticity（実物証明書）- Windows の英数文字のコードで、コンピュータのラベルに印刷されています。*Product Key*（プロダクトキー）や *Product ID*（プロダクト ID）とも呼ばれます。
CRIMM - continuity rambus in-line memory module（連続式 RIMM）- メモリチップのない特別なモジュールで、使用されていない RIMM スロットに取り付けます。

D

DDR SDRAM - double-data-rate SDRAM（ダブルデータ速度 SDRAM）- データバーストサイクルを倍にして、システムの性能を向上させる SDRAM の一種です。

DDR2 SDRAM - double-data-rate 2 SDRAM（ダブルデータ速度 2 SDRAM）- 4 ビットのプリフェッチおよびその他のアーキテクチャの変更を使用して、メモリスピードを 400 MHz 以上に向上させる、DDR SDRAM の一種です。

DIMM - dual in-line memory module - システム基板上のメモリモジュールに接続する、メモリチップ搭載の回路基板です。

DIN コネクタ - 丸い、6 ピンのコネクタで、DIN(ドイツ工業規格)に準拠しています。通常は、PS/2 キーボードまたはマウスケーブルのコネクタを接続するために使用します。

DMA - direct memory access - DMA チャネルを使うと、ある種の RAM とデバイス間でのデータ転送がプロセッサを介さずに行えるようになります。

DMTF - Distributed Management Task Force - 分散型デスクトップ、ネットワーク、企業、およびインターネット環境における管理基準を開発するハードウェアおよびソフトウェア会社の団体です。

DRAM - dynamic random-access memory - コンデンサが搭載された集積回路に情報を保存するメモリです。

DSL - Digital Subscriber Line(デジタル加入者回線)- アナログ電話回線を介して高速インターネット接続を常時提供するテクノロジです。

DVD-R - DVD recordable - 記録可能な DVD です。DVD-R にはデータを一度だけ記録できます。一度記録したデータは消去したり、上書きしたりすることはできません。

DVD+RW - DVD rewritable - 書き換え可能な DVD です。データを DVD+RW ディスクに書き込んだ後、削除したり上書きしたりできます(再書き込み)。(DVD+RW テクノロジは DVD-RW テクノロジとは異なります。)

DVD+RW ドライブ - DVD やほとんどの CD メディアを読み込んだり、DVD+RW(書き換え可能 DVD)に書き込んだりすることができるドライブです。

DVI - digital video interface(デジタルビデオインタフェース)- コンピュータとデジタルビデオディスプレイ間のデジタル送信の標準です。

E

ECC - error checking and correction(エラーチェックおよび訂正)- メモリにデータを書き込んだり、メモリからデータを読み取る際に、データの正確さを検査する特別な回路を搭載しているメモリです。

ECP - extended capabilities port - 改良された双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタの拡張仕様の 1 つです。EPP に似て、ECP はデータ転送にダイレクトメモリアクセスを使用して性能を向上させます。

EIDE - enhanced integrated device electronics - ハードドライブと CD ドライブ用の IDE インタフェースの改良バージョンです。

EMI - electromagnetic interference(電磁波障害)- 電磁放射線によって引き起こされる電気障害です。

ENERGY STAR - Environmental Protection Agency(米国環境保護局)が規定する、全体的な電力の消費量を減らす要件です。

EPP - enhanced parallel port - 双方向のデータ転送を提供するパラレルコネクタの仕様の 1 つです。

ESD - electrostatic discharge(静電気放出)- 静電気の急速な放電のことです。ESD は、コンピュータや通信機器に使われている集積回路を損傷することがあります。

ExpressCard - PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。ExpressCard の一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。ExpressCard は、PCI Express と USB 2.0 の両規格をサポートします。

F

FBD - fully-buffered DIMM - DDR2 DRAM チップ、および DDR2 SDRAM チップとシステム間の通信を高速化するアドバンスドメモリバッファ(AMB)を搭載した DIMM です。

FCC - Federal Communications Commission(米国連邦通信委員会)- コンピュータやその他の電子機器が放出する放射線の量を規制する通信関連の条例を執行するアメリカの機関です。

FSB - front side bus - マイクロプロセッサと RAM 間のデータ経路と物理的なインタフェースです。

FTP - file transfer protocol(ファイル転送プロトコル)- インターネットに接続されたコンピュータ間で、ファイルを交換するための標準インターネットプロトコルです。

G

G - グラビティ - 重力の計測単位です。

GB - ギガバイト - データの単位です。1 GB は 1024 MB(1,073,741,824 バイト)です。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000,000 バイトに切り捨てられることもあります。

GHz - ギガヘルツ - 周波数の計測単位です。1 GHz は 10 億 Hz または 1,000 MHz です。通常、コンピュータのプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は GHz 単位で計測されます。

GUI - graphical user interface - メニュー、ウィンドウ、およびアイコンでユーザーと相互にやり取りするソフトウェアです。Windows オペレーティングシステムで動作するほとんどのプログラムは GUI です。

H

HTTP - hypertext transfer protocol - インターネットに接続されたコンピュータ間でファイルを交換するためのプロトコルです。

Hz - ヘルツ - 周波数の単位です。1 秒間 1 サイクルで周波数 1 Hz です。コンピュータや電子機器では、キロヘルツ(kHz)、メガヘルツ(MHz)、ギガヘルツ(GHz)、またはテラヘルツ(THz)単位で計測される場合もあります。

I

IC - integrated circuit（集積回路）- コンピュータ、オーディオ、およびビデオ装置用に製造された、何百万もの小電子コンポーネントが搭載されている半導体基板、またはチップです。

IDE - integrated device electronics - ハードドライブまたは CD ドライブにコントローラが内蔵されている大容量ストレージデバイス用のインタフェースです。

IEEE 1394 - Institute of Electrical and Electronics Engineers, Inc. - コンピュータにデジタルカメラや DVD プレーヤーなどの、IEEE 1394 互換デバイスを接続するのに使用される高性能シリアルバスです。

I/O - input/output（入出力）- コンピュータにデータを入力したり、コンピュータからデータを出力する動作、またはデバイスです。キーボードやプリンタは I/O デバイスです。

I/O アドレス - 特定のデバイス（シリアルコネクタ、パラレルコネクタ、または拡張スロットなど）に関連する RAM のアドレスで、プロセッサがデバイスと通信できるようにします。

IrDA - Infrared Data Association - 赤外線通信の国際規格を標準化する団体です。

IRQ - interrupt request（割り込み要求）- デバイスがプロセッサと通信できるように、特定のデバイスに割り当てられた電子的経路です。すべてのデバイス接続に IRQ を割り当てる必要があります。2 つのデバイスに同じ IRQ を割り当てることはできますが、両方のデバイスを同時に動作させることはできません。

ISP - Internet service provider（インターネットサービスプロバイダ）- ホストサーバーへのアクセスを可能にし、インターネットへの直接接続、E-メールの送受信、およびウェブサイトへのアクセスなどのサービスを提供する会社です。通常、ISP はソフトウェアのパッケージ、ユーザー名、およびアクセス用の電話番号を有料（月払い）で提供します。

K

Kb - キロビット - データの単位です。1 Kb は、1,024 ビットです。メモリ集積回路の容量の単位です。

KB - キロバイト - データの単位です。1 KB は 1,024 バイトです。または、1,000 バイトとすることもあります。

kHz - キロヘルツ - 1,000 Hz に相当する周波数の単位です。

L

LAN - local area network（ローカルエリアネットワーク）- 狭い範囲にわたるコンピュータネットワークです。LAN は通常、1 棟の建物内や隣接する 2、3 棟の建物内に限定されます。LAN は電話回線や電波を使って他の離れた LAN と接続し、WAN（ワイドエリアネットワーク）を構成できます。

LCD - liquid crystal display（液晶ディスプレイ）- ノートブックコンピュータのディスプレイやフラットパネルディスプレイに用いられる技術です。

LED - light-emitting diode（発光ダイオード）- コンピュータの状態を示す光を発する電子部品です。

LPT - line print terminal - プリンタや他のパラレルデバイスへのパラレル接続のためのポートです。

M

Mb - メガビット - メモリチップ容量の単位です。1 Mb は 1,024 Kb です。

Mbps - メガビット / 秒 - 1,000,000 ビット / 秒です。通常、ネットワークやモデムなどのデータ転送速度の計測単位に使用します。

MB - メガバイト - 1,048,576 バイトに相当するデータストレージの単位です。または 1,024 KB を表します。ハードドライブの記憶領域容量を示す場合に、1,000,000 バイトに切り捨てられて表示されることもあります。

MB/sec - メガバイト / 秒 - 1,000,000 バイト / 秒です。通常、データの転送速度の計測単位に使用します。

MHz - メガヘルツ - 周波数の単位です。1 秒間に 1,000,000 サイクルで 1 MHz です。通常、コンピュータのマイクロプロセッサ、バス、インタフェースの処理速度は MHz 単位で計測されます。

MP - メガピクセル - デジタルカメラで使用される画像の解像度の単位です。

ms - ミリ秒 - 1,000 分の 1 秒に相当する時間の単位です。ストレージデバイスなどのアクセス速度の計測に使用します。

N

NIC - ネットワークアダプタを参照してください。

ns - ナノ秒 - 10 億分の 1 秒に相当する時間の単位です。

NVRAM - nonvolatile random access memory（不揮発性ランダムアクセスメモリ）- コンピュータの電源が切られたり、外部電源が停止した場合にデータを保存するメモリの一種です。NVRAM は、日付、時刻、およびお客様が設定できるその他のセットアップオプションなどのコンピュータ設定情報を維持するのに利用されます。

P

PC カード - PCMCIA 規格に準拠している取り外し可能な I/O カードです。PC カードの一般的なものに、モデムやネットワークアダプタがあります。

PCI - peripheral component interconnect - PCI は、32 ビットおよび 64 ビットのデータ経路をサポートするローカルバスで、プロセッサとビデオ、各種ドライブ、ネットワークなどのデバイス間に高速データ経路を提供します。

PCI Express - プロセッサとそれに取り付けられたデバイスとのデータ転送速度を向上させる、PCI インタフェースの修正版です。PCI Express は、250 MB/ 秒～ 4 GB/ 秒の速度でデータを転送できます。PCI Express チップセットおよびデバイスが異なる速度で使用できる場合は、動作速度が遅くなります。

PCMCIA - Personal Computer Memory Card International Association - PC カードの規格を協議する国際的組織です。

PIO - programmed input/output - データパスの一部としてプロセッサを経由した、2 つのデバイス間のデータ転送方法です。

POST - power-on self-test（電源投入時の自己診断）- BIOS が自動的にロードする診断プログラムです。メモリ、ハードドライブ、およびビデオなどのコンピュータの主要コンポーネントに基本的なテストを実行します。POST で問題が検出されなかった場合、コンピュータは起動を続行します。

PS/2 - personal system/2 - PS/2 互換のキーボード、マウス、またはキーパッドを接続するコネクタの一種です。

PXE - pre-boot execution environment - WfM（Wired for Management）標準で、オペレーティングシステムのないネットワークコンピュータを設定して、リモートで起動できるようにします。

R

RAID - redundant array of independent disks - データの冗長性を提供する方法です。一般的に実装される RAID には RAID 0、RAID 1、RAID 5、RAID 10、および RAID 50 があります。

RAM - random-access memory（ランダムアクセスメモリ）- プログラムの命令やデータを保存するコンピュータの主要な一時記憶領域です。RAM に保存されている情報は、コンピュータをシャットダウンすると失われます。

readme ファイル - ソフトウェアのパッケージまたはハードウェア製品に添付されているテキストファイルです。通常、readme ファイルには、インストール手順、新しく付け加えられた機能の説明、マニュアルに記載されていない修正などが記載されています。

RFI - radio frequency interference（無線電波障害）- 10kHz から 100,000 MHz までの範囲の通常の無線周波数で発生する障害です。無線周波は電磁周波数帯域の低域に属し、赤外線や光などの高周波よりも障害を起こしやすい傾向があります。

ROM - read-only memory（読み取り専用メモリ）- コンピュータが削除したり書き込みできないデータやプログラムを保存するメモリです。RAM と異なり、ROM はコンピュータの電源が切れても内容を保持します。コンピュータの動作に不可欠のプログラムで ROM に常駐しているものがいくつかあります。

RPM - revolutions per minute - 1 分間に発生する回転数です。ハードドライブ速度の計測に使用します。

RTC - real time clock（リアルタイムクロック）- システム基板上にあるバッテリーで動く時計で、コンピュータの電源を切った後も、日付と時刻を保持します。

RTCRST - real-time clock reset（リアルタイムクロックリセット）- いくつかのコンピュータに搭載されているシステム基板上のジャンパで、問題が発生した場合のトラブルシューティングに利用できます。

S

SAS - serial attached SCSI - 原型の SCSI パラレルアーキテクチャとは対照的に、より高速のシリアルバージョンの SCSI インタフェースです。

SATA - serial ATA（シリアル ATA）- より高速のシリアルバージョンの ATA（IDE）インタフェースです。

SCSI - small computer system interface - ハードドライブ、CD ドライブ、プリンタ、スキャナーなどのデバイスをコンピュータに接続するための高速インタフェースです。SCSI では、単一のコントローラを使って多数のデバイスを接続できます。SCSI コントローラバスでは、個々の識別番号を使って各デバイスにアクセスします。

SDRAM - synchronous dynamic random-access memory（同期ダイナミックランダムアクセスメモリ） - DRAM のタイプで、プロセッサの最適クロック速度と同期化されています。

SIM - サブスクライバ識別モジュール- SIM カードには、音声通信およびデータ通信を暗号化するマイクロチップが内蔵されています。SIM カードは、電話およびノートブックコンピュータで使用できます。

S/PDIF - Sony/Philips Digital Interface - ファイルの質が低下する可能性があるアナログ形式に変換せずに、1 つのファイルから別のファイルにオーディオを転送できるオーディオ転送用ファイルフォーマットです。

Strike Zoneｪ -（コンピュータの電源がオンまたはオフに関わらず）コンピュータが共振ショックを受けた場合、または落下した場合に制動装置として機能し、ハードディスクドライブを保護するプラットフォームベースの強化領域です。

SVGA - super-video graphics array - ビデオカードとコントローラ用のビデオ標準です。SVGA の通常の解像度は 800 × 600 および 1024 × 768です。

プログラムが表示する色数と解像度は、コンピュータに取り付けられているモニター、ビデオコントローラとドライバ、およびビデオメモリの容量によって異なります。

S ビデオ TV 出力 - テレビまたはデジタルオーディオデバイスをコンピュータに接続するために使われるコネクタです。

SXGA - super-extended graphics array - 1280 × 1024 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

SXGA+ - super-extended graphics array plus - 1400 × 1050 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

T

TAPI - telephony application programming interface - 音声、データ、ファックス、ビデオなどの各種テレフォニーデバイスが Windows のプログラムで使用できるようになります。

TPM - trusted platform module - ハードウェアベースのセキュリティ機能です。セキュリティソフトウェアと併用して、ファイル保護や E-メール保護などの機能を有効にすることにより、ネットワークおよびコンピュータのセキュリティを強化します。

U

UMA - unified memory allocation（統合メモリ振り分け）- ビデオに動的に振り分けられるシステムメモリです。

UPS - uninterruptible power supply（無停電電源装置）- 電気的な障害が起きた場合や、電圧レベルが低下した場合に使用されるバックアップ電源です。UPS を設置すると、電源が切れた場合でも限られた時間コンピュータは動作することができます。通常、UPS システムは、過電流を抑え電圧を調整します。小型の UPS システムで数分間電力を供給するので、コンピュータをシャットダウンすることが可能です。

USB - universal serial bus（ユニバーサルシリアルバス）- USB 互換キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナー、スピーカー、プリンタ、ブロードバンドデバイス（DSL およびケーブルモデム）、撮像装置、またはストレージデバイスなどの低速デバイス用ハードウェアインタフェースです。コンピュータの 4 ピンソケットかコンピュータに接続されたマルチポートハブに直接デバイスを接続します。USB デバイスは、コンピュータの電源が入っていても接続したり取り外したりすることができます。また、デイジーチェーン型に接続することもできます。

UTP - unshielded twisted pair（シールドなしツイストペア）- ほとんどの電話回線利用のネットワークやその他の一部のネットワークで利用されているケーブルの種類です。電磁波障害から保護するためにワイヤのペアに金属製の被覆をほどこす代わりに、シールドなしのワイヤのペアがねじられています。

UXGA - ultra extended graphics array - 1600 × 1200 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

V

V - ボルト - 電位または起電力の計測単位です。1 ボルトは、1 アンペアの電流を通ずる抵抗 1 オームの導線の両端の電位の差です。

W

W - ワット - 電力の計測単位です。1 ワットは 1 ボルトで流れる 1 アンペアの電流を指します。

WHr - ワット時 - バッテリーのおおよその充電容量を表すのに通常使われる単位です。たとえば、66 WHr のバッテリーは 66 W の電力を 1 時間、33 W を 2 時間供給できます。

WLAN - Wireless Local Area Network（ワイヤレスローカルエリアネットワーク）の略です。相互接続され、電波を介して互いに通信する一連のコンピュータです。アクセスポイントまたはワイヤレスルーターを使用してインターネットにアクセスできます。

WWAN - Wireless Wide Area Network（ワイヤレスワイドエリアネットワーク）の略です。セルラーテクノロジを使用した、ワイヤレスの高速データネットワークで、WLAN よりもはるかに広い地域に対応します。

WXGA - wide-aspect extended graphics array - 1280 × 800 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

X

XGA - extended graphics array - 1024 × 768 までの解像度をサポートするビデオカードやコントローラのビデオ標準です。

Z

ZIF - zero insertion force - コンピュータチップまたはソケットのどちらにもまったく力を加えないで、チップを取り付けまたは取り外しできるソケットやコネクタの一種です。

Zip - 一般的なデータの圧縮フォーマットです。Zip フォーマットで圧縮されているファイルを Zip ファイルといい、通常、ファイル名の拡張子が **.zip** となります。特別な Zip ファイルに自己解凍型ファイルがあり、ファイル名の拡張子は **.exe** となります。自己解凍型ファイルは、ファイルをダブルクリックするだけで自動的に解凍できます。

Zip ドライブ - Iomega Corporation によって開発された大容量のフロッピードライブで、Zip ディスクと呼ばれる 3.5 インチのリムーバルディスクを使用します。Zip ディスクは標準のフロッピーディスクよりもやや大きく約二倍の厚みがあり、100 MB のデータを保持できます。

あ

アンチウイルスソフトウェア - お使いのコンピュータからウイルスを見つけ出して隔離し、検疫して、除去するように設計されたプログラムです。

ウイルス - 嫌がらせ、またはコンピュータのデータを破壊する目的で作られたプログラムです。ウイルスプログラムは、ウイルス感染したディスク、インターネットからダウンロードしたソフトウェア、または E-メールの添付ファイルを経由してコンピュータから別のコンピュータへ感染します。ウイルス感染したプログラムを起動すると、プログラムに潜伏したウイルスも起動します。

一般的なウイルスに、フロッピーディスクのブートセクターに潜伏するブートウイルスがあります。フロッピーディスクを挿入したままコンピュータをシャットダウンすると、次の起動時に、コンピュータはオペレーティングシステムを探すためフロッピーディスクのブートセクターにアクセスします。このアクセスでコンピュータがウイルスに感染します。一度コンピュータがウイルスに感染すると、ブートウイルスは除去されるまで、読み書きされるすべてのフロッピーディスクにウイルスをコピーします。

エクスプレスサービスコード - Dell™ コンピュータのラベルに付いている数字のコードです。デルにお問い合わせの際は、エクスプレスサービスコードをお伝えください。エクスプレスサービスコードが利用できない国もあります。

オプティカルドライブ - CD、DVD、または DVD+RW から、光学技術を使用してデータを読み書きするドライブです。オプティカルドライブには、CD ドライブ、DVD ドライブ、CD-RW ドライブ、およ

び CD-RW/DVD コンボドライブが含まれます。

オンボード - 通常、コンピュータのシステム基板上に物理的に搭載されているコンポーネントを指します。*ビルトイン*とも呼ばれます。

か

カーソル - キーボード、タッチパッド、またはマウスが次にどこで動作するかを示すディスプレイや画面上の目印です。通常は点滅する棒線かアンダーライン、または小さな矢印で表示されます。

解像度 - プリンタで印刷される画像や、またはモニターに表示される画像がどのくらい鮮明かという度合です。解像度を高い数値に設定しているほど鮮明です。

書き込み保護 - ファイルやメディアのデータ内容を変更不可に設定することです。書き込み保護を設定しデータを変更または破壊されることのないように保護します。3.5 インチのフロッピーディスクに書き込み保護を設定する場合、書き込み保護設定タブをスライドさせて書き込み不可の位置にします。

拡張カード - コンピュータのシステム基板上の拡張スロットに装着する電子回路基板で、コンピュータの性能を向上させます。ビデオカード、モデムカード、サウンドカードなどがあります。

拡張型 PC カード - 拡張型 PC カードは、取り付けた際に PC カードスロットからカードの端が突き出しています。

拡張スロット - 拡張カードを挿入してシステムバスに接続する、システム基板上のコネクタです（コンピュータによって異なる場合もあります）。

拡張ディスプレイモード - お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。*デュアルディスプレイモード*とも呼ばれます。

壁紙 - Windows デスクトップの背景となる模様や絵柄です。壁紙を変更するには Windows コントロールパネルから変更します。また、気に入った絵柄を読み込んで壁紙を作成することができます。

キーの組み合わせ - 複数のキーを同時に押して実行するコマンドです。

起動順序 - コンピュータが起動を試みるデバイスの順序を指定します。

起動ディスク - コンピュータを起動するために使用するディスクです。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。

起動 CD - コンピュータを起動するために使用する CD です。ハードドライブが損傷した場合や、コンピュータがウイルスに感染した場合など、起動 CD または起動ディスクが必要になりますので、常備しておきます。お使いの『Drivers and Utilities CD』（または『Resource CD』）が起動 CDです。

キャッシュ - 特殊な高速ストレージ機構で、メインメモリの予約領域、または独立した高速ストレージデバイスです。キャッシュは、プロセッサのオペレーションスピードを向上させます。

休止状態モード - メモリ内のすべてをハードドライブ上の予約領域に保存してからコンピュータの電源を切る、省電力モードです。コンピュータを再起動すると、ハードドライブに保存されているメモリ情報が自動的に復元されます。

クロックスピード - システムバスに接続されているコンピュータコンポーネントがどのくらいの速さで動作するかを示す、MHz で示される速度です。

グラフィックスモード - *x* 水平ピクセル数 X *y* 垂直ピクセル数 X *z* 色数で表されるビデオモードです。グラフィックスモードは、どんな形やフォントも表現できます。

コントローラ - プロセッサとメモリ間、またはプロセッサとデバイス間のデータ転送を制御するチップです。

コントロールパネル - 画面設定などのオペレーティングシステムやハードウェアの設定を変更するためのユーティリティです。

さ

サージプロテクタ - コンセントを介してコンピュータに影響を与える電圧変動（雷などの原因で）から、コンピュータを保護します サージプロテクタは、落雷や通常の AC ライン電圧レベルが 20 ％以上低下する電圧変動による停電からはコンピュータを保護することはできません。

ネットワーク接続はサージプロテクタでは保護できません。雷雨時は、必ずネットワークケーブルをネットワークコネクタから外してください。

サービスタグ - コンピュータに貼ってあるバーコードラベルのことで、デルサポートの **support.jp.dell.com** にアクセスしたり、デルのカスタマーサービスやテクニカルサポートに電話で問い合わせたりする場合に必要な識別番号が書いてあります。

システム基板 - コンピュータのメイン回路基板です。 *マザーボード*とも呼ばれます。

指紋リーダー - 固有の指紋を使ってユーザーの身元証明を行う読み取りセンサーで、コンピュータのセキュリティ保護をサポートします。

ショートカット - 頻繁に使用するプログラム、ファイル、フォルダ、およびドライブにすばやくアクセスできるようにするアイコンです。ショートカットを Windows デスクトップ上に作成し、ショートカットアイコンをダブルクリックすると、それに対応するフォルダやファイルを検索せずに開くことができます。ショートカットアイコンは、ファイルが置かれている場所を変更するわけではありません。ショートカットアイコンを削除しても、元のファイルには何の影響もありません。また、ショートカットのアイコン名を変更することもできます。

シリアルコネクタ - I/O ポートは、コンピュータにハンドヘルドデジタルデバイスやデジタルカメラなどのデバイスを接続するためによく使用されます。

スキャンディスク - Microsoft のユーティリティで、ファイル、フォルダ、ハードディスクの表面のエラーをチェックします。コンピュータの反応が止まって、コンピュータを再起動した際にスキャンディスクが実行されることがあります。

スタンバイモード - コンピュータの不必要な動作をシャットダウンして節電する、省電力モードです。

スマートカード - プロセッサとメモリチップに内蔵されているカードです。スマートカードは、スマートカード搭載のコンピュータでのユーザー認証に利用できます。

赤外線センサー - ケーブルを利用しなくても、コンピュータと赤外線互換デバイス間のデータ転送ができるポートです。

セットアッププログラム - ハードウェアやソフトウェアをインストールしたり設定するために使うプログラムです。**setup.exe** または **install.exe** というプログラムが Windows 用ソフトウェアに付属しています。 *セットアッププログラム*は*セットアップユーティリティ*とは異なります。

セットアップユーティリティ - コンピュータのハードウェアとオペレーティングシステム間のインタフェース機能を持つユーティリティです。セットアップユーティリティは BIOS で日時やシステムパスワードなどのようなユーザーが選択可能なオプションの設定ができます。設定がコンピュータにどのような影響を与えるのか理解できていない場合は、このプログラムの設定を変更しないでください。

た

通行許可証 - 物品を外国へ一時的に持ち込む場合、一時輸入通関ができる通関手帳です。*商品パスポート*とも呼ばれます。

通知領域 - コンピュータの時計、音量調節、およびプリンタの状況など、プログラムやコンピュータの機能に素早くアクセスできるアイコンが表示されている Windows タスクバーの領域です。*システムトレイ*とも呼ばれます。

テキストエディター - たとえば、Windows のメモ帳など、テキストファイルを作成および編集するためのアプリケーションプログラムです。テキストエディタには通常、ワードラップやフォーマット（アンダーラインのオプションやフォントの変換など）の機能はありません。

ディスクストライピング - 複数のディスクドライブにまたがってデータを分散させる技術です。ディスクのストライピングは、ディスクストレージからデータを取り出す動作を高速化します。通常、ディスクのストライピングを利用しているコンピュータではユーザーがデータユニットサイズまたはストライプ幅を選ぶことができます。

デバイス - コンピュータ内部に取り付けられているか、またはコンピュータに接続されているディスクドライブ、プリンタ、キーボードなどのハードウェアです。

デバイスドライバ - *ドライバ*を参照してください。

デュアルコア -1 つのプロセッサパッケージに 2 つの物理計算ユニットを集積し、それによって計算効率とマルチタスク機能を向上させた Intel® テクノロジです。

デュアルディスプレイモード - お使いのディスプレイの拡張として、2 台目のモニターを使えるようにするディスプレイの設定です。*デュアルモニタ*とも呼ばれます。

トラベルモジュール - ノートブックコンピュータの重量を減らすために、モジュールベイの中に設置できるよう設計されているプラスチック製のデバイスです。

ドッキングデバイス - *APR* を参照してください。

ドメイン - ネットワーク上のコンピュータ、プログラム、およびデバイスのグループで、特定のユーザーグループによって使用される共通のルールと手順のある単位として管理されます。ユーザーは、ドメインにログオンしてリソースへのアクセスを取得します。

ドライバ - プリンタなどのデバイスが、オペレーティングシステムに制御されるようにするためのソフトウェアです。多くのデバイスは、コンピュータに正しいドライバがインストールされていない場合、正常に動作しません。

な

ネットワークアダプタ - ネットワーク機能を提供するチップです。コンピュータのシステム基板にネットワークアダプタが内蔵されていたり、アダプタが内蔵されている PC カードもあります。ネットワークアダプタは、*NIC*（ネットワークインタフェースコントローラ）とも呼ばれます。

は

ハードドライブ - ハードディスクのデータを読み書きするドライブです。ハードドライブとハードディスクは同じ意味としてどちらかが使われています。

ハイパースレッディング - 1 つの物理プロセッサを 2 つの論理プロセッサとして機能させ、特定のタスクを同時に実行できるようにすることで、コンピュータのパフォーマンス全般を強化する Intel® テクノロジです。

バイト - コンピュータで使われる基本的なデータ単位です。1 バイトは 8 ビットです。

バス - コンピュータのコンポーネント間で情報を通信する経路です。

バス速度 - バスがどのくらいの速さで情報を転送できるかを示す、MHz で示される速度です。

バッテリー駆動時間 - ノートブックコンピュータのバッテリーでコンピュータを駆動できる持続時間（分または時間）です。

バッテリーの寿命 - ノートブックコンピュータのバッテリーが、消耗と再充電を繰り返すことのできる期間（年数）です。

パーティション - ハードドライブ上の物理ストレージ領域です。1 つ以上の論理ストレージ領域（論理ドライブ）に割り当てられます。それぞれのパーティションは複数の論理ドライブを持つことができます。

パラレルコネクタ - I/O ポートは、コンピュータにパラレルプリンタを接続する場合などに使用されます。*LPT ポート*とも呼ばれます。

ヒートシンク - 放熱を助けるプロセッサに付属する金属板です。

ビット - コンピュータが認識するデータの最小単位です。

ビデオ解像度 - *解像度*を参照してください。

ビデオコントローラ - お使いのコンピュータに（モニターの組み合わせにおいて）ビデオ機能を提供する、ビデオカードまたは（オンボードビデオコントローラ搭載のコンピュータの）システム基板の回路です。

ビデオメモリ - ビデオ機能専用のメモリチップで構成されるメモリです。通常、ビデオメモリはシステムメモリよりも高速です。取り付けられているビデオメモリの量は、主にプログラムが表示できる色数に影響を与えます。

ビデオモード - テキストやグラフィックスをモニターに表示する際のモードです。グラフィックスをベースにしたソフトウェア（Windows オペレーティングシステムなど）は、*x* 水平ピクセル数 × *y* 垂直ピクセル数 × *z* 色数で表されるビデオモードで表示されます。文字をベースにしたソフトウェア（テキストエディタなど）は、*x* 列 × *y* 行の文字数で表されるビデオモードで表示されます。

ピクセル - ディスプレイ画面の構成単位である点です。ピクセルが縦と横に並び、イメージを作ります。ビデオの解像度（800 × 600 など）は、上下左右に並ぶピクセルの数で表します。

ファーレンハイト（華氏） - 温度の単位で、水の氷点を 32 度、沸点を 212 度としています。

フォーマット - ファイルを保存するためにドライブやディスクを準備することです。ドライブまたはディスクをフォーマットするとデータはすべて消失します。

フォルダ - ディスクやドライブ上のファイルを整頓したりグループ化したりする入れ物です。フォルダ中のファイルは、名前や日付やサイズなどの順番で表示できます。

プラグアンドプレイ - デバイスを自動的に設定するコンピュータの機能です。BIOS、オペレーティングシステム、およびすべてのデバイスがプラグアンドプレイ対応の場合、プラグアンドプレイは、自動インストール、設定、既存のハードウェアとの互換性を提供します。

プロセッサ - コンピュータ内部で中心的に演算を行うコンピュータチップです。プロセッサは、CPU（中央演算処理装置）とも呼ばれます。

ま

ミニカード- 通信用 NIC など内蔵周辺機器用に設計された小型のカードです。ミニカードの機能は、標準の PCI 拡張カードと同等です。

ミニ PCI - モデムや NIC など通信機能を主とする内蔵周辺機器の規格です。ミニ PCI カードは、標準の PCI 拡張カードと同等の機能を持つ小型の外付けカードです。

メモリ - コンピュータ内部にある、一時的にデータを保存する領域です。メモリにあるデータは一時的に格納されているだけなので、作業中は時々ファイルを保存するようお勧めします。また、コンピュータをシャットダウンするときもファイルを保存してください。コンピュータのメモリには、RAM、ROM、およびビデオメモリなど何種類かあります。通常、メモリというと RAM メモリを指します。

メモリアドレス - データを一時的に RAM に保存する特定の場所です。

メモリマッピング- スタートアップ時に、コンピュータが物理的な場所にメモリアドレスを割り当てる処理です。デバイスとソフトウェアが、プロセッサによりアクセスできる情報を識別できるようになります。

メモリモジュール - システム基板に接続されている、メモリチップを搭載した小型回路基板です。

モジュールベイ - オプティカルドライブ、セカンドバッテリー、または Dell TravelLite™ モジュールなどのようなデバイスをサポートするベイです。

モデム - アナログ電話回線を介して他のコンピュータと通信するためのデバイスです。モデムには、外付けモデム、PC カード、および内蔵モデムの 3 種類があります。通常、モデムはインターネットへの接続や E-メールの交換に使用されます。

や

読み取り専用 - 表示することはできますが、編集したり削除したりすることができないデータやファイルです。次のような場合にファイルを読み取り専用に設定できます。

- フロッピーディスク、CD、または DVD を書き込み防止に設定している場合
- ファイルがネットワーク上のディレクトリにあり、システム管理者がアクセス権限に特定の個人だけを許可している場合

ら

リフレッシュレート - 画面上のビデオイメージが再描画される周波数です。単位は Hz で、このリフレッシュレートの周波数で画面の水平走査線（*垂直周波数*とも呼ばれます）が再描画されます。リフレッシュレートが高いほど、ビデオのちらつきが少なく見えます。

ローカルバス - デバイスにプロセッサへの高速スループットを提供するデータバスです。

目次に戻る

目次に戻る

メモリ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

ご使用のコンピュータは、非 ECC DDR2 メモリのみをサポートします。お使いのコンピュータでサポートされているメモリの種類については、お使いのコンピュータの仕様の「メモリ」を参照してください。

- ミニタワーコンピュータの仕様
- デスクトップコンピュータの仕様
- スモールフォームファクターコンピュータの仕様
- ウルトラスモールフォームファクターコンピュータの仕様

注意: 新しいメモリモジュールを取り付ける前に、お使いのコンピュータ用の最新の BIOS を Dellサポートウェブサイト **support.jp.dell.com** からダウンロードしてください。

メモ: デルから購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証に含まれます。

DDR2 メモリの概要

デュアルチャネル DDR2 メモリモジュールは、同じメモリサイズのものを 2 枚 1 組のペアで取り付ける必要があります。各チャネルに同じメモリ容量のペアで DDR2 メモリモジュールが取り付けられていなくても、コンピュータは動作し続けますが、パフォーマンスが少し低下します。モジュールの右上角のラベルを参照して、モジュールの容量を確認します。

注意: ECC メモリモジュールは装着しないでください。システムが起動しなかったり、パフォーマンスに影響を及ぼす原因となる場合があります。

メモ: 必ず、システム基板に示されている順番で DDR2 メモリモジュールを装着してください。

推奨されるメモリ構成は、以下のとおりです。

- 同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM1 および DIMM2 に装着

  または

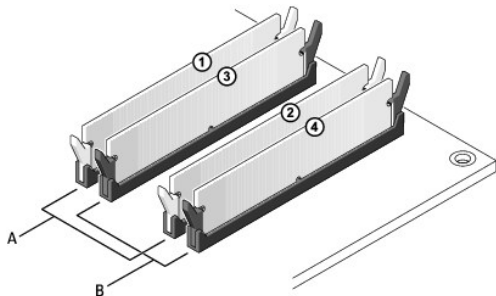
- 単一のメモリモジュールをコネクタ DIMM1 に装着

  または

- ミニタワー、デスクトップ、およびスモールフォームファクターには、同じ容量を持つメモリモジュールのペアをコネクタ DIMM1 および DIMM2 に装着し、さらに同じ容量を持つメモリモジュールの別のペアをコネクタ DIMM3 および DIMM4 に装着します。

別のコネクタにメモリモジュールを装着する前に、プロセッサに最も近いコネクタの DIMM1 に単一のメモリモジュールを装着していることを確認してください。

メモ: ウルトラスモールフォームファクターコンピュータには、インタリーブのペアと見なされるスロットが 2 つのみ搭載されています。ミニタワー、デスクトップ、おおびスモールフォームファクターコンピュータには、スロットが 4 つ搭載されています。

ミニタワー、デスクトップ、スモールフォームファクターのペア

A	コネクタ DIMM1 および DIMM2（白色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア
B	コネクタ DIMM3 および DIMM4（黒色の固定クリップ）に取り付けられた同じサイズのメモリモジュールのペア

4 GB 以上のメモリ構成でのアドレス指定（32 ビット オペレーティング システムのみ）

このコンピュータでサポート可能な最大メモリ容量は 8 GB です。Microsoft Windows XP などの現在の 32 ビットオペレーティングシステムの最大アドレススペースは 4 GB です。ただし、オペレーティングシステムが使用できるメモリの容量はインストールされている容量より少なくなります。コンピュータ内の特定のコンポーネントは、4 GB レンジ内にアドレススペースを必要とします。これらのコンポーネント用に予約されたアドレススペースは、コンピュータメモリによっては使用されません。

以下のコンポーネントはメモリアドレススペースを必要とします。

- システム ROM
- APIC
- 内蔵 PCI デバイス（ネットワークコネクタおよび SCSI コントローラなど）
- PCI カード
- グラフィックスカード
- PCI Express カード（取り付けられた場合）

システムの起動時に、BIOS はアドレススペースを必要とするコンポーネントを認識します。BIOS は予約された必要なアドレススペースの容量を動的に計算します。そして BIOS は、4 GB から予約済みアドレススペースを減算し、利用可能なスペースの容量を確定します。

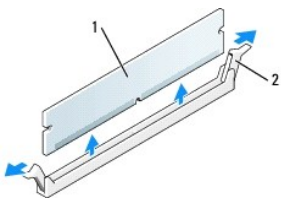
- 使用可能なアドレススペースよりも小さい容量のメモリを実装している場合、オペレーティングシステムは、実装メモリ容量すべてを使用できます。
- 使用可能なアドレススペース以上の容量のメモリを実装している場合、オペレーティングシステムは実装メモリの一部を使用できなくなります。

メモリの取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: メモリのアップグレード中にコンピュータから元のメモリを取り外した場合、新しく装着するモジュールをデルからお買い上げになったとしても、元のメモリを新しいメモリとは別に保管してください。できるだけ、新しいメモリモジュールと元のメモリモジュールをペアにしないでください。ペアにすると、コンピュータが正しく起動しないことがあります。元のメモリモジュールは、必ずコネクタ DIMM1 と DIMM2、または DIMM3 と DIMM4 にペアで装着してください。

注意: デスクトップコンピュータの DIMM2 および DIMM4 からメモリモジュールを取り外す際、オプティカルドライブを取り外す必要があります（ドライブ を参照）。それを怠ると、メモリモジュールおよび DIMM ソケットに損傷を与える場合があります。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. デスクトップコンピュータの場合、オプティカルドライブを取り外します（オプティカルドライブ を参照）。
3. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを、注意して押し開きます。

1	メモリモジュール
2	固定クリップ（2）

4. メモリモジュールを取り外します。メモリモジュールの取り外しは、メモリの取り付け を参照してください。
5. デスクトップコンピュータの場合、オプティカルドライブを取り外します（オプティカルドライブ を参照）。
6. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

メモリの取り付け

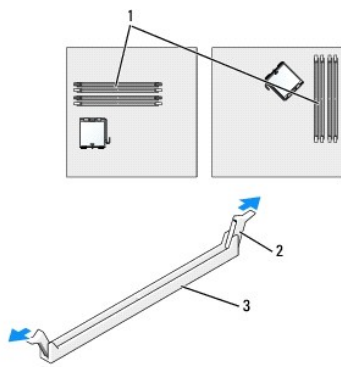
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

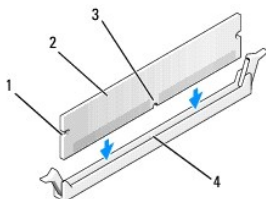
注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ: デルから購入されたメモリは、お使いのコンピュータの保証に含まれます。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

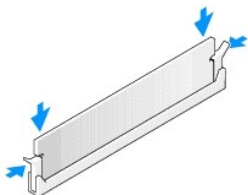
2. デスクトップコンピュータの場合、オプティカルドライブを取り外します（オプティカルドライブ を参照）。

3. メモリモジュールコネクタの両端にある固定クリップを押し開きます。

1	プロセッサに最も近いメモリコネクタ
2	固定クリップ（2）
3	コネクタ

4. モジュールの底面の切り込みを、コネクタ内のクロスバーに合わせます。

1	切り欠き（2）
2	メモリモジュール
3	切り込み
4	クロスバー

注意: メモリモジュールへの損傷を防ぐため、モジュールの両端に均等に力を加えて、モジュールをコネクタに向けてまっすぐ下へ挿入します。

5. メモリモジュールをカチッと所定の位置に収まるまで、しっかりと押し下げます。

   モジュールが適切に挿入されると、固定クリップはモジュール両端の切り欠きにカチッと収まります。

6. デスクトップコンピュータの場合、オプティカルドライブを取り外します（オプティカルドライブ を参照）。

7. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

8. 新しいメモリ容量が既存の設定情報と一致しないことをコンピュータが検出して、次のメッセージを表示します。

```
The amount of system memory has changed.（システムメモリの容量が変わりました。）
Strike the F1 key to continue, F2 to run the setup utility（続けるには F1 キーを、セットアップユーティリティを起動するには F2 キーを押してください。）
```

9. <F2> を押してセットアップユーティリティを起動し、**システムメモリ** の値をチェックします。

コンピュータは新しく取り付けたメモリの容量を認識して、**System Memory** の値を変更します。メモリの新しい値を確認します。値が正しければ、11ステップ へ進みます。

10. メモリの合計が正しくない場合、コンピュータとデバイスの電源を切ってコンセントから外します。コンピュータカバーを開き、取り付けたメモリモジュールがソケットに正しく装着されているか確認します。7、8、および 9 を繰り返します。

11. **システムメモリ** の総メモリ容量が正しい場合、<Esc> を押してセットアップユーティリティを終了します。

12. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行し（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）、メモリモジュールが正常に動作していることを確認します。

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ 745 ユーザーズ ガイド

ミニタワーコンピュータ

メモ、注意、警告

メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Dell n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合は、このマニュアルの Microsoft Windows オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

モデル DCTR、DCNE、DCSM、および DCCY

2006 年 6 月　KH288　Rev. A00

[目次に戻る]

拡張カード

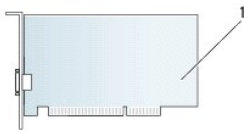
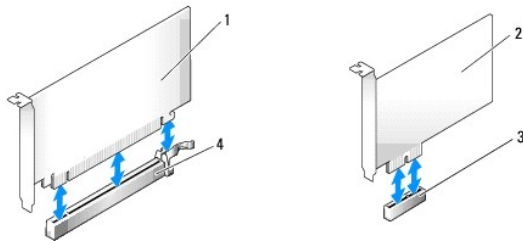
Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

- 拡張カードの取り付け
- 拡張カードの取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

お使いの Dell™ コンピュータはシリアルアダプタをサポートしており、PCI カードおよび PCI Express カード用に以下のコネクタを搭載しています。

- PCI カードスロットが 2 つ
- PCI Express x16 カードスロットが 1 つ
- PCI Express x1 カードスロットが 1 つ

1	PCI カード

1	PCI Express x16 カード	3	PCI Express x1 カードスロット
2	PCI Express x1 カード	4	PCI Express x16 カードスロット

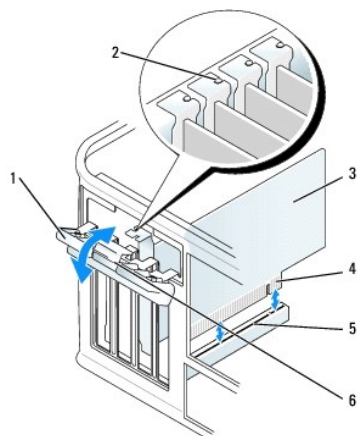
拡張カードの取り付け

メモ: お使いの Dell コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

メモ: お使いのミニタワーコンピュータのシリアルポートアダプタには 2 つの PS/2 コネクタもあります。

新しいカードに交換する場合は、既存のカードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。

1	カード固定ラッチ	4	カードエッジコネクタ
2	位置合わせガイド	5	カードコネクタ
3	カード	6	リリースタブ

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に手順 5 に進みます。

4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

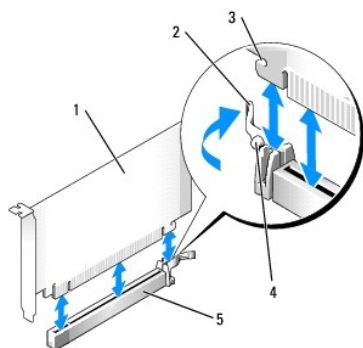
5. カードにカード保持バーが付いている場合は、このバーを外します。固定タブを軽く引き、カードの上端の角を両手でつかみ、コネクタから取り外します。

6. 新しいカードを取り付ける準備をします。

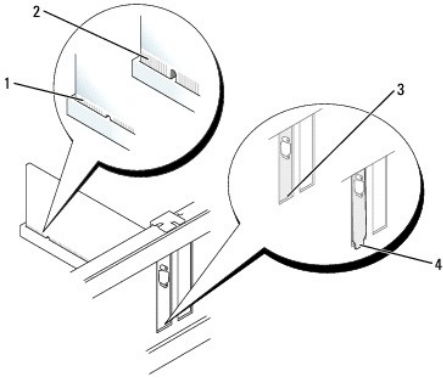
7. シリアルポートアダプタの取り付けでは、システム基板のシリアルポートアダプタコネクタ（SER2）にアダプタケーブルを接続します。

メモ: お使いのコンピュータに合わせたカードの設定、内部の接続、またはカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

8. カードを x16 カードコネクタに取り付ける場合、固定スロットを固定タブに合わせ、軽く固定タブを引いて、カードを取り付けます。

1	PCI Express x16 カード
2	レバー
3	固定スロット（すべてのカードに付いているわけではありません）
4	カードクリップタブ
5	PCI Express x16 カードコネクタ

9. カードをコネクタに置き、しっかりと下に押します。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

メモ: カードがフルレングスの場合、カードをシステム基板のコネクタの方へ下げながら、カードの端をカードガイドブラケットに差し込みます。カードをシステム基板のカードコネクタにしっかりと挿入します。

1	完全に装着されたカード
2	完全に装着されていないカード
3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット

10. カード固定装置を下げる前に、次の点を確認してください。
    - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
    - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている
11. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

注意: カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

12. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

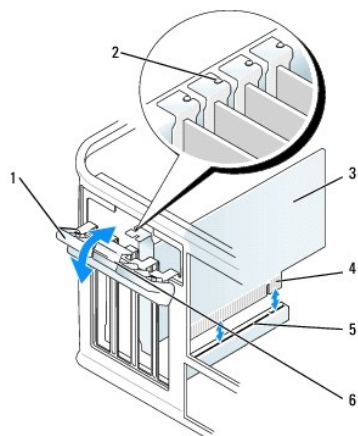
    カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

13. コンピュータカバーを取り付け（コンピュータカバーの取り外し を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに差し込み、電源を入れます。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

14. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**オーディオコントローラ** を選択して設定を **Off**（オフ）に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。
    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、コンピュータの背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。
15. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。
    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller**（ネットワークコントローラ）を選択して設定を **Off**（オフ）に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。
    b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。
16. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

拡張カードの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。

1	カード固定ラッチ	4	カードエッジコネクタ
2	位置合わせガイド	5	カードコネクタ
3	カード	6	リリースタブ

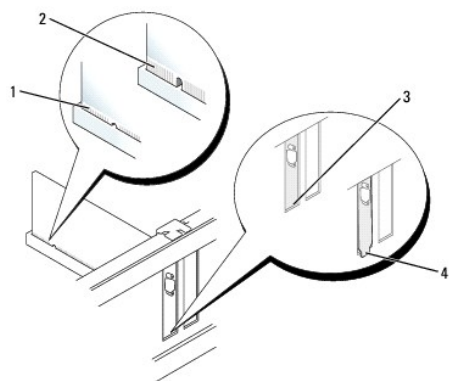
3. 必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。

4. カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。

5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

6. カード固定装置を取り付けて下げる前に、次の点を確認してください。

   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

1	完全に装着されたカード
2	完全に装着されていないカード
3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット

7. カード固定ラッチを所定の位置に押し込んで閉じます。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

8. コンピュータカバーを取り付け（コンピュータカバーの取り外し を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに差し込み、電源を入れます。

9. カードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

10. サウンドカードを取り外した場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**オーディオコントローラ** を選択して設定を **On**（オン）に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. 外付けオーディオデバイスをコンピュータ背面パネルのオーディオコネクタに接続します。

11. ネットワークアダプタカードコネクタを取り外した場合、次の手順を実行します。

   a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller**（ネットワークコントローラ）を選択して、設定を **On**（オン）に変更します（セットアップユーティリティ を参照）。

   b. ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続します。

目次に戻る

プロセッサ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

プロセッサの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. ヒートシンクアセンブリの両端にある拘束ネジを緩めます。

警告: プラスティック製のシールドがあっても、ヒートシンクアセンブリは正常な動作中に過熱する場合があります。 十分な時間を置いて温度が下がったのを確認してから、ヒートシンクアセンブリに触るようにします。

3. ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させ、コンピュータから取り外します。
   サーマルグリースが付いた面を上に向けて、ヒートシンクを上向きに置きます。

1	ヒートシンクアセンブリ
2	拘束ネジハウジング（2）

注意: 新しいプロセッサに新しいヒートシンクを取り付ける必要がある場合は、プロセッサを交換する際に、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

4. ソケット上にあるセンターカバーラッチの下からリリースレバーをスライドさせて、プロセッサカバーを開きます。次にレバーを後方に引いて、プロセッサを取り出します。

1	センターカバーラッチ
2	プロセッサカバー
3	プロセッサ
4	ソケット
5	リリースレバー

注意: プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

5. 注意深くプロセッサをソケットから取り外します。

新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

プロセッサの取り付け

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

注意: プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

1. 「作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
2. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

メモ: コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

3. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。
4. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みを、ソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。
5. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わせ用切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印
4	プロセッサソケット	9	背面位置合わせ用切り込み
5	センターカバーラッチ		

注意: プロセッサへの損傷を防ぐため、プロセッサとソケットがきちんと揃っているか確認します。プロセッサを取り付ける際は、力を入れすぎないでください。

6. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。

7. プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

   プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

8. カチッと所定の位置に収まるまで、ソケットリリースレバーをソケットの方に戻して、プロセッサを固定します。

9. ヒートシンクの下面からサーマルグリースを除去してください。

注意: 新しいサーマルグリースを塗ります。サーマルグリースは、重要な熱接着機能を持ち、プロセッサの最適稼動に必要です。

10. プロセッサの表面に、新しいサーマルグリースを塗ります。

11. ヒートシンクアセンブリを取り付けます。

    a. ヒートシンクアセンブリをヒートシンクアセンブリブラケットに元のように配置します。

    b. ヒートシンクアセンブリをコンピュータの底面方向に動かし、2 つの拘束ネジを締めます。

注意: ヒートシンクアセンブリが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンクアセンブリ
2	ヒートシンクアセンブリブラケット
3	拘束ネジハウジング（2）

12. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

目次に戻る

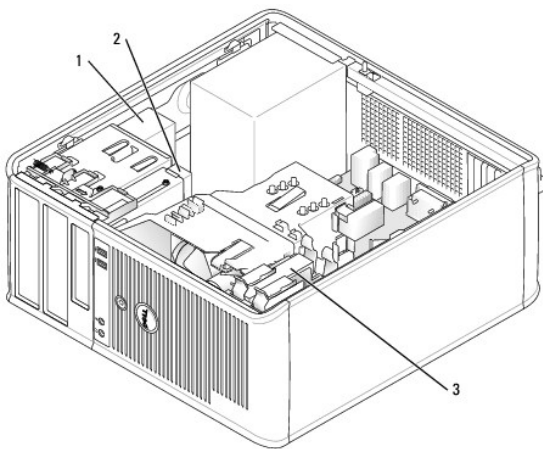
[目次に戻る]

ドライブ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- SATA（シリアル ATA）ハードドライブ 2 台
- フロッピードライブまたはメディアカードリーダー 1 台
- SATA オプティカルドライブ 2 台

メモ: このコンピュータのドライブベイおよびコントローラの数には限りがあるため、すべてのデバイスを一度に接続することはできません。

1	オプティカルドライブ
2	フロッピードライブ
3	ハードドライブ

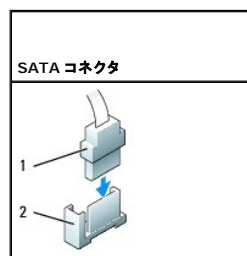
一般的な取り付けガイドライン

SATA ハードドライブは、「SATA0」または「SATA1」のラベルが付いたシステム基板のコネクタに接続します。SATA オプティカルドライブをシステム基板の SATA コネクタに接続します。(システム基板コンポーネント を参照)。

ドライブケーブルの接続

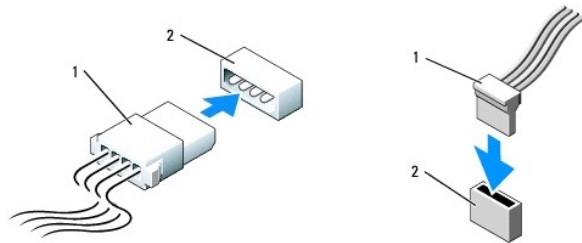
ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

SATA コネクタ

1	インタフェースケーブルコネクタ
2	インタフェースコネクタ

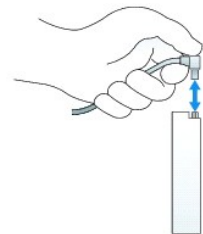
大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。 切り込みを合わせることにより、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（ケーブル端の色帯でわかります。SATA ケーブルには、色帯はありません）がコネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意: インタフェースケーブルを誤った方向に差し込むと、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

プルタブが付いたケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

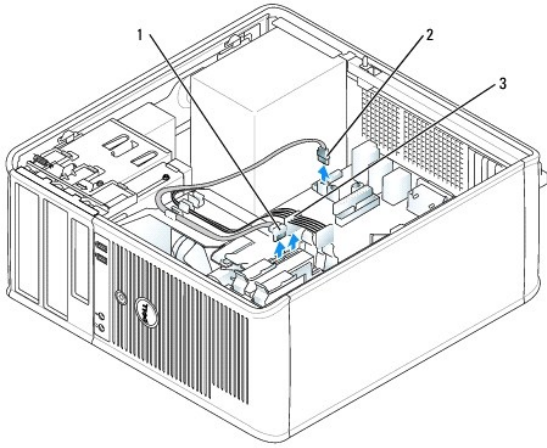
SATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持って作業します。

ハードドライブ

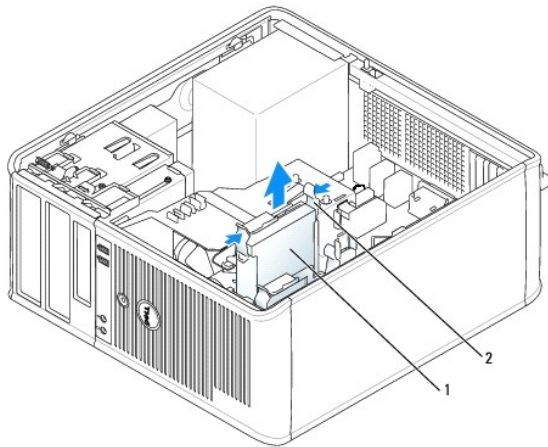
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

ハードドライブの取り外し

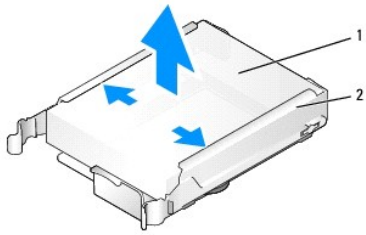
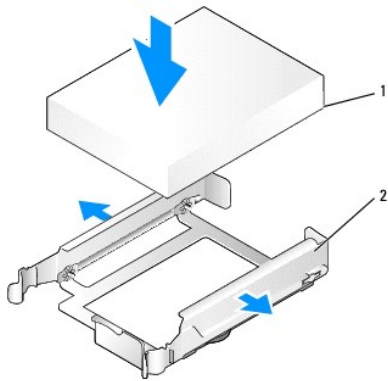
1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。
3. 作業を開始する前に」の手順に従って操作してください。
4. 電源ケーブルとデータケーブルをドライブから外します。

1	データケーブル
2	ハードドライブのシステム基板コネクタ
3	電源ケーブル

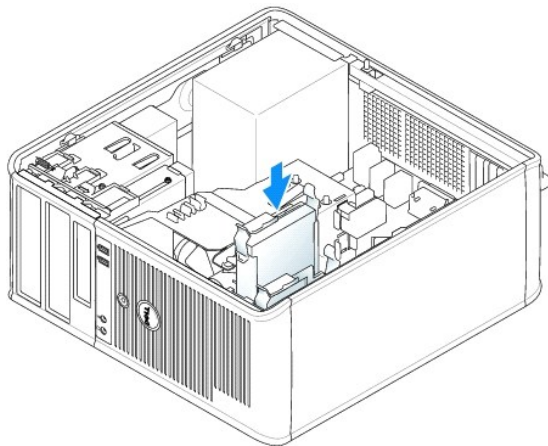
5. ドライブ両端の青色のリリースタブを押し、ドライブを上にスライドさせてコンピュータから出します。

1	ハードドライブ
2	リリースタブ（2）

ハードドライブの取り付け

1. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。

2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

3. 交換用のハードドライブにプラスチックのハードドライブブラケットがない場合は、既存のドライブからブラケットをカチッと取り外します。
このブラケットを新しいドライブにカチッとはめ込みます。

1	ハードドライブ
2	ハードドライブブラケット

1	ハードドライブ
2	ハードドライブブラケット

4. ドライバが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブバスケットの横を軽く広げ、ハードドライブをスライドさせてブラケットに取り付けます。

5. カチッと所定の位置に収まるまで、慎重にハードドライブをドライブベイにスライドします。

6. 電源ケーブルおよびデータケーブルをドライブに接続します。

7. データケーブルがシステム基板のコネクタにしっかりと接続されているか確認します

8. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

9. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

10. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

11. セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動 を参照）適切な **Primary Drive** オプション（**0** または **1**）をアップデートします。

12. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

13. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

    手順については、オペレーティングシステムのマニュアルを参照してください。

14. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、 ハードドライブをテストします（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

15. プライマリドライブを取り付けた場合、ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

2 台目のハードドライブの追加

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

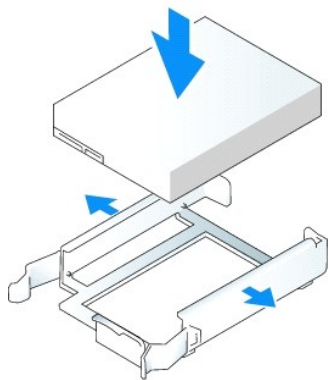
注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

注意: 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

2. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

3. リリースタブを押して慎重にプラスチックのハードドライブブラケットをハードドライブベイから引き抜き、ベイの内部からブラケットを慎重に引き上げて取り外します。

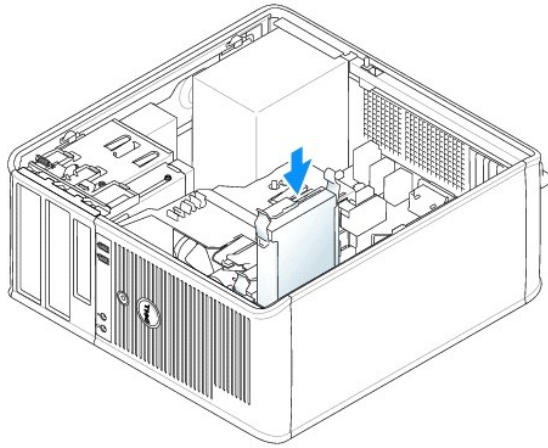
4. ドライバが所定の位置にカチッと収まるまで、ドライブバスケットの横を軽く広げ、ハードドライブをスライドさせてブラケットに取り付けます。

5. 1 台目のハードドライブを上段のベイから下段のベイへ移動するには、次の手順を実行します。

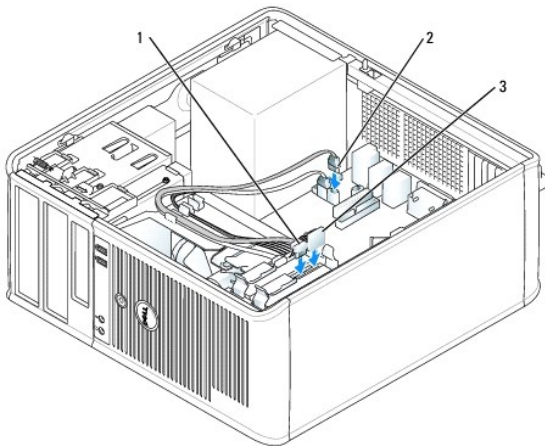
   a. 電源およびデータケーブルを 1 台目のハードドライブの背面から取り外します。

   b. ドライブ両端の青色のリリースタブを押し、1 台目のハードドライブを上にスライドさて、上段のベイから取り出します。

   c. カチッと所定の位置に収まるまで、慎重に 1 台目のハードドライブを下段のベイの中へスライドします。

6. カチッと所定の位置に収まるまで、慎重に新しいハードドライブを上段のベイの中へスライドします。

7. 電源ケーブルをドライブに接続します。

8. 5ステップ で取り外した SATA コネクタを 1 台目のハードドライブに取り付けます。

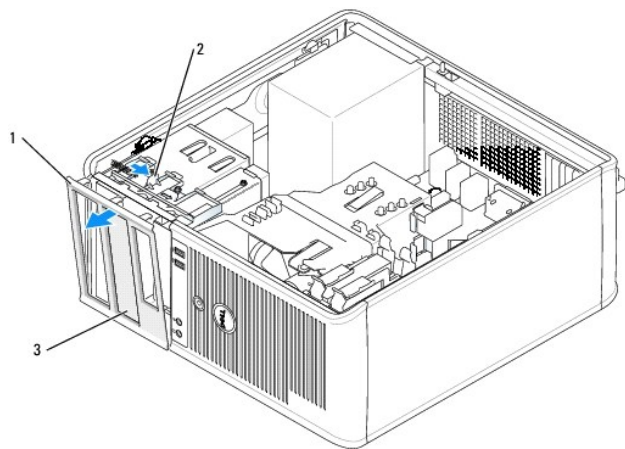
9. システム基板の未使用の SATA コネクタの位置を確認し、データケーブルをこのコネクタと 2 台目のハードドライブに接続します。

1	データケーブル
2	ハードドライブのシステム基板コネクタ
3	電源ケーブル

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

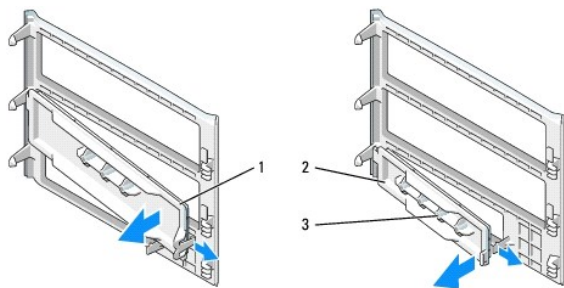
ドライブベイカバー

フロッピードライブまたはオプティカルドライブを交換するのではなく、新しいものを取り付ける場合は、ドライブベイカバーを取り外します。

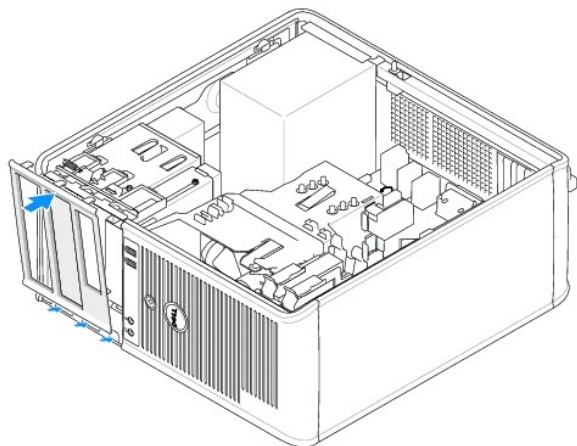
1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. ドライブリリースラッチを下方向にスライドさせてドライブパネルを開き、取り外します。次に、ヒンジからドライブパネルを取り外します。

1	ドライブパネル
2	リリースタブ
3	ドライブベイカバー

3. 使用するドライブベイの前面にあるドライブベイカバーを選択します。

4. ドライブベイカバーのリリースタブを軽く押して、ドライブパネルから取り外します。

1	オプティカルドライブベイカバー
2	フロッピードライブベイカバー
3	肩付きネジ用ホルダ

5. ドライブパネルをコンピュータの前面に元のとおりに取り付けます。

   ドライブパネルは一方向にしか取り付けられません。

フロッピードライブまたはメディアカードリーダー

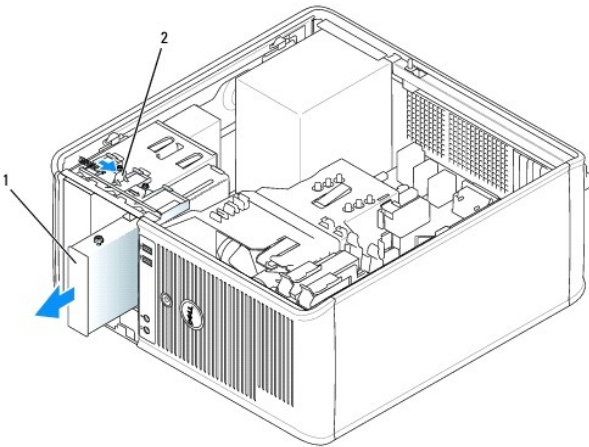
⚠ **警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

⚠ **警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**

フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

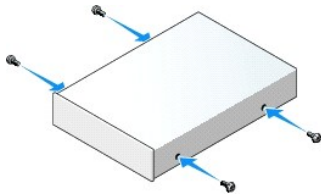
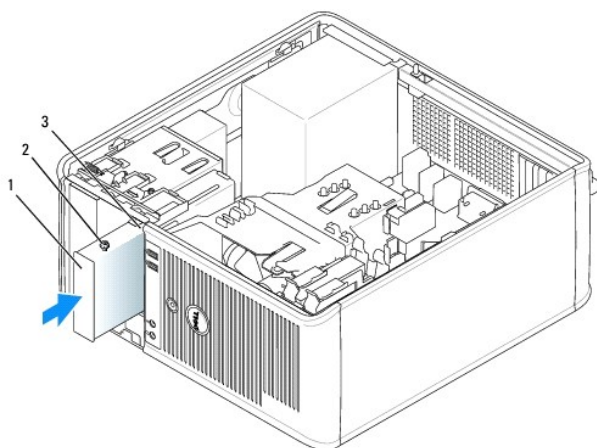
2. ドライブリリースラッチを下方向にスライドさせてドライブパネルを開き、取り外します。次に、ヒンジからドライブパネルを取り外します。

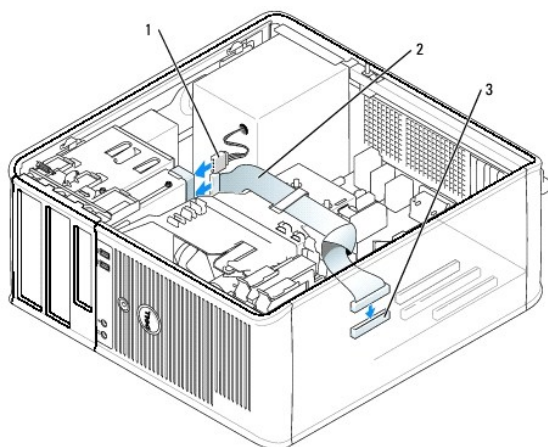
3. フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの背面から電源ケーブルおよびデータケーブルを取り外します。

1	フロッピードライブまたはメディアカードリーダー
2	ドライブリリースラッチ

4. スライドプレートレバーをつかみ、上方向に上げてドライブパネルを開きます。レバーを持った状態で、ドライブまたはメディアカードリーダーを取り出します。

フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り付け

1. フロッピードライブまたはメディアカードリーダーを交換する場合、肩付きネジを既存のドライブから取り外し、このネジを交換用ドライブに取り付けます。

2. 新しいフロッピードライブまたはメディアカードリーダーを取り付ける場合は、3.5 インチドライブベイのドライブベイカバーを取り外し、肩付きネジをドライブベイカバーの内側から外して、このネジを新しいドライブに取り付けます。

3. フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの肩付きネジを肩付きネジスロットに合わせ、カチッと所定の位置に収まるまでドライブをベイに軽くスライドします。

1	フロッピードライブまたはメディアカードリーダー
2	肩付きネジ（4）
3	肩付きネジスロット（2）

4. フロッピードライブまたはメディアカードリーダーに電源ケーブルおよびデータケーブルを取り付けます。

1	電源ケーブル
2	データケーブル
3	フロッピードライブコネクタ（DSKT）

5. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

6. セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動 を参照）、**Diskette Drive** オプションで新しいフロッピードライブを有効にします。

7. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

オプティカルドライブ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

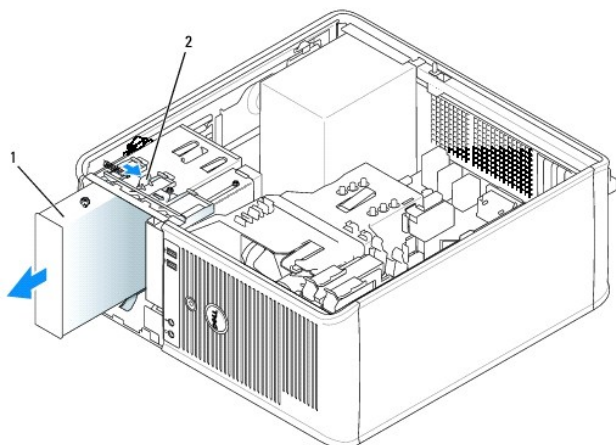
警告: 感電防止のため、カバーを交換する前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

オプティカルドライブの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

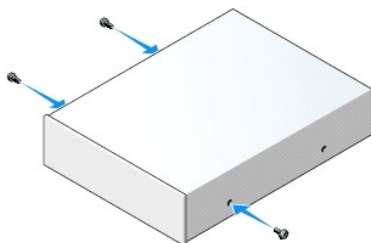
2. 電源ケーブルおよびデータケーブルを、ドライブの背面から取り外します。

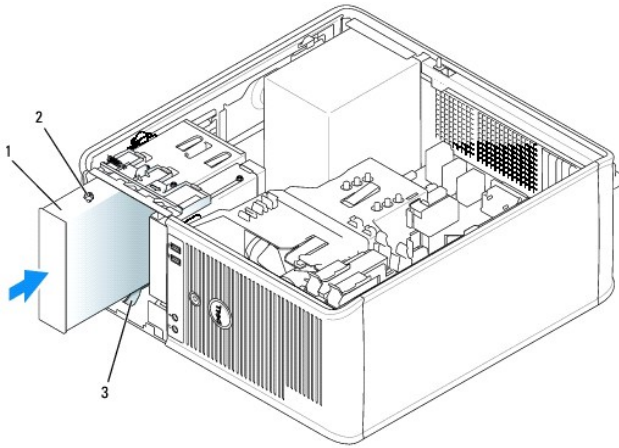
3. スライドプレートレバーをつかみ、上方向に上げてドライブパネルを開き、レバーを持ったままの状態で、ドライブを取り出します。

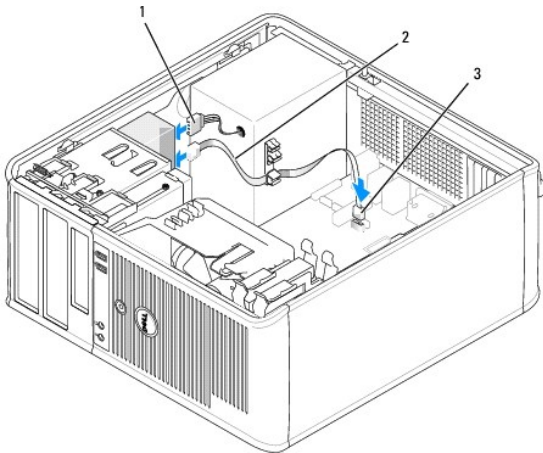
1	オプティカルドライブ
2	ドライブリリースラッチ

オプティカルドライブの取り付け

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. オプティカルドライブを交換する場合、肩付きネジを既存のドライブから取り外し、このネジを交換用ドライブに取り付けます。

3. 新しいオプティカルドライブを取り付ける場合は、新しいドライブのドライブベイカバーを取り外し、肩付きネジをドライブベイカバーから外して、このネジを新しいドライブに取り付けます。

4. ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。

5. オプティカルドライブの肩付きネジを肩付きネジスロットに合わせ、カチッと所定の位置に収まるまでドライブをベイに軽くスライドします。

1	オプティカルドライブ
2	肩付きネジ(3)
3	肩付きネジスロット(2)

6. 電源ケーブルとデータケーブルをドライブとシステム基板に接続します。

1	電源ケーブル
2	データケーブル
3	SATA オプティカルドライブコネクタ

7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

8. コンピュータカバーを取り付けます(コンピュータカバーの取り外しを参照)。

9. **Drives** で適切な **Drive** オプション(**0** または **1**)を設定して、セットアップユーティリティで設定情報を更新します。セットアップユーティリティを参照してください。

10. Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します(Dell Diagnostics(診断)プログラム を参照)。

目次に戻る

I/O パネル

I/O パネルの取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

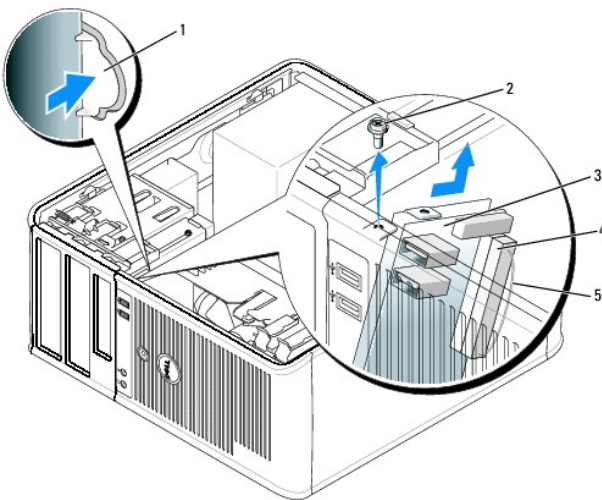
警告: 感電防止のため、カバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

メモ: 新しい I/O パネルを取り付けるときに正しく配線できるよう、ケーブルを外す前にケーブルのすべての配線経路をメモしておいてください。

1. [作業を開始する前に](#)の手順に従って操作してください。

注意: I/O パネルをコンピュータから引き出すときには、特に注意を払ってください。注意を怠ると、ケーブルコネクタおよびケーブル配線クリップに損傷を与える場合があります。

2. I/O パネルを固定しているネジを外します。リリースボタンを押してループを引っ張り、カードをコンピュータから引き出します。

3. すべてのケーブルを I/O パネルから外し、パネルをコンピュータから取り外します。

1	I/O パネルリリースボタン
2	固定ネジ
3	I/O パネル
4	I/O ケーブルコネクタ
5	I/O ケーブルコネクタプルループ

I/O パネルの取り付け

1. I/O パネルを取り付けるには、取り外し手順と逆の順序で実行します。

メモ: I/O パネルブラケットにあるガイドを使って I/O パネルを正しい位置に合わせ、I/O パネルブラケットにある切り込みを使ってパネルを固定してください。

電源装置

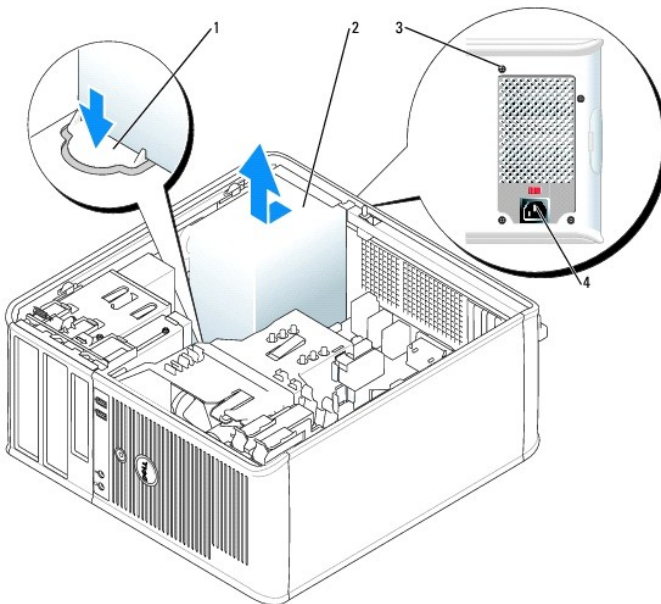
電源装置の交換

警 告: 本 項の手 順を開 始す る前に、『製 品 情報ガイド』の安 全 手 順に従ってください。

注 意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

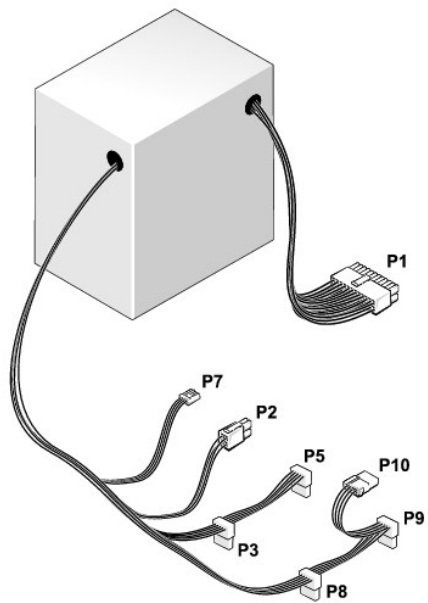
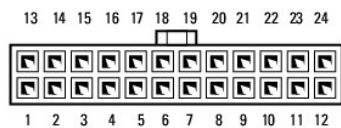
   DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータシャーシ内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

3. 電源装置をコンピュータシャーシの背面に取り付けている 4 本のネジを外します。
4. コンピュータシャーシの底面にあるリリースボタンを押します。

1	リリースボタン
2	電源装置
3	ネジ(4)
4	AC 電源コネクタ

5. 電源装置をコンピュータの前面の方へ約 2.5 cm スライドさせます。
6. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
7. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
8. 電源装置をコンピュータシャーシの背面に固定するネジを取り付けます。

9. DC 電源ケーブルを電源装置に再接続します。

10. AC 電源ケーブルを AC 電源コネクタに接続します。

11. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

DC 電源コネクタ

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	GND	黒色
4	+5 VDC	赤色
5	GND	黒色
6	+5 VDC	赤色
7	GND	黒色
8	PS_PWRGOOD	灰色
9	P5AUX	紫色
10	V_12P0_DIG	白色
11	V_12P0_DIG	白色
12	+3.3 VDC	橙色
13	+3.3VDC/SE*	橙色
14	-12 VDC	青色
15	GND	黒色
16	PWR_PS_ON	緑色

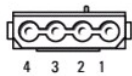
17	GND	黒色
18	GND	黒色
19	GND	黒色
20	NC	NC
21	+5 VDC	赤色
22	+5 VDC	赤色
23	+5 VDC	赤色
24	GND	黒色
* ワイヤはオプションです。18 AWG ワイヤの代わりに 22 AWG ワイヤを使用		

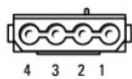
DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	GND	黒色
2	GND	黒色
3	+12 VADC	黄色
4	+12 VADC	黄色

DC 電源コネクタ P3、P5、P8、P9

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	GND	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	GND	黒色
5	+12 VBDC	白色

DC 電源コネクタ P7

ピン番号	信号名	22 AWG ワイヤ
1	+5 VDC	赤色
2	GND	黒色
3	GND	黒色
4	+12 VADC	黄色

DC 電源コネクタ P10

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+12 VBDC	白色
2	GND	黒色
3	GND	黒色
4	+5 VDC	赤色

目次に戻る

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

コンピュータカバーの取り外し

⚠ **警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

⚠ **警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。**

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. 図に示されているように、コンピュータを横向きにします。
3. 図に示されているカバーリリースラッチを確認します。次に、カバーを持ち上げながらリリースラッチを後方にスライドさせます。
4. コンピュータカバーの側面を持ち、ヒンジタブをてこの支点としてカバーを上に動かします。
5. カバーをヒンジタブから取り外し、柔らかく傷が付きにくい場所に置いておきます。

⚠ **警告: グラフィックカードのヒートシンクは、通常の操作でも大変熱くなる可能性があります。グラフィックカードのヒートシンクの熱が冷めるまで十分な時間を置いてから触れるようにします。**

1	セキュリティケーブルスロット
2	カバーリリースラッチ
3	パドロックリング

目次に戻る

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

ミニタワーコンピュータの仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	Intel® Pentium 4® プロセッサ、Pentium® D プロセッサ、Celeron® プロセッサ、Core™ プロセッサ
内蔵キャッシュ	512 KB 以上のパイプラインバースト、8 ウェイセットアソシエィティブ、ライトバック SRAM

メモリ	
タイプ	533 MHz、667 MHz、800 MHz DDR2 SDRAM **メモ:** 2 GB 800 MHz メモリモジュールはサポート対象外です。
メモリのコネクタ	4
対応するメモリモジュール	256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB 非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル: 512 MB シングルチャネル: 256 MB
最大搭載メモリ	**533 MHz または 667 MHz**: 8 GB **800 MHz**: 4 GB
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Intel® Q965 Express
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	32 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ(NVRAM)	8 Mb
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.03 および 2.0 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能

ビデオ	
タイプ	Intel® グラフィックメディアアクセラレータ 3000 または PCI Express x16 グラフィックスカード

オーディオ	
タイプ	ADI 1983 HDA(ハイ・デフィニッション・オーディオ)
ステレオ変換	20 ビット AD 変換および 20 ビット DA 変換

コントローラ	
ドライブ	4 つの SATA コントローラがそれぞれ 1 つのデバイスをサポート

拡張バス	

バスのタイプ	PCI 2.3 PCI Express 1.0A SATA 1.0A および 2.0 USB 2.0
バス速度	PCI: 133 MB/s PCI Express x16: 8 GB/s 双方向スピード PCI Express x1: 5 Gbps SATA: 1.5 Gbps および 3.0 Gbps USB: 480 Mbps
カード:	フルハイトカードをサポート
PCI:	
コネクタ	2 つ
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅 (最大)	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x1 × 1 および x16 × 1
電源	最大 10 W(x1)および 75 W(x16)
コネクタサイズ	36 ピン(x1)および 120 ピン(x16)
コネクタデータ幅(最大)	PCI Express レーン(x1)および 16 PCI Express レーン(x16)

ドライブ	
外部アクセス可能	3.5 インチドライブ × 1 5.25 インチドライブベイ × 2
内部アクセス可能	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 2

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換
パラレル	双方向 25 ピンコネクタ(メス)
ビデオ	15 ピン VGA コネクタ(メス)
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
セカンダリシリアルポートアダプタ付き PS/2(オプション)	6 ピンミニ DIN × 2
USB	USB 2.0 互換コネクタ(前面パネル X 2、背面パネル X 6)
オーディオ	ライン入力 / マイクとライン出力用の 2 つのコネクタ、前面パネルのヘッドフォンおよびマイク用の 2 つのコネクタ
システム基板コネクタ:	
SATA	7 ピンコネクタ × 4
内蔵 USB	オプションのメディアカードリーダー(3.5 インチベイデバイス)用の 10 ピンヘッダー
フロッピードライブ	34 ピンコネクタ
シリアル	オプションのセカンドシリアルポートカード用 12 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ
PCI 2.2	120 ピンコネクタ × 2
前面パネル	40 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	Microsoft® Windows® XP を実行している場合、**Windows Security** ウィンドウが表示されます。MS-DOS モードの場合は、コンピュータを再スタート(再起動)します。
<F2> または<Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動(起動時のみ)
<Ctrl><Alt><b>	セットアップユーティリティの **Boot Sequence** オプションのデバイスからではなく、PXE(リモート起動環境)によって指定されたネットワーク環境からコンピュータを自動的に起動(起動時のみ)
<F12> または<Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー(起動時のみ)、またハードドライブおよびシステム診断プログラムを実行するオプションを表示

ボタンとライト	

電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト - スリープモードのとき緑色に点滅、電源がオンのとき緑色に点灯 黄色のライト - 黄色の点滅は、インストールされたデバイスに問題があることを示し、黄色の点灯は内蔵電源の問題を示す（電源の問題 を参照）
ハードドライブアクセスライト	緑色
リンクライト	ネットワーク接続時は緑色の点灯
リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	10 Mb 伝送時は緑色のライト 100 Mb 伝送時は橙色のライト 1000 Mb（1 Gb）伝送時は黄色のライト
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色の点滅ライト
診断ライト	前面パネルある 4 つのライト。診断ライトを参照してください。
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電 源	
DC 電源装置:	**メモ:** コンピュータの電源を抜くと、消費電力はゼロ
ワット数	305 W
熱消費	1041 BTU/hr **メモ:** 熱消費は電源供給率に基づいて算出されます。
電圧	手動設定電源装置 - 60 Hz で 90～135 V、50 Hz で 180～265 V
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

寸 法	
縦幅	41.4 cm
横幅	18.5 cm
長さ	43.9 cm
重量	12.34 kg

環 境	
温度:	
動作時	10～35 ℃
保管時	-40～65 ℃
相対湿度	20～80 %（結露しないこと）
最大耐久震度:	
動作時	0.25 G（3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分）
保管時	0.5 G（3～200 Hz、1 オクターブ / 分）
最大耐久衝撃:	
動作時	50.8 cm / 秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm / 秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	-15.2～3,048 m
保管時	-15.2～10,668 m

目次に戻る

[目次に戻る]

Microsoft® Windows® XP の特徴

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

新しいコンピュータへの情報の転送

Microsoft®Windows® XP オペレーティングシステムには、データを元のコンピュータから新しいコンピュータに転送する、**ファイルと設定の転送ウィザード** があります。下記のデータが転送できます。

- E-メールメッセージ
- ツールバーの設定
- ウィンドウのサイズ
- インターネットのブックマーク

新しいコンピュータにネットワークやシリアル接続を介してデータを転送したり、書き込み可能 CD などのリムーバブルメディアにデータを保存したりできます。

メモ: 情報を古いコンピュータから新しいコンピュータに転送するには、シリアルケーブルを 2 台のコンピュータの入力 / 出力（I/O）ポートに直接接続します。データをシリアル接続を介して転送するには、コントロールパネルからネットワーク接続ユーティリティにアクセスして、詳細設定接続の設定、およびホストコンピュータやゲストコンピュータの指定など、追加の設定手順を実行する必要があります。2 台のコンピュータで直接ケーブルを設置する手順に関しては、マイクロソフトのウェブサイトにて「直接ケーブル接続を構成する方法」という文書を参照してください。この情報は、特定の国では使用できない場合もあります。

新しいコンピュータに情報を転送するには、ファイルと設定の転送ウィザードを実行する必要があります。このプロセスを実行するには、オプションの『オペレーティングシステム CD』を使用するか、またはファイルと設定の転送ウィザードでウィザードディスクを作成することができます。

オペレーティングシステム CD を使用してファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合

メモ: この手順では、『オペレーティングシステム CD』が必要です。この CD はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

新しいコンピュータに情報を転送するには次の手順を実行します。

1. **ファイルと設定の転送ウィザード**
2. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
3. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送先の新しいコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
4. **Windows XP CD がありますか?** 画面で **Windows XP CD からウィザードを使います** をクリックして、**次へ** をクリックします。
5. **今、古いコンピュータに行ってください** 画面が表示されたら、古いコンピュータまたはソースコンピュータに行きます。このときに、**次へ** をクリック*しない*でください。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1. 古いコンピュータで、Windows XP の『オペレーティングシステム CD』を挿入します。
2. **Microsoft Windows XP へようこそ** 画面で、**追加のタスクを実行する** をクリックします。
3. **実行する操作の選択** で **ファイルと設定を転送する** をクリックします。
4. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
5. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送元の古いコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
6. **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
7. **何を転送しますか?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

   情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

8. **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1. 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
2. **ファイルと設定はどこにありますか?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

   設定とファイルがすべて適用されると、**収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

3. **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

オペレーティングシステム CD を使用せずにファイルと設定の転送ウィザードを実行する場合

『オペレーティングシステム CD』を使用せずに、ファイルと設定の転送ウィザードを実行するには、バックアップイメージファイルをリムーバブルメディアに作成できるウィザードディスクを作成する必要があります。

ウィザードディスクを作成するには、Windows XP を搭載した新しいコンピュータを使用して、以下の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックします。
2. **ファイルと設定の転送ウィザード** をクリックします。
3. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。
4. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送先の新しいコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
5. **Windows XP CD がありますか?** 画面で、**次のドライブでウィザードディスクを作成する:** をクリックして、**次へ** をクリックします。
6. 書き込み可能 CD などのリムーバブルメディアを挿入して、**OK** をクリックします。
7. ディスク作成が完了したら、**古いコンピュータに移動してください** というメッセージが表示されますが、**次へ** はクリックしないでください。
8. 古いコンピュータに移動します。

古いコンピュータからデータをコピーするには次の手順を実行します。

1. 古いコンピュータで、ウィザードディスクを挿入します。
2. **スタート** ボタンをクリックして、**ファイル名を指定して実行** をクリックします。
3. **ファイル名を指定して実行** ウィンドウの **名前** フィールドで、**fastwiz**（該当するリムーバブルメディア）へのパスを参照して入力し **OK** をクリックします。
4. **ファイルと設定の転送ウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
5. **これはどちらのコンピュータですか?** 画面で **転送元の古いコンピュータ** をクリックし、**次へ** をクリックします。
6. **転送方法を選択してください** 画面で希望の転送方法をクリックします。
7. **何を転送しますか?** 画面で転送する項目を選択し、**次へ** をクリックします。

   情報がコピーされた後、**ファイルと設定の収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

8. **完了** をクリックします。

新しいコンピュータにデータを転送するには次の手順を実行します。

1. 新しいコンピュータの **今、古いコンピュータに行ってください** 画面で、**次へ** をクリックします。
2. **ファイルと設定はどこにありますか?** 画面で設定とファイルの転送方法を選択し、**次へ** をクリックします。画面の指示に従います。

   ウィザードは収集されたファイルと設定を読み取り、それらを新しいコンピュータに適用します。

   設定とファイルがすべて適用されると、**収集フェーズを処理しています...** 画面が表示されます。

3. **完了** をクリックして、新しいコンピュータを再起動します。

ユーザーアカウントとユーザーの簡易切り替え

ユーザーアカウントの追加

Microsoft Windows XP オペレーティングシステムがインストールされると、コンピュータ管理者または管理者権限を持つユーザーは、追加するユーザーアカウントを作成することができます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **コントロールパネル** ウィンドウで、**ユーザーアカウント** をクリックします。
3. **作業を選びます** で、**新しいアカウントを作成する** をクリックします。
4. **新しいアカウントに名前を付けます** で、新しいユーザーの名前を入力して、**次へ** をクリックします。
5. **アカウントの種類を選びます** で、以下の項目の 1 つをクリックします。
   - **コンピュータの管理者** - すべてのコンピュータ設定を変更することができます。
   - **制限** - ご自分のパスワードなど、個人的な設定のみを変更することができます。プログラムをインストールしたりインターネットを使用したりすることはできません。

メモ: Windows XP Home Edition または Windows XP Professional のいずれを使用するかによって、他に利用できる追加のオプションが異なります。また、Windows XP Professional で利用できるオプションは、コンピュータがドメインに接続されているかによっても異なります。

6. **アカウントの作成** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替え

メモ: ユーザーの簡易切り替えは、コンピュータで Windows XP Professional が動作していて、コンピュータがコンピュータドメインのメンバーである場合、またはコンピュータに搭載されているメモリが 128 MB 未満の場合は無効になります。

ユーザーの簡易切り替えにより、先に使用していたユーザーがログオフしなくても、複数のユーザーが 1 台のコンピュータにアクセスできます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ログオフ** をクリックします。
2. **Windows のログオフ** ウィンドウで、**ユーザーの切り替え** をクリックします。

ユーザーの簡易切り替えを使用する場合、前のユーザーが実行していたプログラムはバックグラウンドで使用され続けるため、コンピュータの動作が遅く感じられることがあります。また、ゲームや DVD ソフトウェアなどのマルチメディアプログラムは、ユーザーの簡易切り替えでは動作しないことがあります。詳細については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。Windows ヘルプとサポートセンターへのアクセス方法は、情報の検索方法 を参照してください。

家庭用および企業用ネットワークのセットアップ

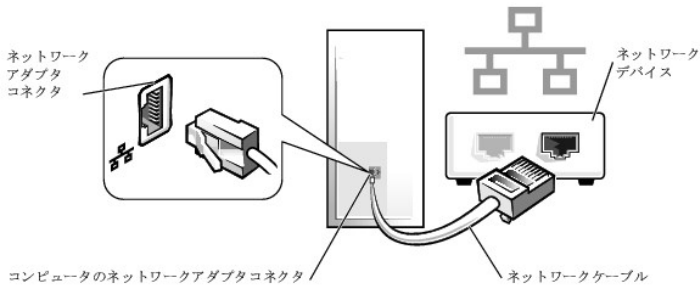
ネットワークアダプタへの接続

ネットワークケーブルを接続するには次の手順を実行します。

メモ: ネットワークケーブルをコンピュータのネットワークアダプタに差し込みます。ネットワークケーブルをコンピュータのモデムコネクタに差し込まないでください。ネットワークケーブルを壁の電話ジャックに差し込まないでください。

1. ネットワークケーブルをコンピュータ背面のネットワークアダプタコネクタに接続します。

   ケーブルをカチッと所定の位置に収まるまで差し込みます。次に、ケーブルを軽く引っ張り、ケーブルの接続を確認します。

2. ネットワークケーブルのもう一方の端をネットワークデバイスに接続します。

ネットワークセットアップウィザード

Microsoft® Windows® XP には家庭または小企業のコンピュータ間で、ファイル、プリンタ、またはインターネット接続を共有するための手順を案内するネットワークセットアップウィザードがあります。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **通信** とポイントして、**ネットワークセットアップウィザード** をクリックします。
2. **ネットワークセットアップウィザードの開始** 画面で、**次へ** をクリックします。
3. **ネットワーク作成のチェックリスト** をクリックします。

メモ: インターネットに直接接続している と表示された接続方法を選択すると、Windows XP Service Pack 1（SP1）以降で提供されている内蔵ファイアウォールを使用することができます。

4. チェックリストの項目を完了し、必要な準備を行います。
5. ネットワークセットアップウィザードに戻り、画面の指示に従います。

目次に戻る

目次に戻る

コンピュータカバーの取り外し

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

1. すべてのケーブルがしっかり接続され、ケーブルが邪魔にならない場所に束ねられているか確認します。

   電源ケーブルがドライブの下に挟まらないように、電源ケーブルを慎重に手前に引きます。

2. コンピュータの内部に工具や余った部品が残っていないか確認します。

3. カバーを取り付けるには、次の手順を実行します。

   a. カバーの下側を、コンピュータの底面の縁に沿ってあるヒンジタブに合わせます。

   b. ヒンジタブをてこのように使い、カバーを下方向に動かして閉じます。

   c. カバーをリリースラッチ上で後方に引いて所定の位置にはめ込み、カバーが正しい位置に収まったらラッチを解放します。

   d. コンピュータを動かす前に、カバーが正しくはまっていることを確認します。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

4. コンピュータスタンドを（使用する場合は）取り付けます。手順については、スタンドに付属しているマニュアルを参照してください。

5. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

   カバーを取り外した後や取り付けた後は、シャーシイントルージョンディテクタ（一部コンピュータではオプションで提供）が取り付けられて有効になっている場合、次回の起動時に、次のメッセージが画面に表示されます。

   `ALERT! Cover was previously removed.（警告 ! カバーが取り外されました。）`

6. セットアップユーティリティで**シャーシイントルージョン**を **On**（オン）または **On-Silent**（オン - 警告メッセージなし）に変更し、シャーシイントルージョンディテクタをリセットします。

メモ: 管理者パスワードが他の人によって設定されている場合、シャーシイントルージョンディテクタのリセット方法はネットワーク管理者にお問い合わせください。

目次に戻る

目次に戻る

拡張カード

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

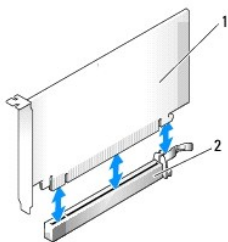
⚠ **警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

お使いの Dell™ コンピュータはシリアルアダプタをサポートしており、PCI Express カード用に以下のコネクタを搭載しています。

- PCI Express x16 カードスロットが 1 つ

メモ: お使いの Dell™ コンピュータは PCI および PCI Express スロットのみを使用します。ISA カードはサポートされていません。

お使いのコンピュータは 1 つの PCI Express x16 カードをサポートしています。

1	PCI Express x16 カード
2	PCI Express x16 カードスロット

PCI Express カードを取り付けるか交換する場合、次の手順を実行します。カードを取り外すだけで取り付けなおさない場合、拡張カードの取り外しを参照してください。

新しいカードに交換する場合は、既存のカードのドライバをアンインストールします。手順については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

拡張カードの取り付け

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを動かして開きます。ラッチは開いた状態のままになります。

3. 新しいカードを取り付ける場合、フィラーブラケットを取り外してカードスロット開口部を空にします。次に手順 5 に進みます。

4. コンピュータに既に取り付けられているカードを交換する場合、カードを取り外します。

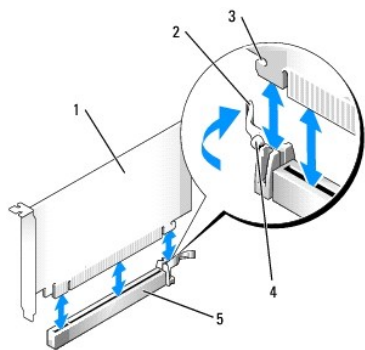
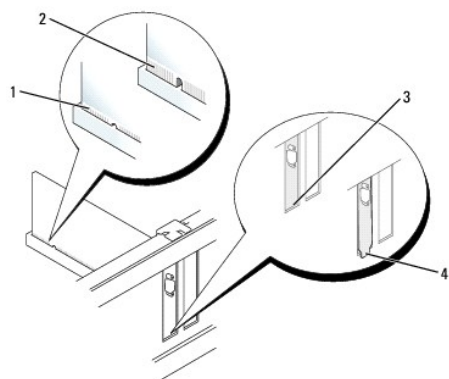
   必要に応じて、カードに接続されたケーブルを外します。カードにカード保持バーが付いている場合は、このバーを外します。固定タブを軽く引き、カードの上端の角を両手でつかみ、コネクタから取り外します。

5. 新しいカードを取り付ける準備をします。

   カードの設定、内部の接続、またはお使いのコンピュータに合わせたカードのカスタマイズの情報については、カードに付属しているマニュアルを参照してください。

⚠ **警告: ネットワークアダプタの中には、ネットワークに接続すると自動的にコンピュータを起動するものがあります。感電防止のため、カードを取り付ける前に、コンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。**

6. カードを x16 カードコネクタに取り付ける場合、固定スロットを固定タブに合わせ、軽く固定タブを引いて、カードを取り付けます。

7. カードをコネクタに置き、しっかりと押し下げます。カードがスロットにしっかりと装着されているか確認します。

1	PCI Express x16 カード
2	レバー
3	固定スロット（すべてのカードに付いているわけではありません）
4	カードクリップタブ
5	PCI Express x16 カードコネクタ

1	完全に装着されたカード
2	完全に装着されていないカード
3	スロット内のブラケット
4	スロットの外側にはみ出したブラケット

8. カード保持装置を取り付ける前に以下のことを確認します。

   - すべてのカードの上部とフィラーブラケットの高さが、位置合わせバーと同じ高さに揃っている
   - カードの上部のノッチまたはフィラーブラケットが、位置合わせガイドと合っている

9. カード保持装置を所定の位置に押し込み、カードをコンピュータに固定します。

注意： カードケーブルは、カードの上や後ろを通して配線しないでください。ケーブルをカードの上を通して配線すると、コンピュータカバーが正しく閉まらなくなったり、装置に損傷を与える恐れがあります。

注意： ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. シリアルポートアダプタの取り付けでは、システム基板のシリアルポートアダプタコネクタ（SER2）にアダプタケーブルを接続します。

11. 必要なすべてのケーブルをカードに接続します。

    カードのケーブル接続については、カードに付属のマニュアルを参照してください。

12. コンピュータカバーを取り付けます。（コンピュータカバーの取り外し を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに差し込み、電源を入れます。

13. サウンドカードを取り付けた場合、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動し、**オーディオコントローラ** を選択して、設定を **Off**（オフ）に変更します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

    b. 外付けオーディオデバイスをサウンドカードのコネクタに接続します。外付けオーディオデバイスを、背面パネルのマイクコネクタ、スピーカー / ヘッドフォンコネクタ、またはライン入力コネクタに接続しないでください。

14. ネットワークアダプタカードを取り付けており、内蔵ネットワークアダプタを無効にする場合は、次の手順を実行します。

    a. セットアップユーティリティを起動し、**Network Controller**（ネットワークコントローラ）を選択し、設定を **Off**（オフ）に変更します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

    b. ネットワークケーブルをネットワークアダプタカードのコネクタに接続します。ネットワークケーブルをコンピュータの背面パネルの内蔵ネットワークコネクタに接続しないでください。

15. カードのマニュアルに記載されている、カードに必要なドライバをインストールします。

拡張カードの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. カード固定ラッチのリリースタブを内側から慎重に押し、ラッチを動かして開きます。ラッチは繋留しているため、開いたままの状態になります。

3. アダプタに接続されているケーブルがあれば外します。

4. 拡張カードの上端の角をつかみ、コネクタから引き抜きます。

5. カードを取り外したままにする場合、空のカードスロット開口部にフィラーブラケットを取り付けます。

メモ: コンピュータの FCC 認証を満たすため、フィラーブラケットを空のカードスロット開口部に取り付ける必要があります。ブラケットを付けることにより、ほこりが入り込むのを防ぎ、冷却用の通気を確保することができます。

6. カード保持装置をタブに差し込んで、所定の位置まで回転して押し込みます。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

7. 保持アームを下げ、所定の位置に押し込みます。

8. カード固定ラッチを閉じて所定の位置に押し込み、カードを固定します。

9. コンピュータカバーを取り付け（コンピュータカバーの取り外し を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに再び差し込み、電源を入れます。

目次に戻る

目次に戻る

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

プロセッサ

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

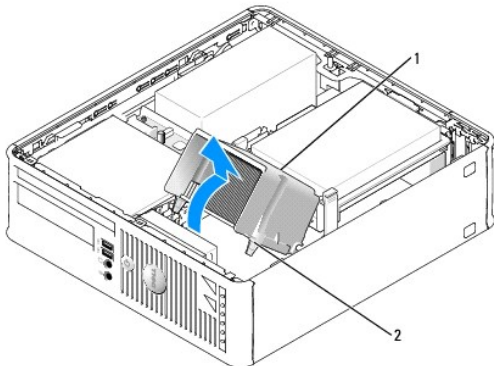
注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

プロセッサの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. ヒートシンクアセンブリの両端にある拘束ネジを緩めます。

警告: プラスティック製のシールドがあっても、ヒートシンクアセンブリは正常な動作中に過熱する場合があります。 十分な時間を置いて温度が下がったのを確認してから、ヒートシンクアセンブリに触るようにします。

3. ヒートシンクアセンブリを上向きに回転させ、コンピュータから取り外します。
   サーマルグリースが付いた面を上に向けて、ヒートシンクを上向きに置きます。

1	ヒートシンクアセンブリ
2	ハウジングの拘束ネジ(2)

注意: 新しいプロセッサに新しいヒートシンクを取り付ける必要がある場合は、プロセッサを交換する際に、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

4. ソケット上にあるセンターカバーラッチの下からリリースレバーをスライドさせて、プロセッサカバーを開きます。次にレバーを後方に引いて、プロセッサを取り出します。

1	センターカバーラッチ
2	プロセッサカバー
3	プロセッサ
4	ソケット
5	リリースレバー

注意: プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

5. 注意深くプロセッサをソケットから取り外します。

   新しいプロセッサをソケットにすぐに取り付けられるように、リリースレバーはリリース位置に広げたままにしておきます。

プロセッサの取り付け

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

注意: プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

注意: コンピュータの電源を入れるときにプロセッサとコンピュータに修復できない損傷を与えないため、プロセッサをソケットに正しく装着してください。

3. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。

4. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みを、ソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。

5. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わせ用切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印
4	プロセッサソケット	9	背面位置合わせ用切り込み
5	センターカバーラッチ		

注意: プロセッサへの損傷を防ぐため、プロセッサとソケットがきちんと揃っているか確認します。プロセッサを取り付ける際は、力を入れすぎないでください。

6. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。

7. プロセッサがソケットに完全に装着されたら、プロセッサカバーを閉じます。

   プロセッサカバーのタブがソケットのセンターカバーラッチの下にあるか確認します。

8. カチッと所定の位置に収まるまで、ソケットリリースレバーをソケットの方に戻して、プロセッサを固定します。

9. ヒートシンクの下面からサーマルグリースを除去してください。

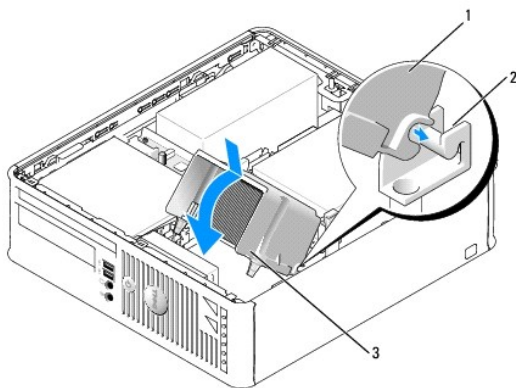
注意: 新しいサーマルグリースを塗ります。 サーマルグリースは、重要な熱接着機能を持ち、プロセッサの最適稼動に必要です。

10. プロセッサの表面に、新しいサーマルグリースを塗ります。

11. ヒートシンクアセンブリを取り付けます。

    a. ヒートシンクアセンブリをヒートシンクアセンブリブラケットに元のように配置します。

    b. ヒートシンクアセンブリをコンピュータの底面方向に動かし、2 つの拘束ネジを締めます。

注意: ヒートシンクが正しく装着され、しっかり固定されているか確認します。

1	ヒートシンクアセンブリ
2	ヒートシンクアセンブリブラケット
3	ハウジングの拘束ネジ（2）

12. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

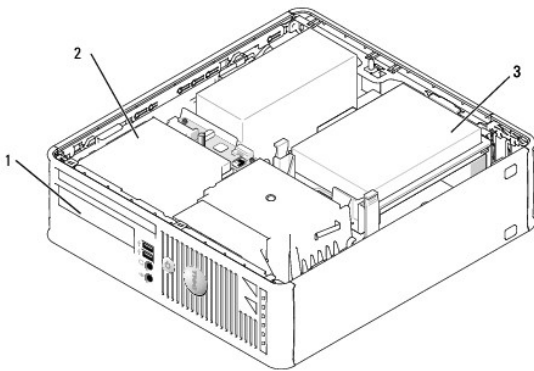
目次に戻る

[目次に戻る]

ドライブ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- SATA（シリアルATA）ドライブを 1 台
- フロッピードライブまたはメディアカードリーダーを 1 台
- SATA オプティカルドライブを 1 台

1	オプションのフロッピーまたはメディアカードリーダー用の FlexBay
2	オプティカルドライブ
3	ハードドライブ

一般的な取り付けガイドライン

SATA ハードドライブまたはオプティカルドライブを、システム基板の「SATA」というラベルのコネクタに接続します（システム基板のコンポーネント を参照）。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル（DC 電源ケーブルとデータケーブル）をドライブの背面およびシステム基板に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

シリアル ATA コネクタ

1	インタフェースケーブルコネクタ
2	インタフェースコネクタ

大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ（ケーブルの片側に色帯が付いています。シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません）が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意: インタフェースケーブルを誤った方向に差し込むと、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

SATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持ち、ケーブルを外します。SATA インタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。

ハードドライブ

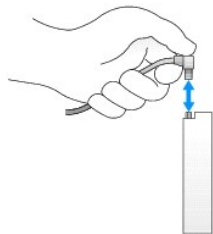
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

ハードドライブの取り外し

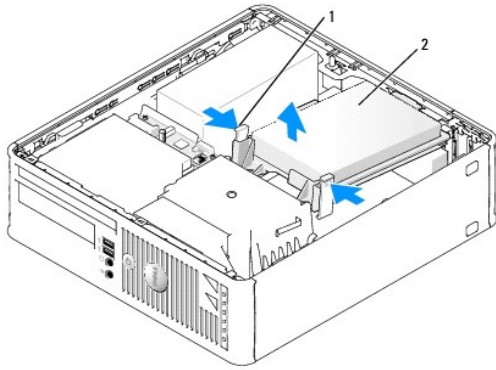
1. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

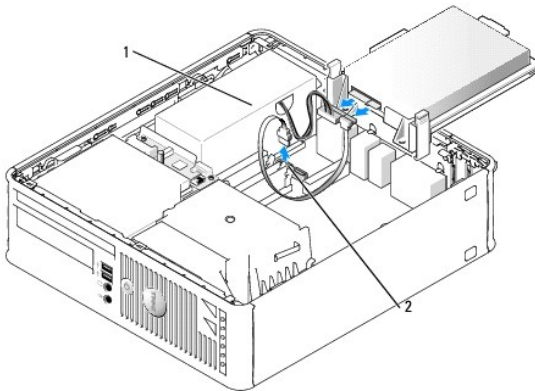
2. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

3. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

4. コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。

5. ドライブ両端の 2 つの青色の固定タブを押し入れ、ドライブを上にスライドさせてコンピュータから出します。

注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

6. ドライブをコンピュータ本体から取り出します。接続されているケーブルを引っ張らないように注意してください。

1	固定タブ（2）
2	ハードドライブ

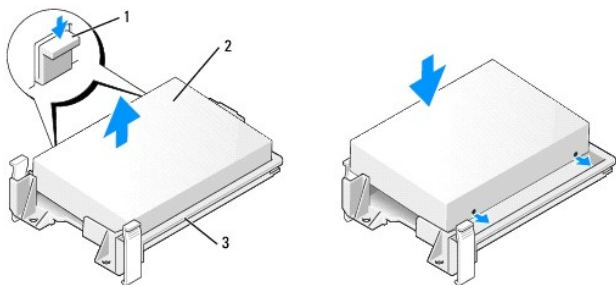
7. 電源ケーブルとデータケーブルをドライブから外します。

1	電源ケーブル
2	SATA データケーブル

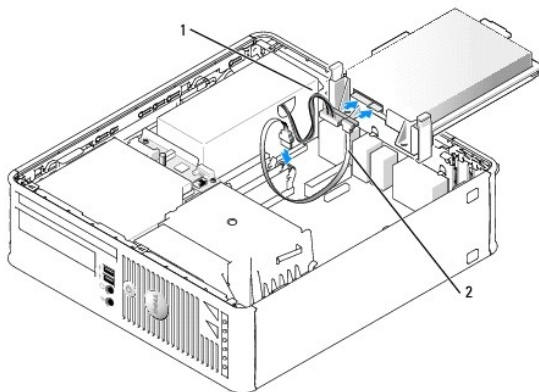
ハードドライブの取り付け

1. ドライブのマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに合わせて設定されているか確認します。

注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

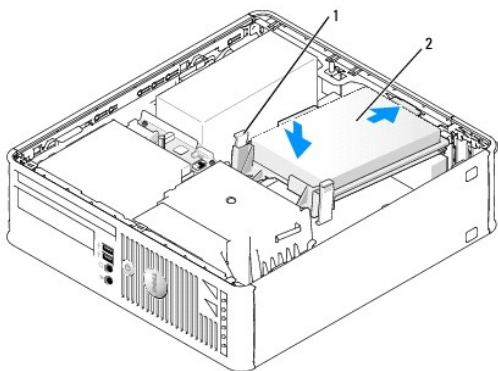
2. 交換用のハードドライブを箱から出し、取り付けの準備をします。

3. 交換用のハードドライブにプラスチックのドライブブラケットがない場合は、既存のドライブからブラケットをカチッと取り外します。

1	リリースタブ（2）

2	ドライブ
3	ハードドライブブラケット

4. 電源ケーブルおよびデータケーブルをドライブに接続します。

1	電源ケーブル
2	SATA データケーブル

5. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

6. カチッと所定の位置に収まるまで、慎重にドライブを置きます。

1	リリースタブ（2）
2	ハードドライブ

7. すべてのコネクタが正しく接続され、しっかりと装着されているか確認します。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

9. プライマリドライブを取り付けた場合、起動可能なメディアをお使いの起動ドライブに挿入します。

10. コンピュータの電源を入れます。

11. セットアップユーティリティを起動します（セットアップユーティリティの起動を参照）、適切な **Primary Drive**（プライマリデバイス）オプション（**0** または **2**）をアップデートします。

12. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

13. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

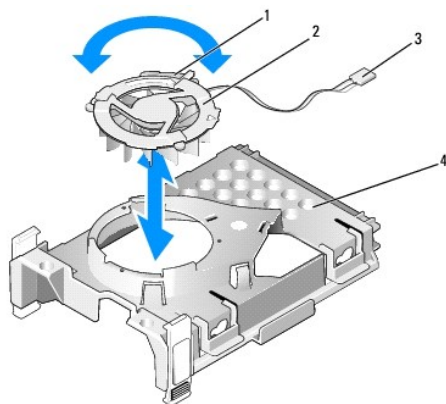
    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

14. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします（ Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

15. ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

ハードドライブファンの交換（一部の構成のみで必要）

1. 作業を開始する前に の手順に従います。
2. ハードドライブを取り外します（ハードドライブの取り外しを参照）。
3. ハードドライブを上下逆さまにすると、ドライブブラケットの下にハードドライブファンが見えます。
4. 次の手順で、ハードドライブファンを取り外します。
   a. ファンのケーブルを抜きます。
   b. ファンの背面パネルにあるリリースタブを持ち上げます。
   c. ファンの背面パネル矢印とは反対方向にファンを回します。
   d. 持ち上げて、ハードドライブブラケットからファンと背面パネルを外します。

1	ファンリリースタブ
2	背面パネル付きファン
3	電源ケーブル
4	ハードドライブブラケット

5. 次の手順で、ハードドライブファンを取り付けます。
   a. ファンの背面パネルにある 2 つのペグとタブを、2 つのペグ穴とファンのスロットに合わせ、ファンと背面パネルを一緒に押し込みます。
   b. ファンを上下逆さまにして背面を上向きにし、ファンの背面パネルにある三角形とハードドライブブラケットの背面にある三角形の位置を合わせます。
   c. ファンと背面パネルを、背面パネルの矢印の方向に回します。

オプティカルドライブ

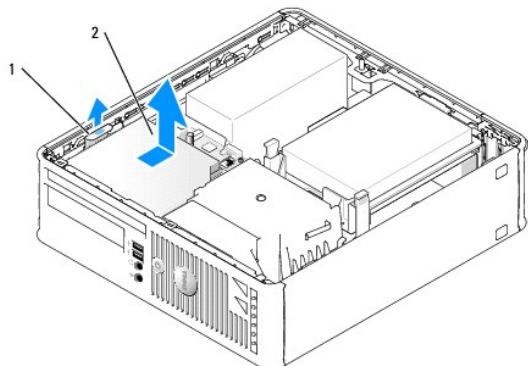
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

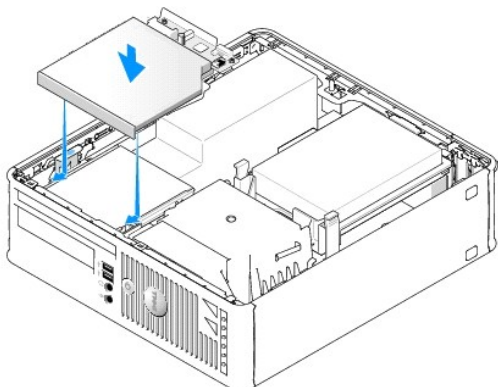
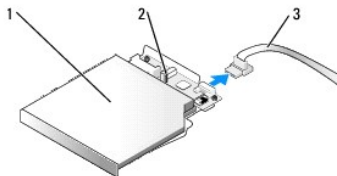
警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

オプティカルドライブの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。

注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

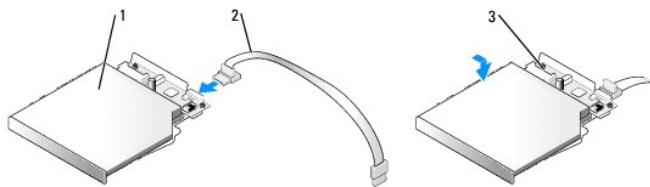
3. ドライブリリースラッチを引き上げ、ドライブをコンピュータの背面方向にスライドさせます。次に、ドライブをコンピュータから持ち上げて取り外します。

1	ドライブリリースラッチ
2	オプティカルドライブ

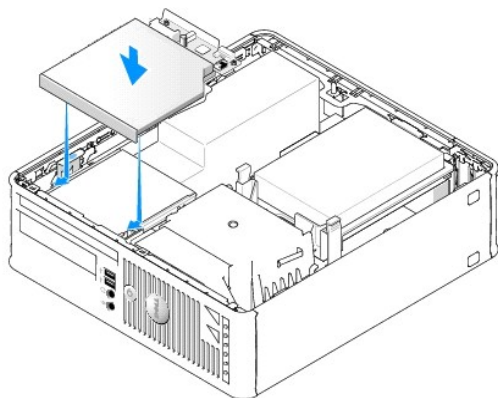
4. データケーブルをシステム基板のコネクタから取り外します（システム基板のコンポーネント を参照）。

5. データケーブルをドライブの背面から外します。

1	オプティカルドライブ
2	ドライブブラケット
3	データケーブル

オプティカルドライブの取り付け

1. ドライブを箱から出して、取り付けの準備をします。

   ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブの設定がお使いのコンピュータに合っているか確認します。

2. データケーブルをドライブに接続します。

1	オプティカルドライブ
2	データケーブル
3	ドライブブラケット

3. カチッと所定の位置に収まるまで、慎重にドライブを置きます。

4. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

5. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

6. ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

7. セットアップユーティリティを起動し、適切な **ドライブ** オプションを選択します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

8. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

フロッピードライブまたはメディアカードリーダー

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り外し

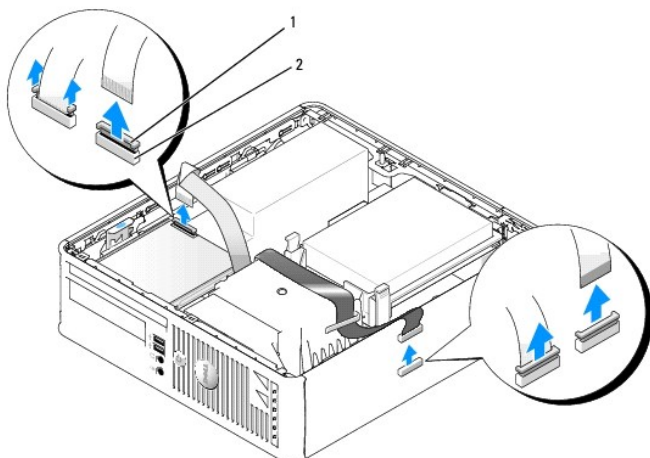
1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. コンピュータ内でシステム基板が下になるように、コンピュータを横に倒します。

3. オプティカルドライブを注意深く取り外します（オプティカルドライブ を参照）。

注意: ドライブをコンピュータから取り出すときに、ドライブケーブルを引っ張らないでください。ケーブルを引っ張ると、ケーブルやケーブルコネクタに損傷を与える場合があります。

4. フロッピードライブを取り外す場合は、ケーブルリリースタブを引き上げて、ロックを解除します。

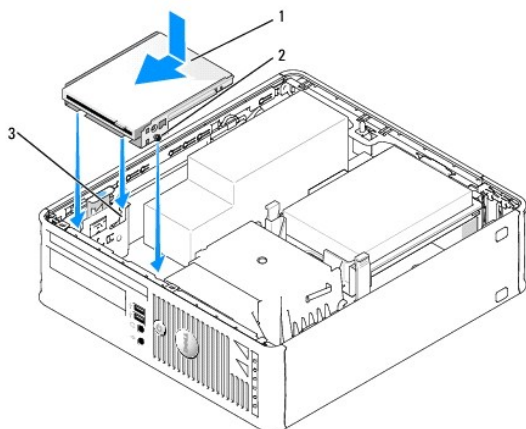
5. フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの背面からデータケーブルを取り外します。

1	ケーブルリリースタブ
2	データケーブルエッジコネクタ

6. フロッピードライブを取り外す場合は、ケーブルリリースタブを引き上げて、ロックを解除します。

7. データケーブルコネクタをシステム基板から取り外します。

8. ドライブリリースラッチを引き上げ、フロッピードライブまたはメディアカードリーダーをコンピュータ背面の方向にスライドさせます。ドライブまたはメディアカードリーダーを持ち上げて取り外します。

フロッピードライブまたはメディアカードリーダーの取り付け

メモ: 交換用のフロッピードライブ、または新しいフロッピーに肩付きネジが付いていない場合は、ドライブベイカバー内のネジを使用します。

1	フロッピードライブまたはメディアカードリーダー
2	ネジ（3）
3	ブラケットレール（3）

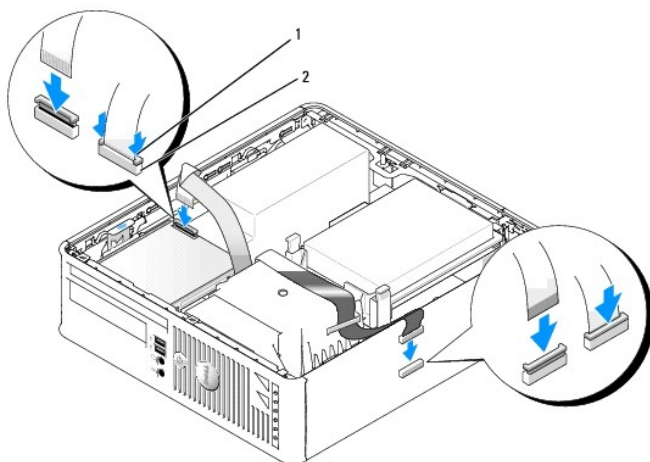
1. ドライブを交換する場合は、フロッピードライブまたはメディアカードリーダーを取り外します（フロッピードライブまたはメディアカードリーダー を参照）。

2. ドライブまたはメディアカードリーダーのネジをコンピュータのブラケットレールに合わせ、カチッと所定の位置に収まるまで慎重にドライブを置きます。

3. フロッピードライブの取り付けでは、フロッピードライブのケーブルリリースタブにデータケーブルを入れて、カチッとロックします。

   メディアカードリーダーの取り付けでは、メディアカードリーダーのコネクタにケーブルを接続します。

4. フロッピードライブの取り付けでは、システム基板のケーブルリリースタブにデータケーブルを入れて、タブを押しカチッとロックします。

メディアカードリーダーの取り付けでは、システム基板の「USB」とラベルが付いたコネクタにケーブルを接続します。

1	ケーブルリリースタブ
2	フロッピードライブのデータケーブルエッジコネクタ

5. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

6. オプティカルドライブを取り付けます（オプティカルドライブ を参照）。

7. すべてのケーブル接続を確認します。冷却ファンや通風孔の妨げにならないように、ケーブルをまとめておきます。

8. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

9. セットアップユーティリティ および **FD ドライブ** オプションで、新しいフロッピードライブを有効にします。

ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

10. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、コンピュータが正しく動作するか確認します（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

目次に戻る

目次に戻る

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

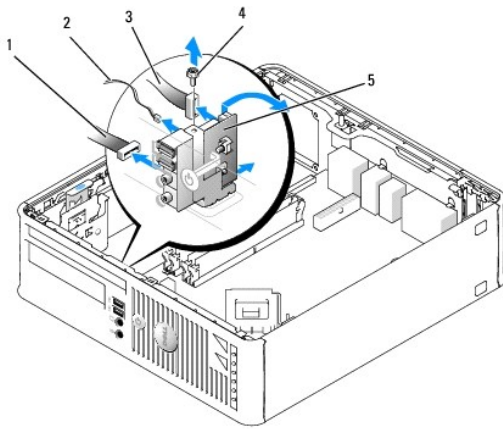
I/O パネル

I/O パネルの取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. オプティカルドライブとフロッピードライブを取り付けている場合は、ドライブベイから取り外します（ドライブ を参照）。
3. プロセッサヒートシンクを外します（プロセッサ を参照）。
4. 前面のファンを取り外します。
   ファンを固定しているタブを内側に押し込み、本体からファンを持ち上げて、ファンをシャーシから外します。
5. I/O パネルを外さない状態で外せるケーブルがあれば、I/O パネルからすべて外します。

   コンピュータからケーブルを取り外す際は、正しく取り付けなおせるようにケーブルの配線経路をメモしておいてください。

1	ファンケーブルコネクタ
2	温度センサーケーブル
3	I/O ケーブルコネクタ
4	ネジ
5	I/O パネル

6. コンピュータカバーの内側から、I/O パネルをコンピュータに固定している取り付けネジを取り外します。
7. I/O パネルを前後に動かして、丸いタブをシャーシの 2 つの孔から外します。
8. 残りのケーブルを外します。正しく取り付けなおせるように、ケーブルの配線経路をメモしておいてください。
9. I/O パネルをコンピュータから取り外します。

I/O パネルの取り付け

1. I/O パネルを取り付けるには、取り外し手順を逆の順序で実行します。

 メモ: I/O パネルブラケットにあるガイドを使って I/O カードを正しい位置に合わせ、I/O パネルブラケットにある切り込みを使ってカードを設置してください。

目次に戻る

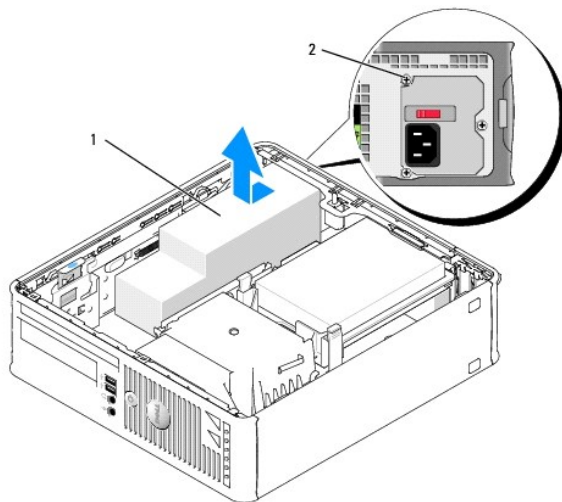
電源装置

電源装置の交換

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

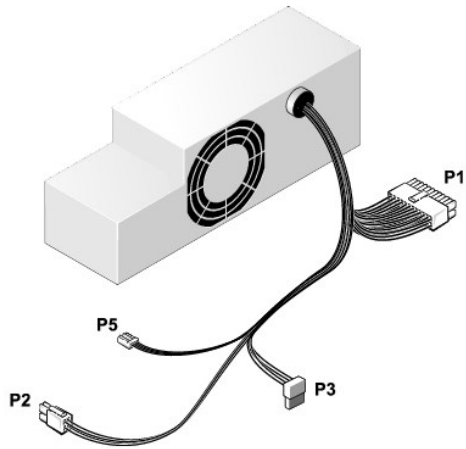
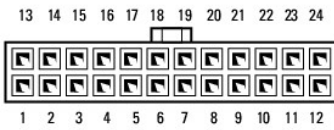
1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. コンピュータシャーシの背面に電源装置を取り付けている 3 本のネジを外します。
3. DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外します。

   DC 電源ケーブルをシステム基板およびドライブから取り外す際は、コンピュータフレーム内のタブの下の配線経路をメモしておいてください。これらのケーブルを再び取り付ける際は、挟まれたり折れ曲がったりしないように、適切に配線してください。

1	電源装置
2	ネジ

4. 電源装置を、コンピュータの前側へ 約 2.5 cm ほどスライドさせます。
5. 電源装置を持ち上げコンピュータから取り出します。
6. 交換用の電源装置をスライドさせて所定の位置に入れます。
7. DC 電源ケーブルを接続します。
8. AC 電源ケーブルをコネクタに接続します。
9. コンピュータカバーを閉じます。

注意: ネットワークケーブルを接続するには、まずネットワークケーブルを壁のネットワークジャックに差し込み、次にコンピュータに差し込みます。

10. コンピュータとデバイスを電源コンセントに接続し、電源を入れます。

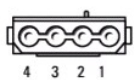
DC 電源コネクタ

DC 電源コネクタ P1

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	+3.3 VDC	橙色
3	GND	黒色
4	+5 VDC	赤色
5	GND	黒色
6	+5 VDC	赤色
7	GND	黒色
8	PS_PWRGOOD*	灰色
9	P5AUX	紫色
10	+12 VDC	黄色
11	+12 VDC	黄色
12	+3.3 VDC	橙色
13 (optional)	+3.3VDC/SE*	橙色
14	-12 VDC*	青色
15	GND	黒色
16	PWR_PS_ON	緑色
17	GND	黒色
18	GND	黒色
19	GND	黒色
20	NC	NC
21	+5 VDC	赤色
22	+5 VDC	赤色
23	+5 VDC	赤色
24	GND	黒色
* 18 AWG ワイヤの代わりに 22 AWG ワイヤを使用		

DC 電源コネクタ P2

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	GND	黒色
2	GND	黒色
3	+12 VDC	黄色
4	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P3

ピン番号	信号名	18 AWG ワイヤ
1	+3.3 VDC	橙色
2	GND	黒色
3	+5 VDC	赤色
4	GND	黒色
5	+12 VDC	黄色

DC 電源コネクタ P5

ピン番号	信号名	24 AWG ワイヤ
1	GND	黒色
2	+5 VDC	赤色
3	NA	NA
4	+3.3 VDC	橙色

目次に戻る

目次に戻る

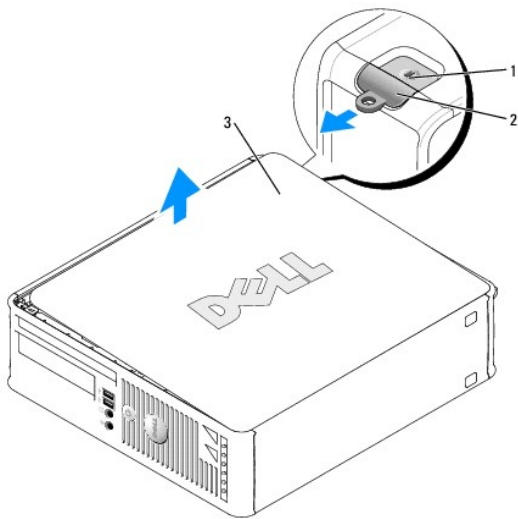
Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

コンピュータカバーの取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。
2. 背面パネルのパドロックリングにパドロックを取り付けている場合、パドロックを取り外します。
3. 図に示されているカバーリリースラッチを確認します。次に、カバーを持ち上げながらリリースラッチを後方にスライドさせます。
4. コンピュータカバーの側面を持ち、底面のヒンジをてこの支点としてカバーを上に動かします。
5. カバーをヒンジタブから取り外し、柔らかく傷が付きにくい場所に置いておきます。

警告: グラフィックカードのヒートシンクは、通常の操作でも大変熱くなる可能性があります。グラフィックカードのヒートシンクの熱が冷めるまで十分な時間を置いてから触れるようにします。

1	セキュリティケーブルスロット
2	カバーリリースラッチ
3	コンピュータカバー

目次に戻る

目次に戻る

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

スモールフォームファクターコンピュータの仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	Intel® Pentium 4® プロセッサ、Pentium® D プロセッサ、Celeron® プロセッサ、Core™ プロセッサ
内蔵キャッシュ	512 KB 以上のパイプラインバースト、8 ウェイセットアソシエィティブ、ライトバック SRAM

メモリ	
タイプ	533 MHz、667 MHz、800 MHz の DDR2 SDRAM **メモ:** 2 GB 800 MHz メモリモジュールはサポート対象外です。
メモリのコネクタ	4
対応するメモリモジュール	256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB 非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル: 512 MBシングルチャンネル: 256 MB
最大搭載メモリ	**533 MHz または 667 MHz**: 8 GB **800 MHz**: 4 GB
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Intel® Q965 Express
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	32 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ(NVRAM)	8 Mb
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.03 および 2.0 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能

ビデオ	
タイプ	Intel® グラフィックメディアアクセラレータ 3000 または PCI Express x16 グラフィックスカード

オーディオ	
タイプ	ADI 1983 HDA(ハイ・デフィニッション・オーディオ)
ステレオ変換	20 ビット AD 変換および 20 ビット DA 変換

コントローラ	
ドライブ	2 つの SATA コントローラがそれぞれ 1 つのデバイスをサポート

拡張バス	
バスのタイプ	PCI 2.3

	PCI Express 1.0A SATA 1.0A および 2.0 USB 2.0
バス速度	PCI: 133 MB/s PCI Express x16:8 GB/s 双方向スピード SATA:1.5 Gbps および 3.0 Gbps USB: 480 Mbps
カード:	ロープロファイルカードをサポート
PCI:	
コネクタ	1
コネクタサイズ	120 ピン
コネクタデータ幅(最大)	32 ビット
PCI Express:	
コネクタ	x16、1 つ
電源	25 W(最大)
コネクタサイズ	164 ピン
コネクタデータ幅(最大)	16 PCI Express レーン

ドライブ	
外部アクセス可能	薄型フロッピードライブ用ベイ × 1 薄型オプティカルドライブ用ベイ × 1
内部アクセス可能	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換
パラレル	双方向 25 ピンコネクタ(メス)
ビデオ	15 ピン VGA コネクタ(メス)
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
USB	USB 2.0 互換コネクタ(前面パネル X 2、背面パネル X 6)
オーディオ	ライン入力 / マイクとライン出力用の 2 つのコネクタ、前面パネルのヘッドフォンおよびマイク用の 2 つのコネクタ
システム基板コネクタ:	
プライマリ IDE ドライブ	40 ピンコネクタ
内蔵 USB	オプションのメディアカードリーダー(3.5 インチベイデバイス)用の 10 ピンヘッダー
SATA	7 ピンコネクタ × 2
フロッピードライブ	34 ピンコネクタ
シリアル	オプションのセカンドシリアルポートカード用 12 ピンコネクタ
ファン	5 ピンコネクタ
PCI 2.2	120 ピンコネクタ
前面パネル	40 ピンコネクタ

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	Microsoft® Windows® XP では、Windows Security ウィンドウを表示、MS-DOS モードでは、コンピュータを再スタート(再起動)
<F2> または<Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動(システム起動時のみ)
<Ctrl><Alt><b>	セットアップユーティリティの **Boot Sequence** オプションのデバイスからではなく、PXE(リモート起動環境)によって指定されたネットワーク環境からコンピュータを自動的に起動(システム起動時のみ)
<F12> または<Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー(システム起動時のみ)、またハードドライブおよびシステム診断プログラムを実行するオプションを表示

ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト - スリープモードのとき緑色に点滅、電源がオンのとき緑色に点灯

	黄色のライト - 黄色の点滅は、インストールされたデバイスに問題があることを示し、黄色の点灯は内蔵電源の問題を示す（電源の問題 を参照）。
ハードドライブアクセスライト	緑色
リンクライト	ネットワーク接続時は緑色の点灯
リンク保全ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	10 Mb 伝送時は緑色のライト 100 Mb 伝送時は橙色のライト 1000 Mb（1 Gb）伝送時は黄色のライト
動作ライト（内蔵ネットワークアダプタ上）	黄色の点滅ライト
診断ライト	前面パネルある 4 つのライト。診断ライトを参照してください。
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電 源	
DC 電源装置：	**メモ：** コンピュータの電源を抜くと、消費電力はゼロ
ワット数	275 W
熱消費	938 BTU/hr **メモ：** 熱消費は電源供給率に基づいて算出されます。
電圧	手動設定電源装置 - 50/60 Hz で 90～135 V、50/60 Hz で 180～265 V
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

寸 法	
縦幅	9.26 cm
横幅	31.37 cm
長さ	34.03 cm
重量	7.4 kg

環 境	
温度：	
動作時	10～35 ℃
保管時	-40～65 ℃
相対湿度	20～80 %（結露しないこと）
最大耐久震度：	
動作時	0.25 G（3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分）
保管時	0.5 G（3～200 Hz、1 オクターブ / 分）
最大耐久衝撃：	
動作時	50.8 cm/秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm/秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度：	
動作時	-15.2～3,048 m
保管時	-15.2～10,668 m

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ 745 ユーザーズ ガイド

スモールフォームファクターコンピュータ

メモ、注意、警告

メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Dell n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合は、このマニュアルの Microsoft Windows オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

モデル DCTR、DCNE、DCSM、および DCCY

2006 年 6 月　KH288　Rev. A00

目次に戻る

スモールフォームファクターコンピュータ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

お使いのスモールフォームファクターコンピュータについて

正面図

1	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスからの起動については、セットアップユーティリティを参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
2	電源ボタン	電源ボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意:** データの損失を防ぐため、電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。詳細に関しては、コンピュータの電源を切るを参照してください。 **注意:** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
3	デルバッジ	このバッジを回転させて、コンピュータの向きに合わせることができます。バッジを回転させるには、バッジの外回りに指を置き、しっかり押してバッジを回します。バッジの下側近くにあるスロットを使って回転させることもできます。
4	LAN インジケータライト	LAN（ローカルエリアネットワーク）接続が確立されていることを示します。
5	診断ライト	診断ライトは、診断コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細に関しては、診断ライトを参照してください。
6	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブがアクセスされているときに、このライトが点滅します。
7	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで以下のさまざまな動作状態を示します。 - 消灯 - コンピュータの電源は切れています。 - 緑色の点灯 - コンピュータは、通常の動作状態です。 - 緑色の点滅 - コンピュータは、省電力モードです。 - 黄色の点滅または点灯 - 電源の問題を参照してください。 省電力モードから復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスが設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止モード、および省電力モードからの復帰の詳細に関しては、 電力の管理 を参照してください。 トラブルシューティングでのライトコードの説明は、システムライト を参照してください。
8	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます
9	マイク用コネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。
10	3.5 インチドライブベイ	オプションのフロッピードライブまたはオプションのメディアカードリーダー用に使用します。
11	5.25 インチドライブベ	オプティカルドライブ用に使用します。このドライブに、CDまたはDVD（サポート対象の場合）を挿入します。

	イ	

背面図

1	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。
2	背面パネルコネクタ	シリアル デバイスや USB デバイスなどを、正しいコネクタに接続します（背面パネルコネクタ を参照）。
3	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
4	電圧切り替えスイッチ	お使いのコンピュータには、手動の電圧切り替えスイッチが装備されています。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、スイッチはお使いになる地域の AC 電源に最も合った電圧に設定してください。 **注意:** 日本では電圧切り替えスイッチを 115 V に設定してください。 また、モニターやコンピュータに接続している周辺機器もお使いになる地域の AC 電源で動作するように設定してください。
5	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
6	カバーリリースラッチ	コンピュータカバーを開くことができます。

背面パネルコネクタ

1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ:** パラレルコネクタを持つカードが内蔵パラレルコネクタと同じアドレスに設定されていることをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細に関しては、セットアップオプションを参照してください。
2	リンク保全ライト	l 緑色 - 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 橙色 - 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 黄色 - 1 Gbps（または 1000 Mbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l オフ - コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ:** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブ

		ルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタ(オンボードサウンドが搭載されたコンピュータで利用可能)を使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン入力 / マイクコネクタ	青とピンクのライン入力 / マイクコネクタ(オンボードサウンド搭載のコンピュータ)には、カセットプレーヤ、CD プレーヤ、VCR などの記録 / 再生デバイスや、サウンドプログラムや電話プログラムへの音声入力または音楽入力用マイクを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、マイクコネクタはカードにあります。
7	USB 2.0 コネクタ (6)	プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
8	ビデオコネクタ	VGA 対応 モニターからのケーブルを青色のコネクタに接続します。 **メモ:** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ:** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
9	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細に関しては、セットアップオプションを参照してください。

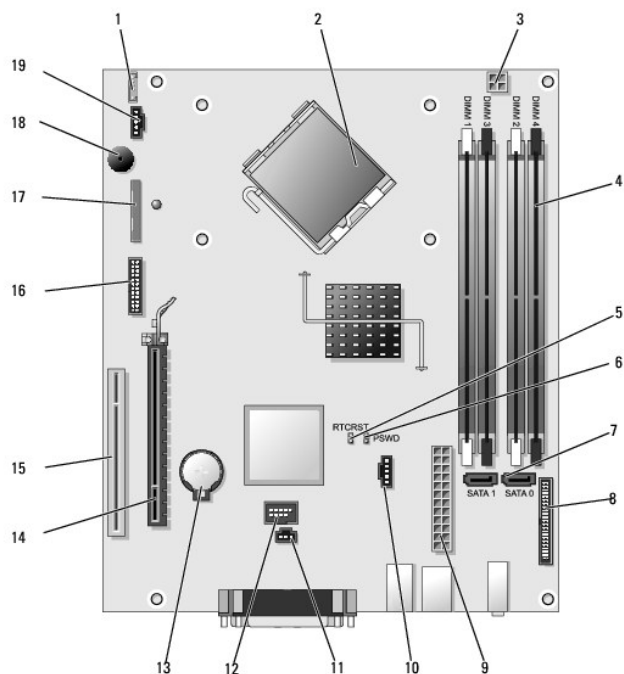
コンピュータ内部

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータカバーを開く際に、ケーブルをシステム基板から外してしまうことがないよう注意してください。

1	ドライブリリースラッチ	4	ハードドライブ
2	オプティカルドライブ	5	システム基板
3	電源装置およびファン	6	ヒートシンクと送風装置アセンブリ

システム基板のコンポーネント

1	内蔵スピーカーコネクタ（INT_SPKR）	11	イントルージョンスイッチコネクタ（INTRUDER）
2	プロセッサコネクタ（CPU）	12	内蔵 USB コネクタ（USB）
3	プロセッサ電源コネクタ（12 V 電源）	13	バッテリーソケット（BATT）
4	メモリモジュールコネクタ (DIMM_1、DIMM_2、DIMM_3、DIMM_4)	14	PCI Express x16 コネクタ（SLOT1）
5	RTC リセットジャンパ（RTCRST）	15	PCI コネクタ（SLOT2）
6	パスワードジャンパ（PSWD）	16	シリアルコネクタ（SER2）
7	SATA コネクタ（SATA0、SATA1）	17	フロッピードライブコネクタ（DSKT）
8	前面パネルコネクタ（FNT_PANEL）	18	システム基板のスピーカー（BEEP）
9	電源コネクタ（POWER）	19	ファンコネクタ（FAN）
10	ファンコネクタ（FAN2）		

目次に戻る

目次に戻る

ドライバとオペレーティングシステムの再インストール

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: Microsoft Windows XP オペレーティングシステムを再インストールする際は、Microsoft Windows XP Service Pack 1 以降を使用する必要があります。

メモ: お使いのコンピュータに固有のイメージをインストールしてある場合、またはオペレーティングシステムを再インストールする必要がある場合、DSS ユーティリティを実行します。DSS は、オプションの 『Drivers and Utilities CD』(『ResourceCD』ともいいます) および **support.jp.dell.com** から入手できます。

ドライバ

ドライバとは?

ドライバは、プリンタ、マウス、キーボードなどのデバイスを制御するプログラムです。すべてのデバイスにドライバプログラムが必要です。

ドライバは、デバイスとそのデバイスを使用するプログラム間の通訳のような役目をします。各デバイスは、そのデバイスのドライバだけが認識する専用のコマンドセットを持っています。

お使いの Dell コンピュータには、出荷時に必要なドライバおよびユーティリティがすでにインストールされていますので、新たにインストールしたり設定したりする必要はありません。

注意: オプションの『Drivers and Utilities CD』には、お使いのコンピュータに搭載されていないオペレーティングシステムのドライバも含まれている場合があります。インストールするソフトウェアがオペレーティングシステムに対応していることを確認してください。

キーボードドライバなど、ドライバの多くは Microsoft Windows オペレーティングシステムに付属しています。以下の場合には、ドライバをインストールする必要があります。

- オペレーティングシステムのアップグレード
- オペレーティングシステムの再インストール
- 新しいデバイスの接続または取り付け

ドライバの識別

デバイスに問題が発生した場合、問題の原因がドライバかどうかを判断し、必要に応じてドライバをアップデートしてください。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3. **システム** をクリックします。
4. **システムのプロパティ** ウインドウの**ハードウェア** タブをクリックします。
5. **デバイスマネージャー** をクリックします。
6. 一覧を下にスクロールして、デバイスアイコンに感嘆符([**!**]の付いた黄色い丸)が付いているものがないか確認します。

   デバイス名の横に感嘆符がある場合、ドライバの再インストール(ドライバと ユーティリティの再インストールを参照)または新しいドライバのインストールが必要になる場合があります。

ドライバと ユーティリティの再インストール

注意: デルサポートウェブサイト(**support.jp.dell.com**)および『Drivers and Utilities CD』では、Dell™ コンピュータに適切なドライバを提供しています。その他の媒体からドライバをインストールする場合、お使いのコンピュータが適切に動作しない恐れがあります。

メモ: 『Drivers and Utilities CD』(Resource CD)はオプションなので、コンピュータに付属していない場合があります。

Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方

新たにドライバをインストールまたはアップデートした後に、コンピュータに問題が発生した場合、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを使用して、以前にインストールしたバージョンのドライバに置き換えることができます。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **作業する分野を選びます** で、**パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3. **システム** をクリックします。
4. **システムのプロパティ** ウインドウの**ハードウェア** タブをクリックします。
5. **デバイスマネージャー** をクリックします。
6. 新しいドライバをインストールしたデバイスを右クリックしてから、**プロパティ** をクリックします。
7. **ドライバ** タブをクリックします。
8. **ドライバのロールバック** をクリックします。

デバイスドライバのロールバックで問題が解決しない場合、「システムの復元（システムの復元の有効化を参照）」を使用して、オペレーティングシステムを新しいデバイスドライバがインストールされる前の動作状態に戻してみます。

オプションのDrivers and Utilities CD の使い方

デバイスドライバのロールバックまたは システム復元（Microsoft® Windows® XP システムの復元の使い方を参照）で問題を解決できない場合、『Drivers and Utilities CD』（ResourceCD とも呼ばれます）からドライバを再インストールします。

メモ: 『Drivers and Utilities CD』（Resource CD）はオプションなので、出荷時にすべてのコンピュータに付属しているわけではありません。

メモ: デバイスドライバおよびユーザーマニュアルにアクセスするには、コンピュータで Windows を実行中に『Drivers and Utilities CD』を使用します。

1. 『Drivers and Utilities CD』を挿入します。

   初めて『Drivers and Utilities CD』を使うときには、**インストール** ウィンドウが開き、CD からインストールが開始されることが通知されます。**OK** をクリックしてインストールプログラムのプロンプトに応答し、インストールを完了します。

2. **Dell™ システムをお買い上げくださりありがとうございます** 画面で **次へ** をクリックします。
3. **System Model**、**Operating System**、**Device Type**、および**Topic** について適切なものを選択します。
4. **Topic** ドロップダウンメニューの **My Drivers** を選択します。

   『Drivers and Utilities CD』はコンピュータのハードウェアおよびオペレーティングシステムをスキャンして、システム構成のデバイスドライバを一覧表示します。

5. 該当するドライバを選択し、手順に従ってお使いのコンピュータ用のドライバをダウンロードします。

コンピュータで使用可能なドライバをすべて表示するには、**Topic** ドロップダウンメニューで **ドライバ** をクリックしてください。

『Drivers and Utilities CD』でヘルプファイルにアクセスするには、画面の上部にある疑問符（?）ボタンまたは **ヘルプ** のリンクをクリックします。

Microsoft® Windows® XP システムの復元の使い方

ハードウェア、ソフトウェア、またはその他のシステム設定を変更したためにコンピュータが正常に動作しなくなってしまった場合、Microsoft Windows XP オペレーティングシステムのシステムの復元を使用して、コンピュータを以前の動作状態に復元することができます（データファイルへの影響はありません）。システムの復元の使い方については、Windows ヘルプとサポートセンターを参照してください。Windows ヘルプとサポートセンターへのアクセス方法については、情報の検索方法 を参照してください。

注意: データファイルのバックアップを定期的に作成してください。システムの復元は、データファイルの変更を監視したり、データファイルを復元することはできません。

復元ポイントの作成

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **システムの復元** をクリックします。
3. 画面の指示に従います。

コンピュータの以前の動作状態への復元

注意: コンピュータを前の動作状態に復元する前に、開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** とポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
2. **コンピュータを以前の状態に復元する** が選択されていることを確認して、**次へ** をクリックします。
3. コンピュータを復元したいカレンダーの日付をクリックします。

   復元ポイントの選択 画面に、復元ポイントが選べるカレンダーが表示されます。復元ポイントが利用できる日付は太字で表示されます。

4. 復元ポイントを選択して、**次へ** をクリックします。

   日付の中に復元ポイントが 1 つしかない場合、その復元ポイントが自動的に選択されます。2 つ以上の復元ポイントが利用可能な場合、希望の復元ポイントをクリックします。

5. **次へ** をクリックします。

   システムの復元がデータの収集を完了したら、**復元は完了しました** 画面が表示され、コンピュータが自動的に再起動します。

6. コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

復元ポイントを変更するには、別の復元ポイントを使って手順を繰り返すか、または復元を取り消すことができます。

最後のシステムの復元を元に戻す

注意: 最後に行ったシステムの復元を取り消す前に、開いているファイルをすべて保存して閉じ、実行中のプログラムをすべて終了してください。システムの復元が完了するまでは、いかなるファイルまたはプログラムも変更したり、開いたり、削除しないでください。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** → **アクセサリ** → **システムツール** とポイントしてから、**システムの復元** をクリックします。
2. **以前の復元を取り消す** を選択して、**次へ** をクリックします。
3. **次へ** をクリックします。

   システムの復元 画面が表示され、コンピュータが再起動します。

4. コンピュータが再起動したら、**OK** をクリックします。

システムの復元の有効化

200 MB より空容量が少ないハードディスクに Windows XP を再インストールした場合、システムの復元は自動的に無効に設定されます。システムの復元が有効になっているか確認するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックします。
3. **システム** をクリックします。
4. **システムの復元** タブをクリックします。
5. **システムの復元を無効にする** にチェックマークが付いていないことを確認します。

Microsoft Windows XP の再インストール

注意: オペレーティングシステムを再インストールする際は、Microsoft Windows XP Service Pack 1 以降を使用する必要があります。

作業を開始する前に

新しくインストールしたドライバの問題を解消するために Windows XP オペレーティングシステムを再インストールすることを検討する前に、Windows XP のデバイスドライバのロールバックを試してみます（Windows XP デバイスドライバのロールバックの使い方を参照）。デバイスドライバのロールバックを実行しても問題が解決されない場合は、システムの復元（Microsoft® Windows®

XP システムの復元の使い方を参照)を使用して、オペレーティングシステムを新しいドライバがインストールされる前の動作状態に戻します。

注意: インストールを実行する前に、お使いのプライマリハードドライブ上のすべてのデータファイルのバックアップを作成しておいてください。標準的なハードドライブ構成において、プライマリハードドライブはコンピュータによって 1 番目のドライブとして認識されます。

Windows XP を再インストールするには、以下のアイテムが必要です。

- Dell™『オペレーティングシステム CD』
- Dell™『Drivers and Utilities CD』

メモ:『Drivers and Utilities CD』には、コンピュータの組み立て時に、工場でインストールされたドライバが含まれています。『Drivers and Utilities CD』を使用して必要なドライバをロードします。

Windows XP の再インストール

Windows XP を再インストールするには、次項で記載されている手順を順番通りに実行します。

再インストール処理を完了するには、1～2 時間かかることがあります。オペレーティングシステムを再インストールした後、デバイスドライバ、アンチウイルスプログラム、およびその他のソフトウェアを再インストールする必要があります。

注意:『オペレーティングシステム CD』は、Windows XP の再インストールのオプションを提供します。オプションはファイルを上書きして、ハードドライブにインストールされているプログラムに影響を与える可能性があります。このような理由から、デルのテクニカルサポート担当者の指示がない限り、Windows XP を再インストールしないでください。

注意: Windows XP との拮抗を防ぐため、システムにインストールされているアンチウイルスソフトウェアを無効にしてから Windows XP を再インストールしてください。手順については、ソフトウェアに付属されているマニュアルを参照してください。

オペレーティングシステム CD からの起動

1. 開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了します。
2. 『オペレーティングシステム CD』を挿入します。`Install Windows XP` というメッセージが表示された場合、**終了** をクリックします。
3. コンピュータを再起動します。
4. DELL™ のロゴが表示されたらすぐに <F12> を押します。

   オペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Windows のデスクトップが表示されるのを待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、再度試みます。
5. 矢印キーを押して **CD-ROM** を選んでから <Enter> を押します。
6. `Press any key to boot from CD` というメッセージが表示されたら、任意のキーを押します。

Windows XP のセットアップ

1. **セットアップの開始** 画面が表示されたら、<Enter> を押して、続行します。
2. **Microsoft Windows ライセンス契約** 画面の内容を読み、キーボードの <F8> を押して、使用許諾契約書に同意します。
3. お使いのコンピュータに Windows XP がインストールされていて、現在の Windows XP データを復元したい場合は、r と入力して修復オプションを選び、CD を取り出します。
4. 新たに Windows XP をインストールする場合は、<Esc> を押してオプションを選択します。
5. <Enter> を押してハイライト表示されたパーティション(推奨)を選び、画面の指示に従います。

   Windows XP セットアップ 画面が表示され、Windows XP は、ファイルのコピーおよびデバイスのインストールを開始します。コンピュータは自動的に数回再起動します。

注意: 次のメッセージが表示される場合、キーは押さないでください。`Press any key to boot from the CD.`

メモ: ハードドライブの容量やコンピュータの速度によって、セットアップに要する時間は異なります。

6. **地域と言語のオプション** 画面が表示されたら、地域の設定を必要に応じてカスタマイズし、**次へ** をクリックします。
7. **ソフトウェアの個人用設定** 画面で、お名前と会社名(オプション)を入力して、**次へ** をクリックします。
8. **コンピュータと Administrator** ウィンドウでお使いのコンピュータ名(または記載の名前を承認)とパスワードを入力して、**次へ** をクリックします。
9. **モデムのダイヤル情報** 画面が表示されたら、必要な情報を入力し、**次へ** を押します。

10. **日付と時間の設定** ウィンドウに、日付、時間、タイムゾーンを入力して、**次へ** をクリックします。

11. **ネットワークの設定** 画面が表示されたら、**標準設定** をクリックして、**次へ** をクリックします。

12. Windows XP Professional を再インストールしている場合、ドメイン名やワークグループ名などのネットワーク設定に関するネットワーク情報が求められることがあります。該当するものを選びます。設定がわからない場合、デフォルトの選択肢を選んでください。

    Windows XP は、オペレーティングシステムのコンポーネントをインストールして、コンピュータを設定します。コンピュータが自動的に再起動します。

注意: 次のメッセージが表示される場合、キーは押さないでください。Press any key to boot from the CD.

13. **Microsoft Windows へようこそ** 画面が表示されたら、**次へ** をクリックします。

14. インターネットに接続する方法を指定してください というメッセージが表示されたら、**省略** をクリックします。

15. **Microsoft にユーザー登録する準備は出来ましたか?** 画面が表示されたら、**いいえ、今回はユーザー登録しません** を選択し、**次へ** をクリックします。

16. **このコンピュータを使うユーザーを指定してください** 画面が表示されたら、最大 5 人のユーザーを入力できます。

17. **次へ** をクリックします。

18. **完了** をクリックしてセットアップを完了し、CD を取り出します。

19. 適切なドライバを『Drivers and Utilities CD』で再インストールします（オプションの Drivers and Utilities CD の使い方を参照）。

20. アンチウイルスソフトウェアを再インストールします。

21. 使用するプログラムを再インストールします。

メモ: Microsoft Office または Microsoft Works Suite プログラムを再インストールして有効にするには、Microsoft Office または Microsoft Works Suite の CD ケースの裏にある Product Key（プロダクトキー）が必要です。

目次に戻る

目次に戻る

問題の解決

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

トラブルシューティングのヒント

コンピュータのトラブルシューティングを実行する際は、以下のヒントに従ってください。

- 部品を追加したり取り外した後に問題が発生した場合、取り付け手順を見直して、部品が正しく取り付けられているか確認します。
- 周辺機器が動作しない場合は、周辺機器が正しく接続されているか確認します。
- 画面にエラーメッセージが表示される場合、メッセージを正確にメモします。このメッセージは、テクニカルサポート担当者が問題を診断して修復するのに役立ちます。
- プログラムの実行中にエラーメッセージが表示される場合、プログラムのマニュアルを参照してください。

バッテリーの問題

以下を確認しながらDiagnostics（診断）チェックリスト に必要事項を記入します。

警告: バッテリーの取り付け方が間違っていると、破裂する危険があります。 交換するバッテリーは、デルが推奨する型、または同等の製品をご利用ください。 使用済みのバッテリーは、製造元の指示に従って廃棄してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

バッテリーの交換 — コンピュータの電源を入れた後、繰り返し時間と日付の情報をリセットする必要がある場合、または起動時に間違った時間または日付が表示される場合、バッテリーを交換します（ バッテリーを参照）。交換してもバッテリーが正常に作動しない場合、デルにお問い合わせください（ デルへのお問い合わせ参照）。

カードの問題

以下を確認しながらDiagnostics（診断）チェックリスト に必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください

警告: 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

カードの装着状態とケーブルの確認 —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから抜いて 10～20 秒待ってから、コンピュータカバーを取り外します（「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
2. 各カードがコネクタにしっかり装着されているかを確認します。しっかり装着されていないカードを装着しなおします。
3. カードのコネクタに対応するすべてのケーブルがしっかりと接続されているか確認します。緩んでいるケーブルは接続しなおします。

   カード上の特定のコネクタにどのケーブルを接続するかについては、カードのマニュアルを参照してください。

4. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます（コンピュータカバーの取り外し を参照）。

グラフィックカードのテスト —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから抜いて 10～20 秒待ってから、コンピュータカバーを取り外します（「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
2. グラフィックスカード以外のすべてのカードを取り外します。「カード」を参照してください。

   プライマリハードドライブがドライブコントローラカードに接続されていて、システム基板の IDE コネクタのいずれにも接続されていない場合、コンピュータに取り付けられたドライブコントローラカードはそのままにしておきます。

3. コンピュータカバーを閉じ（コンピュータカバーの取り外し を参照）、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます
4. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。

カードのテスト —

1. コンピュータとデバイスの電源を切り、コンセントから抜いて 10 ～ 20 秒待ってから、コンピュータカバーを取り外します（「コンピュータカバーの取り外し」を参照）。
2. 前の手順で取り外したカードの 1 つを取り付けなおします。「カード」を参照してください。
3. コンピュータカバーを閉じ、コンピュータとデバイスをコンセントに接続して、電源を入れます（コンピュータカバーの取り外し を参照）。
4. Dell Diagnostics（診断）プログラム を実行します。Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。

   いずれかのテストに失敗した場合、装着しなおしたカードに問題があるので、交換する必要があります。

5. すべてのカードの再取り付けが終わるまで、この手順を繰り返します。

ドライブの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

以下を確認しながらDiagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入します。

ドライブを確認します —

- 元のフロッピーディスク、CD、または DVD に問題がないか確認するため、別のディスクを挿入します。
- 起動可能なメディアを挿入してコンピュータを再起動します。

ドライブまたはディスクをクリーニングします — コンピュータのクリーニングを参照してください。

ケーブルの接続を確認します

ソフトウェアおよびハードウェアの拮抗を調べます — ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照してください。

Dell Diagnostics（診断）プログラム を実行します — Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。

オプティカルドライブの問題

メモ: 高速な CD ドライブや DVD ドライブの振動は一般的なもので、ノイズを引き起こすこともあります。CD や DVD ドライブの故障ではありません。

メモ: 様々なファイル形式があるため、お使いの DVD ドライブでは再生できない DVD もあります。

Windows で音量を調節します —

- 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックします。
- スライドバーをクリックし、上にドラッグして、音量が上がることを確認します。
- チェックマークの付いたボックスをクリックして、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

スピーカーおよびサブウーハーを確認します — サウンドおよびスピーカーの問題を参照してください。

CD / DVD-RW ドライブへの書き込み問題

その他のプログラムを閉じます — CD/DVD-RW ドライブはデータを書き込む際に、一定のデータの流れを必要とします。データの流れが中断されるとエラーが発生します。CD/DVD-RW に書き込みを開始する前に、すべてのプログラムを終了してみます。

CD / DVD-RW ディスクへの書き込みの前に Windows のスタンバイモードを無効にします — バッテリー駆動時間の詳細に関しては、お使いのコンピュータのマニュアル の省電力モードアドバンス機能を参照してください。

ハードドライブの問題

チェックディスクを実行します —

1. **スタート** ボタンをクリックして、**マイコンピュータ** をクリックします。
2. **ローカルディスク C:を右クリックします。**
3. **プロパティ** をクリックします。
4. **ツール** タブをクリックします。
5. **エラーチェック** で、**チェックする** をクリックします。
6. **不良なセクタをスキャンし回復する** をクリックします。
7. **開始** をクリックします。

電子メール、モデム、およびインターネットの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください

警告: 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

メモ: モデムは必ずアナログ電話ジャックに接続してください。デジタル電話回線(ISDN)に接続した場合、モデムは動作しません。

Modem Helper 診断プログラムを実行します — **スタート** ボタンをクリックし、**すべてのプログラム** をポイントして、**Modem Helper** をクリックします。画面の指示に従って、モデムの問題を識別し、その問題を解決します。(Modem Helper は、すべてのコンピュータで利用できるわけではありません。)

モデムが Windows と通信しているか確認します —

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
3. **電話とモデムのオプション** をクリックします。
4. **モデム** タブをクリックします。
5. モデムの COM ポートをクリックします。
6. Windows がモデムを検出したか確認するため、**プロパティ** をクリックし、**診断** タブをクリックして、**モデムの照会** をクリックします。

   すべてのコマンドに応答がある場合、モデムは正しく動作しています。

インターネットへの接続を確認します — ISP(インターネットサービスプロバイダ)との契約が済んでいることを確認します。 E-メールプログラム Outlook Express を起動し、**ファイル** をクリックします。**オフライン作業** の横にチェックマークが付いている場合、チェックマークをクリックし、マークを外して、インターネットに接続します。問題がある場合、ご利用の ISP にお問い合わせください。

キーボードの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

キーボードケーブルを確認します — ・キーボードケーブルがコンピュータにしっかり接続されているか確認します。 ・コンピュータをシャットダウンし、キーボードケーブルを『クイックリファレンスガイド』を参照して 接続しなおし、コンピュータを再起動します。 ・ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。 ・キーボード延長ケーブルを取り外し、キーボードを直接コンピュータに接続します。
キーボードを確認します — 正常に機能している別のキーボードをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいキーボードが機能する場合、元のキーボードに問題があります。
Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します — Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照してください。
ソフトウェアおよびハードウェアの拮抗を調べます — ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決 を参照してください。

ファンの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを開く前に、必ずコンピュータの電源プラグをコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータの塗装されていない金属面に触れることにより、身体の静電気を除去することができます。

ケーブル接続を確認します — カードファンケーブルが、システム基板のカードファンコネクタにしっかりと接続されていることを確認します(「システム基板のコンポーネント」の該当項目を参照)。

フリーズおよびソフトウェアの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

コンピュータが起動しない

診断ライトを確認します — 診断ライトを参照してください。

電源ケーブルがコンピュータとコンセントにしっかりと接続されているか確認します

コンピュータの応答が停止した場合

注意: オペレーティングシステムのシャットダウンが実行できない場合、データを消失する恐れがあります。

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8～10 秒以上押し続けます。 その後、コンピュータを再起動します。

プログラムが応答しない

プログラムを終了します — 1. <Ctrl><Shift><Esc> を同時に押します。 2. **アプリケーション** をクリックします。 3. 反応がなくなったプログラムを選択します。 4. **タスクの終了** をクリックします。

プログラムが繰り返しクラッシュする

メモ: 通常、ソフトウェアのインストール手順は、そのマニュアルまたはフロッピーディスクか CD に収録されています。

ソフトウェアのマニュアルを確認します — 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。

画面が青色（ブルースクリーン）になった

コンピュータの電源を切ります — キーボードのキーを押したり、マウスを動かしてもコンピュータが応答しない場合、コンピュータの電源が切れるまで、電源ボタンを 8～10 秒以上押し続けます。 その後、コンピュータを再起動します。

その他のソフトウェアの問題

問題のあるソフトウェアのマニュアルを参照するか、またはトラブルシューティングの詳細に関して、そのソフトウェアの製造元に問い合わせます — - コンピュータにインストールされているオペレーティングシステムと互換性があるか確認します。 - コンピュータがソフトウェアを実行するのに必要な最小ハードウェア要件を満たしているか確認します。詳細に関しては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。 - プログラムが正しくインストールおよび設定されているか確認します。 - デバイスドライバがプログラムと拮抗していないか確認します。 - 必要に応じて、プログラムをアンインストールしてから再インストールします。
すぐにお使いのファイルのバックアップを作成します
ウイルススキャンプログラムを使って、ハードドライブ、フロッピーディスク、または CD を調べます
開いているファイルをすべて保存してから閉じ、実行中のプログラムをすべて終了して、[スタート] メニューからコンピュータをシャットダウンします
Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — すべてのテストが正常に終了した場合、不具合はソフトウェアの問題に関連しています。 Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。

メディアカードリーダーの問題

ドライブ文字が割り当てられていません —

Microsoft Windows XP でメディアカードリーダーが検出されると、このデバイスには、システム内の他のすべての物理ドライブの後に、その次の論理ドライブとしてドライブ文字が自動的に割り当てられます。物理ドライブの後の次の論理ドライブがネットワークドライブにマッピングされた場合、Windows XP はメディアカードリーダーに自動的にドライブ文字を割り当てることはありません。

メディアカードリーダーに手動でドライブを割り当てるには、次の手順を実行します。

1. マイコンピュータを右クリックして **管理** を選択します。

2. **ディスクの管理** オプションを選択します。
3. 右のペインで、変更する必要のあるドライブ文字を右クリックします。
4. **ドライブ文字とパスの変更** を選択します。
5. ドロップダウンリストから、メディアカードリーダーに割り当てる新しいドライブ文字を選択します。
6. **OK** をクリックして、選択内容を確定します。

メモ: メディアカードリーダーの各スロットには、ドライブ文字が割り当てられています。スロットにメディアカードを挿入しないと、メディアカードリーダーのスロットは、マッピングされたドライブとして表示されません。メディアカードリーダーのマッピング済み空きスロットにアクセスすると、メディアの挿入を指示するプロンプトが表示されます。

FlexBay デバイスは無効です —

BIOS セットアップには、FlexBay を無効にするオプションがあり、FlexBay デバイスがインストールされている場合にのみ表示されます。FlexBay デバイスが物理的にインストールされているのに稼動していない場合は、BIOS セットアップで有効に設定されているかどうかを確認してください。

メモリの問題

メモ: お使いのコンピュータの起動時に、モニターにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音（ビープコード）が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音で、問題を特定します。詳細に関しては、ビープコードを参照してください。

以下を確認しながらDiagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモリが不足しているというメッセージが表示された場合 —

- 作業中のすべてのファイルを保存してから閉じ、使用していない開いているすべてのプログラムを終了して、問題が解決するか調べます。
- メモリの最小要件については、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。必要に応じて、メモリを増設します（メモリの取り付けを参照）。
- メモリモジュールを取り付けなおして、お使いのコンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します（メモリを参照）。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

メモリにその他の問題がある場合 —

- メモリモジュールを取り付けなおして、お使いのコンピュータがメモリと正常に通信しているか確認します（メモリの取り付けを参照）。
- メモリの取り付けガイドラインに従っているか確認します（メモリを参照）。
- Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

マウスの問題

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

マウスケーブルを確認します —

1. ケーブルコネクタが曲がっていないか、ピンが壊れていないか、またはケーブルが損傷を受けていないか、擦り切れていないか確認します。曲がったピンをまっすぐにします。
2. マウス延長ケーブルを使用している場合、延長ケーブルを取り外してマウスをコンピュータに直接接続します。
3. コンピュータをシャットダウンし、マウスケーブルを『クイックリファレンスガイド』を参照して 接続しなおし、コンピュータを再起動します。

コンピュータを再起動します —

1. <Ctrl><Esc> を同時に押して、**スタート** メニューを表示します。
2. u と入力してからキーボードの矢印キーを押して、**シャットダウン** または **終了オプション** を選択して、<Enter> キーを押します。
3. コンピュータの電源が切れた後、マウスケーブルをお使いのコンピュータの『クイックリファレンスガイド』を参照して
4. コンピュータを再起動します。

マウスを確認します — 正常に機能している別のマウスをコンピュータに接続して、使用してみます。新しく接続したマウスが機能する場合、最初に接続していたマウスに問題があります。

マウスの設定を確認します —

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2. **マウス** をクリックします。
3. 設定を変更してみます。

PS/2 マウスを使用している場合

1. セットアップユーティリティを起動して（セットアップユーティリティの起動 を参照）、**Mouse Port**（マウスポート）オプションが **On**（オン）に設定されているか確認します。
2. セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

マウスドライバを再インストールします — ドライバと ユーティリティの再インストールを参照してください。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。

ソフトウェアおよびハードウェアの拮抗を調べます — ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照してください。

ネットワークの問題

以下を確認しながらDiagnostics（診断）チェックリスト に必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

ネットワークケーブルコネクタを確認します — ネットワークケーブルがコンピュータ背面のネットワークコネクタおよびネットワークジャックの両方に、しっかりと差し込まれているか確認します。

コンピュータ前面または背面（シャーシタイプによって異なります）のネットワークライトをチェックします — 接続通知ライトは、ネットワーク接続の切断を通知していません。ネットワークケーブルを取り替えます。

コンピュータを再起動して、再度ネットワークにログオンしなおします

ネットワークの設定を確認します — ネットワーク管理者、またはお使いのネットワークを設定した方にお問い合わせになり、ネットワークへの接続設定が正しく、ネットワークが正常に機能しているか確認します。

ソフトウェアおよびハードウェアの拮抗を調べます — ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決を参照してください。

電源の問題

チェック事項を確認し、Diagnostics（診断）チェックリストに記入してください。

 警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

電源ライトが緑色に点灯していて、コンピュータの反応が停止した場合 — 診断ライトを参照してください。

電源ライトが緑色に点滅している場合 — コンピュータはスタンバイモードに入っています。キーボードのキーを押すか、マウスを動かして通常の動作に戻します。

電源ライトが消灯している場合 — コンピュータの電源が切れているか、またはコンピュータに電力が供給されていません。

- 電源ケーブルをコンピュータ背面の電源コネクタとコンセントの両方にしっかりと装着しなおします。
- コンピュータが電源タップに接続されている場合、電源タップがコンセントに接続され電源タップがオンになっていることを確認します。また電源保護装置、電源タップ、電源延長ケーブルなどをお使いの場合、それらを取り外してコンピュータに正しく電源が入るか確認します。
- 電気スタンドなどの電化製品でコンセントに問題がないか確認します。
- 主電源ケーブルと前面パネルケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します。

電源ライトが橙色および緑色に点灯しているか、または橙色に点灯している場合 — デバイスが故障しているか、または正しく取り付けられていない可能性があります。

- メモリモジュールを取り外してから取り付けます。
- すべてのカードを取り外してから取り付けます。
- グラフィックスカードを取り付けている場合、取り外してから取り付けなおします。

電源ライトが黄色に点滅している場合 —

コンピュータに電力は供給されていますが、内部で電源の問題が発生している可能性があります。

- 電圧切り替えスイッチの設定が、ご使用の地域の AC 電源に一致しているか確認します。
- プロセッサ電源ケーブルがシステム基板にしっかりと接続されているか確認します。

電気的な妨害を解消します — 電気的な妨害の原因には、以下のものがあります。

- 電源ケーブル、キーボードケーブル、およびマウス延長ケーブル
- 電源タップにあまりに多くのデバイスが接続されている
- 同じコンセントに複数の電源タップが接続されている

プリンタの問題

チェック事項を確認し、Diagnostics（診断）チェックリストに記入してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メモ: プリンタのテクニカルサポートが必要な場合、プリンタの製造元にお問い合わせください。

プリンタのマニュアルを確認します — プリンタのセットアップおよびトラブルシューティングの詳細に関しては、プリンタのマニュアルを参照してください。

プリンタの電源が入っているかどうか確認します

プリンタのケーブル接続を確認します —

- ケーブル接続の情報については、プリンタのマニュアルを参照してください。
- プリンタケーブルがプリンタとコンピュータにしっかり接続されているか確認します。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

Windows がプリンタを認識しているか確認します —

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プリンタとその他のハードウェア** をクリックします。
2. **インストールされているプリンタまたは FAX プリンタを表示する** をクリックします。

   プリンタが表示されたら、プリンタのアイコンを右クリックします。

3. **プロパティ** をクリックして、**ポート** タブをクリックします。パラレルプリンタの場合、**印刷先のポート** を **LPT1（プリンタポート）** に設定します。USB プリンタの場合、**印刷先のポート** が **USB** に設定されているか確認します。

プリンタドライバを再インストールします — 手順については、プリンタに付属しているマニュアルを参照してください。

デフォルト設定の復元

コンピュータシステムの設定をデフォルト値にするには、次の手順を実行します —

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. 画面の右上角に Press <F2> to Enter Setup と表示されたら、すぐに<F2>を押します。

   ここで時間をおきすぎて Microsoft® Windows® のロゴが表示された場合は、Windows デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、**スタート** メニューからコンピュータをシャットダウンし、もう一度やりなおします。

3. **System Management**（システム管理）で、**Maintenance**（メンテナンス）オプションを選び、画面の指示に従います（セットアップオプション を参照）。

シリアルまたはパラレルデバイスの問題

チェック事項を確認し、Diagnostics（診断）チェックリストに記入してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

 メモ: プリンタに問題がある場合、プリンタの問題 を参照してください。

オプション設定を確認します — 推奨される設定については、デバイスのマニュアルを参照してください。セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動 を参照）、**Serial Port #1**（シリアルポート 1）の設定（オプションのシリアルポートアダプタが取り付けてある場合は **Serial Port #2**（シリアルポート 2）の設定）または **LPT Port Mode**（LPTポートモード）の設定が推奨値と一致しているか確認します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。

サウンドおよびスピーカーの問題

チェック事項を確認し、Diagnostics（診断）チェックリストに記入してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

スピーカーから音が出ない場合

 メモ: MP3 プレーヤーの音量調節は、Windows の音量設定より優先されることがあります。MP3 の音楽を聴いていた場合、プレーヤーの音量が十分か確認してください。

スピーカーケーブルの接続を確認します — スピーカーのセットアップ図の指示通りにスピーカーが接続されているか確認してください。サウンド オーディオカードをご購入された場合、スピーカーがカードに接続されているか確認します。

サブウーハーおよびスピーカーの電源が入っているか確認します — スピーカーに付属しているセットアップ図を参照してください。スピーカーにボリュームコントロールが付いている場合、音量、低音、または高音を調整して音の歪みを解消します。

Windows のボリューム調整 — 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ヘッドフォンをヘッドフォンコネクタから取り外します — コンピュータの前面パネルにあるヘッドフォンコネクタにヘッドフォンを接続すると、自動的にスピーカーからの音声は聞こえなくなります。

コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。

デジタルモードを有効にします — CD ドライブがアナログモードで動作している場合、お使いのスピーカーは機能しません。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。
2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックします。
4. お使いの CD ドライブ名をダブルクリックします。
5. **プロパティ** タブをクリックします。
6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスにチェックマークを付けます。

電気的な妨害を解消します — コンピュータの近くで使用している扇風機、蛍光灯、またはハロゲンランプの電源を切ってみます。

スピーカーの診断プログラムを実行します

サウンドドライ オーディオ ールします — ドライバと ユーティリティの再インストールを参照してください。

デバイスオプション設定を確認します — セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動 を参照）、**Audio Controller**（オーディオコントローラ）オプションが **On**（オン）に設定されているか確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。

オーディオカードがインストール済みの場合：
セットアップユーティリティを起動して、**Integrated Audio**（内蔵オーディオ）が **Off**（オフ）に設定されていることを確認します。
スピーカーがオーディオカード入力コネクタに接続されていることを確認します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します — Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照してください。

必要に応じて、Audio Card Driver Diagnostics（オーディオカードドライバ診断）プログラムを実行します —

オーディオカードをインストールしている場合は、オーディオカードのマニュアルを参照してください。

ソフトウェアおよびハードウェアの拮抗を調べます — ドライバと ユーティリティの再インストールを参照してください。

ヘッドフォンから音が出ない場合

ヘッドフォンのケーブル接続を確認します — ヘッドフォンケーブルがヘッドフォンコネクタにしっかりと接続されているか確認します。

デジタルモードを無効にします — CDドライブがデジタルモードで動作している場合、お使いのヘッドフォンは機能しません。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**サウンド、音声、およびオーディオデバイス** をクリックします。
2. **サウンドとオーディオデバイス** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックします。
4. お使いの CD ドライブ名をダブルクリックします。
5. **プロパティ** タブをクリックします。
6. **この CD-ROM デバイスでデジタル音楽 CD を使用可能にする** ボックスのチェックマークを外します。

Windows で音量を調節します — 画面右下角にあるスピーカーのアイコンをクリックまたはダブルクリックします。音量が上げてあり、サウンドがミュートに設定されていないか確認します。

ビデオとモニターの問題

チェック事項を確認し、Diagnostics（診断）チェックリストに記入してください。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

画面に何も表示されない場合

メモ: トラブルシューティングの手順については、モニターのマニュアルを参照してください。

モニターのケーブル接続を確認します —

- グラフィックスカードをご購入された場合、モニターがカードに接続されているか確認します。
- お使いのモニターが正しく接続されているか確認します（コンピュータに付属している『クイックリファレンスガイド』を参照）。
- ビデオ延長ケーブルを使用していて、ケーブルを取り外すと問題が解決する場合、延長ケーブルに問題があります。
- コンピュータおよびモニターの電源ケーブルを交換し、電源ケーブルに障害があるかどうか確認します。
- 曲がったり壊れたピンがないか、コネクタを確認します。（モニターのケーブルコネクタは、通常ピンが欠けています。）

モニターの電源ライトを確認します — 電源ライトが消灯している場合、ボタンをしっかり押して、モニターの電源が入っているか確認します。電源ライトが点灯または点滅している場合、モニターには電力が供給されています。電源ライトが点滅する場合、キーボードのキーを押すかマウスを動かします。
コンセントを確認します — 電気スタンドなどの別の電化製品で試して、コンセントが機能しているか確認します。
モニターを確認します — 正常に機能している他のモニターをコンピュータに接続して、使用してみます。新しいモニターが機能する場合、元のモニターに問題があります。
診断ライトを確認します — 診断ライトを参照してください。
カードの設定を確認します — セットアップユーティリティを起動して（セットアップユーティリティの起動 を参照）、**Primary Video**（プライマリビデオ）オプションが正しく設定されていることを確認します。セットアップユーティリティを終了して、コンピュータを再起動します。
モニターのセルフテストを実行します — 詳細に関しては、モニターのマニュアルを参照してください。

画面が見づらい場合

モニターの設定を確認します — モニターのコントラストと輝度の調整、モニターの消磁、およびモニターのセルフテストを実行する手順については、モニターのマニュアルを参照してください。
サブウーハーをモニターから離します — スピーカーにサブウーハーが含まれている場合、サブウーハーがモニターから 60 センチ以上離れていることを確認します。
外部電源をモニターから離します — 扇風機、蛍光灯、ハロゲンランプ、およびその他の電気機器は、画面の状態を不安定にすることがあります。コンピュータの近くで使用している機器の電源を切ってみてください。
Windows の画面設定を調整します — 1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**デスクトップの表示とテーマ** をクリックします。 2. **画面** をクリックして、**設定** タブをクリックします。 3. **画面の解像度** および **画面の色** で別の設定にしてみます。

目次に戻る

[目次に戻る]

シャーシイントルージョンスイッチ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

警 告: 本 項の手 順を開 始す る前に、『製 品 情 報ガイド』の 安 全 手 順に従ってください。

メモ: シャーシイントルージョンスイッチは、ミニタワー、デスクトップ、スモールフォームファクターコンピュータ向けのオプションとして提供されているため、ご使用のシステムに搭載されていない場合があります。

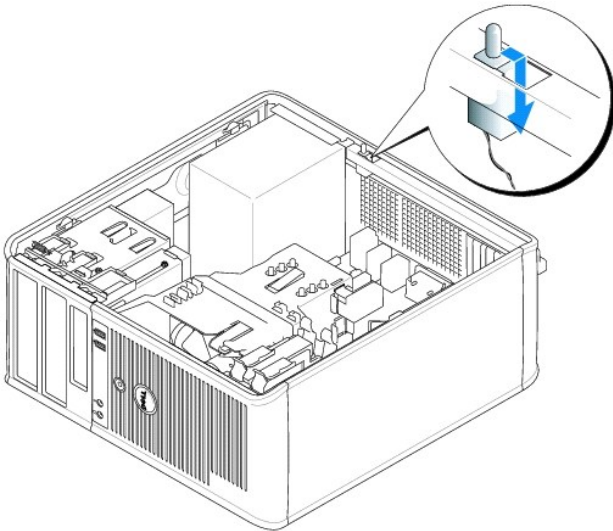
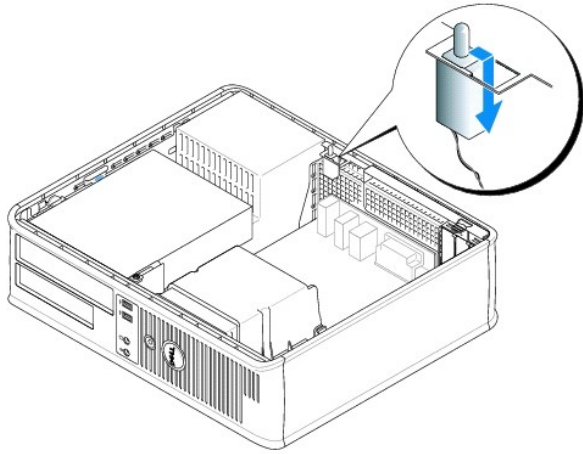
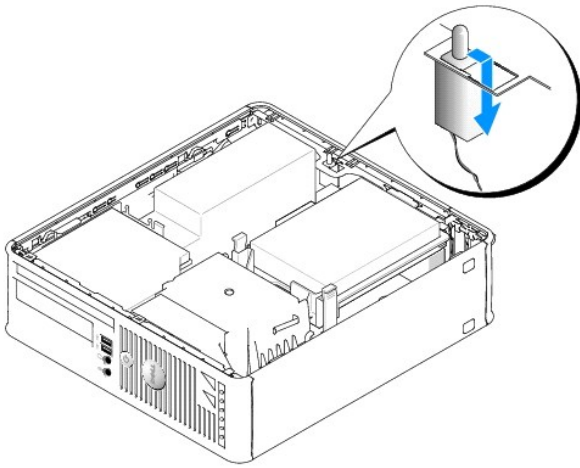
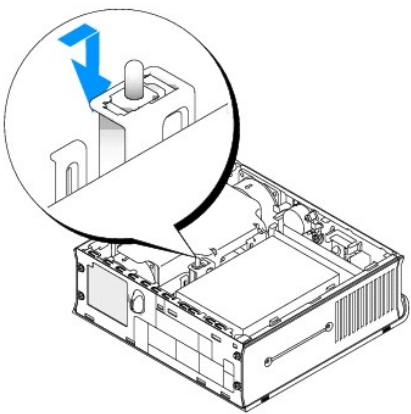
シャーシイントルージョンスイッチの取り外し

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. シャーシイントルージョンスイッチケーブルをシステム基板から取り外します。

   シャーシからシャーシイントルージョンケーブルを外す際は、ケーブルの配線経路をメモしておいてください。シャーシに付いているフックは、ケーブルをシャーシ内部の所定の位置に固定するためのものです。

3. シャーシイントルージョンスイッチをスロットから引き出し、スイッチとそのスイッチに付いているケーブルをコンピュータから外します。

ミニタワーコンピュータ

デスクトップコンピュータ

スモールフォームファクターコンピュータ

ウルトラスモールフォームファクターコンピュータ

シャーシイントルージョンスイッチの取り付け

1. シャーシイントルージョンスイッチをスライドさせて注意深くスロットに入れ、ケーブルをシステム基板に再接続します。

2. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

3. コンピュータスタンドを使用している場合は、コンピュータに取り付けます。

シャーシイントルージョンディテクタのリセット

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。

2. 青色の DELL™ のロゴが表示された場合、すぐに <F2> を押します。

   ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft® Windows® デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やり直します。

3. **Chassis Intrusion** オプションを選び、左右矢印キーを押して **Reset** を選択します。設定を **On**、**On-Silent**、または **Disabled** に変更します。

メモ: デフォルト設定は **On-Silent** です。

4. <Alt><b> を押すと、コンピュータは再起動し、変更内容が有効になります。

目次に戻る

[目次に戻る]

システム基板の交換

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

システム基板の交換：ミニタワー、デスクトップ、およびスモールフォームファクターコンピュータ

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

注意： コンピュータ内部の部品に触れる前に、コンピュータ背面の金属部など塗装されていない金属面に触れて、身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

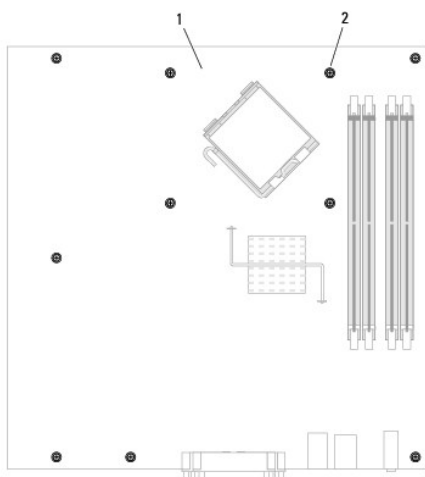
2. システム基板へのアクセスを制限しているコンポーネントをすべて取り外します（オプティカルドライブ、フロッピードライブ、ハードドライブ、I/O パネル）。

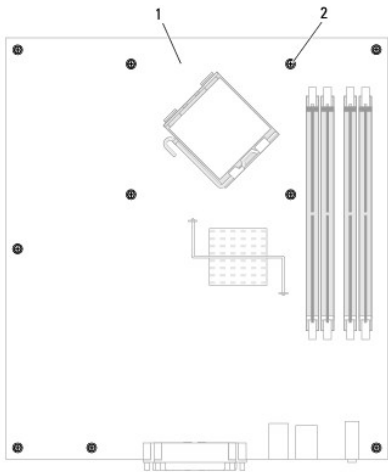
3. プロセッサおよびヒートシンクアセンブリを取り外します。
   - ミニタワー、プロセッサ を参照
   - デスクトップ、プロセッサ を参照
   - スモールフォームファクター、プロセッサ を参照
   - ウルトラスモールフォームファクター、プロセッサ を参照

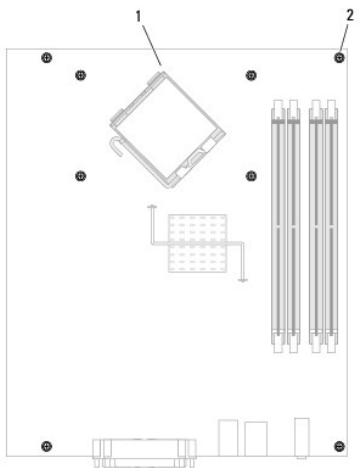
4. システム基板から全てのケーブルを外します。

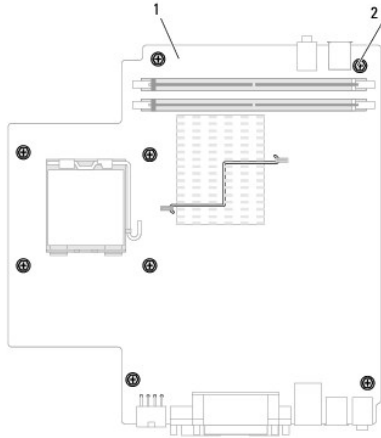
5. システム基板からネジを外します。
   - ミニタワー、ミニタワーのシステム基板のネジを参照
   - デスクトップ、デスクトップのシステム基板のネジを参照
   - スモールフォームファクター、スモールフォームファクターのシステム基板のネジを参照
   - ウルトラスモールフォームファクター、ウルトラスモールフォームファクターのシステム基板のネジを参照

6. システム基板アセンブリをコンピュータ前方に引き出し、基板を持ち上げて取り外します。

ミニタワーのシステム基板のネジ

1	ミニタワーのシステム基板
2	ネジ（10）

デスクトップのシステム基板のネジ

1	デスクトップのシステム基板
2	ネジ（10）

スモールフォームファクターのシステム基板のネジ

1	スモールフォームファクターのシステム基板
2	ネジ（8）

ウルトラスモールフォームファクターのシステム基板のネジ

1	ウルトラスモールフォームファクターのシステム基板
2	ネジ（10）

取り外したシステム基板アセンブリを交換用のシステム基板のそばに置き、同等であることを確認します。

システム基板の交換：ミニタワー、デスクトップ、スモールフォームファクタ、ウルトラスモールフォームファクターコンピュータ

1. 基板を注意深くシャーシの位置に合わせ、コンピュータ後方へスライドさせます。
2. システム基板にネジを取り付けます。
3. システム基板から取り外したコンポーネントおよびケーブルを取り付けます。
4. すべてのケーブルをコンピュータの背面にあるコネクタに接続しなおします。
5. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

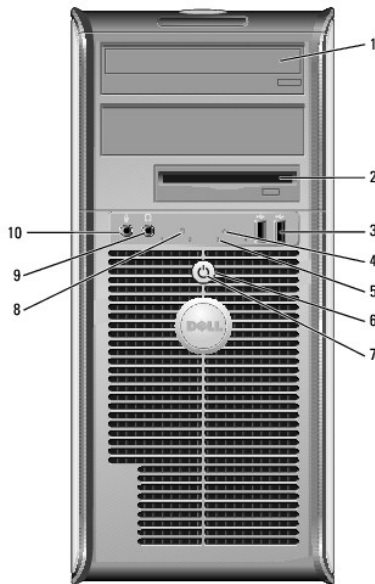
目次に戻る

[目次に戻る]

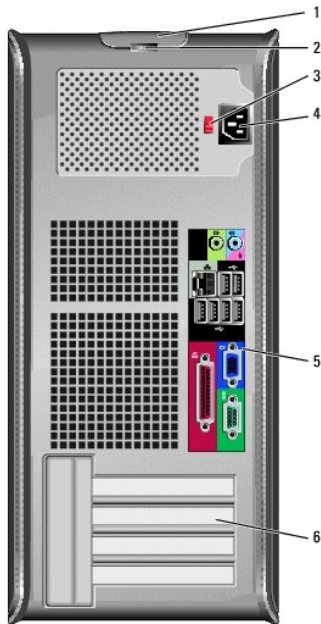
ミニタワーコンピュータ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

お使いのミニタワーコンピュータについて

正 面図

1	5.25 インチドライブベイ	オプティカルドライブ用に使用します。このドライブに、CDまたはDVD（サポート対象の場合）を挿入します。
2	3.5 インチドライブベイ	オプションのフロッピードライブまたはオプションのメディアカードリーダー用に使用します。
3	USB 2.0 コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスからの起動については、セットアップユーティリティを参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
4	LAN インジケータライト	このライトは、LAN（ローカルエリアネットワーク）接続が確立されていることを示します。
5	診断ライト	診断ライトは、診断コードに基づくコンピュータの問題のトラブルシューティングに役立ちます。詳細に関しては、診断ライトを参照してください。
6	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意:** データの損失を防ぐため、電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。詳細に関しては、コンピュータの電源を切るを参照してください。 **注意:** お使いのオペレーティングシステムの ACPI が有効な場合、コンピュータの電源ボタンを押すと、オペレーティングシステムのシャットダウンが実行されます。
7	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで以下のようにさまざまな動作モードを示します。 l 消灯 - コンピュータの電源は切れています。 l 緑色の点灯 - コンピュータは、通常の動作状態です。 l 緑色の点滅 - コンピュータは、省電力モードです。 l 黄色の点滅または点灯 - 電源の問題を参照してください。

		省電力モードから復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスが設定されている場合、キーボードかマウスを使います。スリープモードおよび省電力モードからの復帰の詳細については、電力の管理 を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、システムライトを参照してください。
8	ハードドライブ動作ライト	ハードドライブがアクセスされているときに、このライトが点滅します。
9	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます
10	マイク用コネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。

背面図

1	カバーリリースラッチ	このラッチを使ってコンピュータカバーを開くことができます。
2	パドロックリング	パドロックを挿入して、コンピュータカバーをロックします。
3	電圧切り替えスイッチ	お使いのコンピュータには、手動の電圧切り替えスイッチが装備されています。 手動電圧切り替えスイッチが付いているコンピュータへの損傷を防ぐため、スイッチはお使いになる地域の AC 電源に最も合った電圧に設定してください。 **注意:** 日本では電圧切り替えスイッチを 115 V に設定してください。 また、モニターやコンピュータに接続している周辺機器もお使いになる地域の AC 電源で動作するように設定してください。
4	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
5	背面パネルコネクタ	シリアル、USB、およびその他のデバイスを対応するコネクタに差し込みます。背面パネルコネクタを参照してください。
6	カードスロット	取り付けられたすべての PCI および PCI Express カード用のアクセスコネクタです。

背面パネルコネクタ

1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。 **メモ:** パラレルコネクタを持つカードが内蔵パラレルコネクタと同じアドレスに設定されていることをコンピュータが検出した場合、内蔵パラレルコネクタは自動的に無効になります。詳細に関しては、セットアップオプションを参照してください。
2	リンク保全ライト	l 緑色 - 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 橙色- 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l 黄色 - 1 Gbps(または 1000 Mbps)ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 l オフ - コンピュータは物理的なネットワーク接続を検出していません。
3	ネットワークアダプタコネクタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ:** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。
4	ネットワーク動作ライト	黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタを使って、ヘッドフォンおよび内蔵アンプの付いたほとんどのスピーカーを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
6	ライン入力 / マイクコネクタ	青とピンクのライン入力 / マイクコネクタには、カセットプレーヤ、CD プレーヤ、VCR などの記録 / 再生デバイスや、サウンドプログラムや電話プログラムへの音声入力または音楽入力用マイクを接続します。 サウンドカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。
7	USB 2.0 コネクタ（6）	プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
8	ビデオコネクタ	VGA 対応 モニターからのケーブルを青色のコネクタに接続します。 **メモ:** オプションのグラフィックスカードをご購入の場合、このコネクタにはキャップが付いています。お使いのモニターをグラフィックスカードのコネクタに接続します。キャップは取り外さないでください。 **メモ:** デュアルモニターをサポートしているグラフィックスカードをご使用の場合、コンピュータに付属の y ケーブルを使用してください。
9	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルポートに接続します。デフォルトの指定先は、シリアルコネクタ 1 が COM1 で、シリアルコネクタ 2 が COM2 です。 詳細に関しては、セットアップオプションを参照してください。

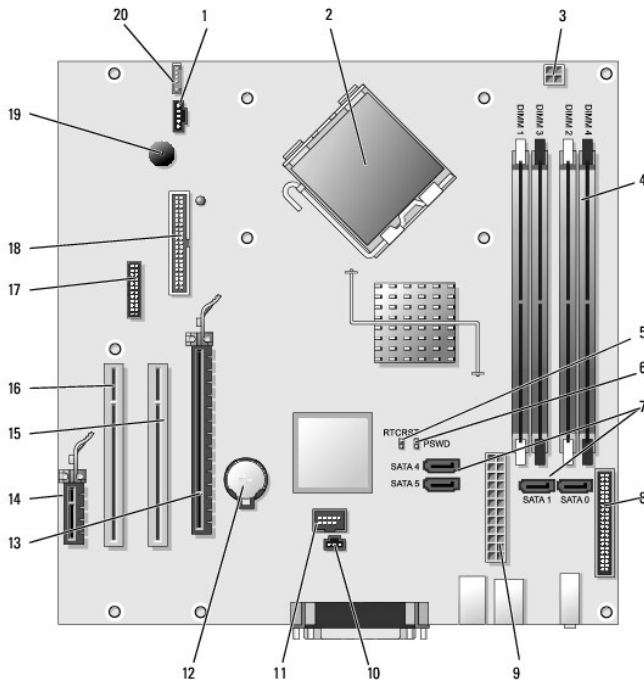
コンピュータ内部

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、コンピュータカバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: コンピュータカバーを開く際に、ケーブルをシステム基板から外してしまうことがないよう注意してください。

1	オプティカルドライブ	5	システム基板
2	フロッピードライブまたはメディアカードリーダー	6	ヒートシンクアセンブリ
3	電源装置	7	ハードドライブ
4	オプションのシャーシイントルージョンスイッチ		

システム基板コンポーネント

1	ファンコネクタ(FAN)	11	内蔵 USB(INTERNAL_USB)
2	プロセッサコネクタ(CPU)	12	バッテリーソケット(BATT)
3	プロセッサ電源コネクタ(12 V 電源)	13	PCI Express x16 コネクタ(SLOT1)
4	メモリモジュールコネクタ (DIMM_1、DIMM_2、DIMM_3、DIMM_4)	14	PCI Express x1 コネクタ(SLOT4)
5	RTC リセットジャンパ(RTCRST)	15	PCI コネクタ(SLOT2)
6	パスワードジャンパ(PSWD)	16	PCI コネクタ(SLOT3)
7	SATA ドライブコネクタ(SATA0、SATA1、SATA4、SATA5)	17	シリアルコネクタ(SER2)
8	前面パネルコネクタ(FNT_PANEL)	18	フロッピードライブコネクタ(DSKT)

9	電源コネクタ（POWER）	19	システム基板のスピーカー（BEEP）
10	イントルージョンスイッチコネクタ（INTRUDER）	20	スピーカーコネクタ（INT_SPKR）

目次に戻る

目次に戻る

トラブルシューティングツールとユーティリティ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

Dell Diagnostics（診断）プログラム

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

Dell Diagnostics（診断）プログラムを使用する場合

コンピュータに問題が発生した場合、デルテクニカルサポートに問い合わせる前に、この項にあるチェック事項を実行してから、Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行してください。

作業を始める前に、これらの手順を印刷しておくことをお勧めします。

注意: Dell Diagnostics（診断）プログラムは、Dell™ コンピュータ上でのみ機能します。

セットアップユーティリティを起動し（セットアップユーティリティの起動 を参照）、コンピュータの設定情報を閲覧して、テストするデバイスがセットアップユーティリティに表示され、アクティブであることを確認します。

Dell Diagnostics（診断）プログラムをハードドライブまたは『Drivers and Utilities CD』（オプションの CD で、『ResourceCD』とも呼ばれます。）から起動します。詳細については、ハードドライブから Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動する場合 またはDrivers and Utilities CD（オプション）から Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動する場合を参照してください。

ハードドライブから Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動する場合

1. コンピュータの電源を入れます（または再起動します）。
2. DELL™ のロゴが表示されたらすぐに <F12> を押します。

メモ: 診断ユーティリティパーティションが見つからないことを知らせるメッセージが表示された場合は、オプションの『Drivers and Utilities CD』からDell Diagnostics（診断）プログラムを実行します。オプションの『Drivers and Utilities CD』の詳細は、情報の検索方法 を参照してください。

ここで時間をおきすぎてオペレーティングシステムのロゴが表示された場合、Microsoft Windows デスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。

3. 起動デバイス一覧が表示されたら、**Boot to Utility Partition** をハイライト表示して <Enter> を押します。
4. Dell Diagnostics（診断）プログラムの **Main Menu** が表示されたら、実行するテストを選びます（Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニューを参照）。

Drivers and Utilities CD（オプション）から Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動する場合

1. 『*Drivers and Utilities* CD』（オプション）を挿入します。
2. コンピュータをシャットダウンして、再起動します。

   DELL のロゴが表示されたらすぐに <F12> を押します。

   ここで時間をおきすぎて Windows のロゴが表示されたら、Windows のデスクトップが表示されるまで待ちます。次に、コンピュータをシャットダウンして、もう一度やりなおします。

メモ: 次の手順は、起動順序を一回だけ変更します。次回の起動時には、コンピュータはセットアップユーティリティで指定したデバイスに従って起動します。

3. 起動デバイス一覧が表示されたら、**IDE CD-ROM Device** をハイライト表示して <Enter> を押します。
4. CD 起動メニューから **IDE CD-ROM Device** オプションを選択します。

5. 表示されたメニューから **Boot from CD-ROM** オプションを選択します。

6. 1 と入力して『Drivers and Utilities CD』のメニューを起動します。

7. 2 と入力して Dell Diagnostics（診断）プログラムを起動します。

8. 番号の付いたリストから **Run the 32 Bit Dell Diagnostics** を選択します。複数のバージョンがリストにある場合は、コンピュータに適切なバージョンを選択します。

9. Dell Diagnostics **メインメニュー** が表示されたら、実行するテストを選択します（Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー を参照）。

Dell Diagnostics（診断）プログラムのメインメニュー

1. Dell Diagnostics（診断）プログラムのロードが終了し、**Main Menu** 画面が表示されたら、必要なオプションのボタンをクリックします。

オプション	機能
Express Test	デバイスのクイックテストを実行します。通常このテストは 10～20 分かかり、お客様の操作は必要ありません。最初に **Express Test** を実行すると、問題を素早く特定できる可能性が増します。
Extended Test	デバイスの全体チェックを実行します。通常このテストは 1 時間以上かかり、定期的に質問に応答する必要があります。
Custom Test	特定のデバイスをテストします。実行するテストをカスタマイズできます。
Symptom Tree	検出した最も一般的な症状を一覧表示し、問題の症状に基づいたテストを選択することができます。

2. テスト実行中に問題が検出されると、エラーコードと問題の説明を示したメッセージが表示されます。エラーコードと問題の説明を記録し、画面の指示に従います。

   エラー状態を解決できない場合は、デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせを参照）。

メモ: 各テスト画面の上部には、コンピュータのサービスタグが表示されます。デルにお問い合わせいただく場合は、テクニカルサポート担当者がサービスタグをおたずねします。お使いのコンピュータのサービスタグは、セットアップユーティリティの **System Info**（システム情報）オプションに表示されています。詳細に関しては、セットアップユーティリティを参照してください。

3. **Custom Test** または **Symptom Tree** オプションからテストを実行する場合は、該当するタブをクリックします（詳細に関しては、以下の表を参照）。

タブ	機能
Results	テストの結果、および発生したすべてのエラーの状態を表示します。
Errors	検出されたエラー状態、エラーコード、問題の説明が表示されます。
Help	テストについて説明します。また、テストを実行するための要件を示す場合もあります。
Configuration	選択したデバイスのハードウェア構成を表示します。 Dell Diagnostics（診断）プログラムでは、セットアップユーティリティ、メモリ、および各種内部テストからすべてのデバイスの構成情報を取得して、画面左のウィンドウのデバイスリストに表示します。デバイス一覧には、コンピュータに取り付けられたすべてのコンポーネント名、またはコンピュータに取り付けられたすべてのデバイス名が表示されるとは限りません。
Parameters	テストの設定を変更して、テストをカスタマイズすることができます。

4. テストが完了し、Dell Diagnostics（診断）プログラムを『Drivers and Utilities CD』から実行中の場合、CD を取り出します。

5. テスト画面を閉じて **Main Menu** 画面に戻ります。Dell Diagnostics（診断）プログラムを終了しコンピュータを再起動するには、**Main Menu** 画面を閉じます。

システムライト

お使いの電源ボタンライトおよびハードドライブライトは、コンピュータの問題を示すことがあります。

電源ライト	問題の説明	推奨される処置
緑色の点灯	電源がオンで、コンピュータは正常に動作しています。デスクトップコンピュータでは、緑色のライトの点灯は、ネットワークが接続されていることを示します。	対応処置は必要ありません。
緑色の点滅	コンピュータは省電力モードです（Microsoft Windows XP の場合）。	電源ボタンを押したり、マウスを動かしたり、キーボードのキーを押すことで、コンピュータの操作を再開できます。
緑色に数回点滅したあとオフになる	設定エラーが発生しています。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライト を確認します（診断ライト を参照）。
黄色の点灯	Dell Diagnostics（診断）プログラムがテストを実行中、またはシステム基板のデバイスが不良か、正しく取り付けられていない可能性が	Dell Diagnostics（診断）プログラムが実行中であれば、終了するまで待ちます。

	あります。	コンピュータが作動しない場合、デルに連絡して、テクニカルサポートを受けてください（デルへのお問い合わせ を参照）。
黄色の点滅	電源装置またはシステム基板の障害が発生しました。	電源の問題を参照してください。
POST 中に、緑色の点灯とビープコード	BIOS 実行中に問題が検出されました。	ビープコードを使った診断に関しては、ビープコードを参照してください。特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します（診断ライト を参照）。
POST 中の緑色の点灯、ビープコードおよびビデオ表示なし	モニターまたはグラフィックスカードが不良か、正しく取り付けられていない可能性があります。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します（診断ライト を参照）。 ビデオとモニターの問題を参照してください。
POST 中の緑色の点灯、ビープコードはないがコンピュータがフリーズする	内蔵システム基板に欠陥がある可能性があります。	特定の問題が識別されているかを確認するために、診断ライトを確認します（診断ライト を参照）。問題を特定できない場合は、デルに連絡して、テクニカルサポートを受けてください（デルへのお問い合わせ を参照）。

診断ライト

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

問題のトラブルシューティングを容易にするため、お使いのコンピュータには前面または背面パネルに「1」、「2」、「3」、および「4」とラベルの付いた 4 つのライトが搭載されています。これらのライトは、緑色に点灯するか消灯しています。コンピュータが正常に起動すると、起動プロセスが完了する際、ライトのパターンとコードが変化します。

システム起動プロセスの POST が正常に終了すると、4 つのライトはすべて緑色に点灯します。POST プロセス中にコンピュータが誤動作した場合、LED に表示されるパターンで、プロセスのどこでコンピュータが停止したか識別できる場合があります。

メモ: 診断ライトの向きは、コンピュータのタイプによって異なります。診断ライトは、縦向きまたは横向きのどちらかです。

ライトパターン	問題の説明	推奨される処置
①②③④	コンピュータが通常の「オフ」の状態、または BIOS 以前に障害が起こっている可能性があります。 コンピュータが正常にオペレーティングシステムを起動した場合、診断ライトは点灯しません。	コンピュータを使用可能なコンセントに接続し、電源ボタンを押します。
①②③**④**	BIOS 障害が発生した可能性があります。コンピュータは修復モードです。	BIOS Recovery Utility を実行し、BIOS の修復処理が完了するのを待って、コンピュータを再起動します。
①②**③**④	プロセッサに障害が起こっている可能性があります。	プロセッサを取り付けなおして、コンピュータを再起動します。
①②**③④**	メモリモジュールが検出されましたが、メモリ障害が発生しています。	・取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュールを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。（メモリモジュールの取り外しまたは取り付け方法については、メモリ を参照してください）。 ・取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュールの 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 ・同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 ・問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせを参照）。
①**②**③**④**	グラフィックスカードの障害が発生した可能性があります。	・コンピュータにグラフィックスカードを取り付けている場合、カードを取り外し、取り付けなおしてコンピュータを再起動します。 ・それでも問題が解決しない場合、動作を確認済みのグラフィックスカードを取り付け、コンピュータを再起動します。 ・問題が解決しない場合、またはカードがコンピュータに内蔵されている場合は、デルにお問い合わせください（ デルへのお問い合わせを参照）。
①**②③**④	フロッピードライブまたはハードドライブの障害が発生した可能性があります。	すべての電源ケーブルおよびデータケーブルを接続しなおし、コンピュータを再起動します。
①**②③④**	USB の障害が発生した可能性があります。	すべての USB デバイスを取り付けなおし、ケーブル接続を確認して、コンピュータを再起動します。
①②③④	メモリモジュールが検出されません。	・取り付けているメモリモジュールが 1 つの場合、そのモジュールを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。（メモリモジュールの取り外しまたは取り付け方法については、メモリ を参照してください）。 ・取り付けているメモリモジュールが 2 つ以上の場合、モジュールを取り外し、モジュールの 1 つを取り付けなおしてコンピュータを再起動します。コンピュータが正常に起動する場合、別のモジュールを追加します。障害のあるモジュールが見つかるまで、あるいはエラーなしにすべてのモジュールを取り付けなおすまで続けます。 ・同じ種類の正常に動作しているメモリがあれば、そのメモリをコンピュータに取り付けます。 ・問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせを参照）。
①②**③**④	メモリモジュールは検出されましたが、メモリの設定または互換性エラーが存在します。	・特別なメモリモジュール / メモリコネクタ設置要件がないか確認します（ メモリを参照）。 ・取り付けようとしているメモリがコンピュータと互換性があるか確認します（ メモリを参照）。 ・問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせを参照）。

①②③④	障害が発生しました。 このパターンは、セットアップユーティリティを起動しているときにも表示され（セットアップユーティリティの起動 を参照）、問題があることを示しているわけではない場合があります。	・ハードドライブ、CD ドライブ、および DVD ドライブからシステム基板へケーブルが正しく接続されているか確認します。 ・モニター画面に表示されるコンピュータメッセージを確認します。 ・問題が解決しない場合、デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせを参照）。
①②③④	POST が終了すると、4 つの診断ライトすべてが緑色に短時間点灯してからライトが消え、通常の動作状態を示します。	特にありません。

ビープコード

お使いのコンピュータの起動時に、モニターにエラーメッセージまたは問題を表示できない場合、ビープ音が連続して鳴ることがあります。この連続したビープ音はビープコードと呼ばれ、問題を特定します。連続したビープ音には、ビープ音がまず 1 回鳴り、次に連続して 3 回鳴ってから、1 回鳴るものがあります（コード 1-3-1）。このビープコードは、コンピュータがメモリの問題を検出したことを知らせます。

起動時にコンピュータがビープ音を発する場合、次の手順を実行します。

1. 診断チェックリストにビープコードを書き込みます。Diagnostics（診断）チェックリスト
2. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行し、その原因をつきとめます（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。
3. デルにお問い合わせになり、テクニカルサポートを受けてください（デルへのお問い合わせ を参照）。

コード	**原 因**
1-1-2	マイクロプロセッサレジスタ障害
1-1-3	NVRAM 読み書き障害
1-1-4	ROM BIOS チェックサム障害
1-2-1	プログラム可能インターバルタイマー障害
1-2-2	DMA 初期化障害
1-2-3	DMA ページレジスタ読み書き障害
1-3	ビデオメモリテスト障害
1-3-1～2-4-4	メモリが正しく認識されていないか使用されていない
3-1-1	スレーブ DMA レジスタ障害
3-1-2	マスタ DMA レジスタ障害
3-1-3	マスタ割り込みマスクレジスタ障害
3-1-4	スレーブ割り込みマスクレジスタ障害
3-2-2	割り込みベクトルロード障害
3-2-4	キーボードコントローラテスト障害
3-3-1	NVRAM 電力損失
3-3-2	無効な NVRAM 設定
3-3-4	ビデオメモリテスト障害
3-4-1	画面初期化障害
3-4-2	画面リトレース障害
3-4-3	ビデオ ROM の検索障害
4-2-1	タイマーチックなし
4-2-2	シャットダウンの失敗
4-2-3	Gate A20 エラー
4-2-4	プロテクトモードで予期せぬ割り込みあり
4-3-1	アドレス 0FFFFh 以上のメモリ障害
4-3-3	タイマーチップカウンタ 2 の障害
4-3-4	内部時計の停止
4-4-1	シリアルまたはパラレルポートテスト障害
4-4-2	シャドウメモリにコードを解凍不可
4-4-3	数値演算コプロセッサテスト障害
4-4-4	キャッシュテスト障害

エラーメッセージ

以下を確認しながらDiagnostics（診断）チェックリストに必要事項を記入します。

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

メッセージが一覧にない場合、オペレーティングシステムまたはメッセージが表示された際に実行していたプログラムのマニュアルを参照してください。

ファイル名には次の文字は使用できません: / : * ? " < > | — これらの記号をファイル名に使用しないでください。

.DLL ファイルが見つかりません — 実行しようとしているプログラムに必要なファイルがありません。次の操作を行い、アプリケーションプログラムを削除して再インストールします。

1. **スタート** ボタンをクリックし、**コントロールパネル** をクリックして、**プログラムの追加と削除** をクリックします。
2. 削除したいプログラムを選択します。
3. 削除 ボタンまたは **変更と削除** ボタンをクリックします。
4. インストール手順については、プログラムに付属されているマニュアルを参照してください。

警告! 前回このシステムを起動しようとして、チェックポイント [*nnnn*] で失敗しました。この問題を解決するには、このチェックポイントをメモしてデルテクニカルサポートにお問い合わせください — デルに連絡し（デルへのお問い合わせ を参照）、サポート担当者にチェックポイントコード（*nnnn*）を報告してください。

警告! 気温センサーが検出されません — ウルトラスモールフォームファクターコンピュータを除くすべてのタイプでは、I/O パネルとシステムボードにすべてのケーブルが正しく接続されていることを確認してから、コンピュータを再起動します。それでも問題を解決できない場合、ウルトラスモールファクターコンピュータをご使用の場合は、デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせ を参照）。

アタッチメントが応答しませんでした — ドライブの問題を参照してください。

コマンド名またはファイル名が違います — 正しいコマンドを入力したか、スペースの位置は正しいか、パス名は正しいかを確認します。

読み取りディスクに不正なエラー訂正コード（ECC）があります — ドライブの問題を参照してください。

コントローラに問題が発生しました — ドライブの問題を参照してください。

データエラー — ドライブの問題を参照してください。

使用可能メモリが減少しています —

フリーズおよびソフトウェアの問題を参照してください。

ディスケットドライブ 0 シークエラー — ドライブの問題を参照してください。

ディスケット読み取りエラー —

ドライブの問題を参照してください。

ディスケットサブシステムリセットが失敗しました — Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

ディスクが書き込み禁止 — フロッピーディスクの書き込み防止ノッチをスライドさせて開きます。

ドライブの準備ができていません — フロッピーディスクをドライブに挿入します。

ゲート A20 障害 —

フリーズおよびソフトウェアの問題を参照してください。

ハードディスク設定エラー —

ハードディスクコントローラエラー —

ハードディスクドライブエラー —
ハードディスクドライブエラー —

ドライブの問題を参照してください。

起動用メディアを挿入します — 起動可能なフロッピーディスクまたは CD を挿入します。

無効な設定情報 — セットアップユーティリティを実行してください — セットアップ ユーティリティを起動し、コンピュータの設定情報を修正します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

キーボードエラー — キーボードの問題を参照してください。

アドレス、**読み取り***値*の**予想***値におけるメモリアドレス行のエラー* **—** フリーズおよびソフトウェアの問題を参照してください。

メモリ割り当てエラー —

1. コンピュータの電源を切り、30 秒待ってから再起動します。
2. プログラムを再度実行します。
3. 再度エラーメッセージが表示される場合、追加のトラブルシューティングについては、ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

アドレス、**読み取り***値*の**予想***値におけるメモリアドレスのエラー* **—**

アドレス、**読み取り***値*の**予想***値におけるメモリダブルワード論理エラー* **—**

アドレス、**読み取り***値*の**予想***値におけるメモリ奇数 / 偶数論理エラー* **—**

アドレス、**読み取り***値*の**予想***値におけるメモリ書き込み / 読み取りエラー* **—**

CMOS のメモリサイズ無効 —

フリーズおよびソフトウェアの問題を参照してください。

起動デバイスがありません —

- フロッピードライブが起動デバイスの場合、起動フロッピーディスクがドライブに挿入されていることを確認します。
- ハードドライブが起動デバイスの場合、ケーブルが接続されていて、ドライブが適切に取り付けられていて、起動デバイスとしてパーティション分割されているか確認します。
- セットアップユーティリティを起動して、起動順序が正しいことを確認します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

ハードディスクドライブに起動セクタがありません — セットアップユーティリティを起動して、コンピュータのハードドライブ構成情報が正しいか確認します（セットアップユーティリティの起動 を参照）。

タイマチック割り込み信号がありません — Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行します（Dell Diagnostics（診断）プログラムを参照）。

非システムディスクまたはディスクエラーです — 起動オペレーティングシステムの入ったフロッピーディスクと交換するか、ドライブ A からそのフロッピーディスクを取り出してコンピュータを再起動します。

非起動用ディスケットです — 起動ディスクを挿入して、コンピュータを再起動します。

メモリまたはリソースが不足しています。いくつかのプログラムを閉じてもう一度やりなおします — すべてのウィンドウを閉じ、使用するプログラムのみを開きます。場合によっては、コンピュータを再起動してコンピュータリソースを復元する必要があります。その場合、最初に使うプログラムを開きます。

オペレーティングシステムが見つかりません — デルにお問い合わせください（デルへのお問い合わせを参照）。

プラグアンドプレイ設定エラー —

1. コンピュータの電源を切り、コンセントから取り外します。次に、カードを 1 枚だけ残してすべて取り外します。
2. コンピュータの電源プラグを差し込み、コンピュータを再起動します。
3. メッセージが表示される場合、取り付けられているカードが誤動作している可能性があります。メッセージが再度表示されない場合、コンピュータの電源を切り、別のカードを 1 枚挿入します。
4. 誤動作しているカードがわかるまで、この手順を繰り返します。

読み取りエラー —

要求されたセクターが見つかりませんでした —

リセットエラー —

ドライブの問題を参照してください。

セクターが見つかりません —

- Windows のエラーチェックユーティリティを実行して、フロッピーディスクまたはハードドライブのファイル構造を調べます。手順については、Windows ヘルプを参照してください。
- 多くのセクターに障害がある場合、データをバックアップし、フロッピードディスクまたはハードドライブを再フォーマットします。

シークエラー — ドライブの問題を参照してください。

シャットダウン障害 — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します(Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照)。

刻時機構が停止 —

システム時計が設定されていません。セットアップユーティリティを実行してください —

セットアップユーティリティを起動し(セットアップユーティリティの起動 を参照)、日付または時間を修正します。それでも問題が解消されない場合は、バッテリーを交換します(バッテリーの取り付け を参照)。

タイマチップカウンター 2 エラー — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します(Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照)。

保護モードで予測外の中断が発生 — Dell Diagnostics(診断)プログラムを実行します(Dell Diagnostics(診断)プログラムを参照)。

警告: [プライマリ/セカンダリ] EIDE コントローラ上のドライブ [0/1] が、通常の仕様外の環境で動作していることを、デルのディスクモニターシステムが検知しました。すぐにデータをバックアップし、サポートデスクまたはデルに連絡し、ハードドライブを交換することをお勧めします —

すぐに利用できる交換用のドライブがなく、そのドライブが唯一の起動ドライブではない場合、セットアップユーティリティを起動して(セットアップユーティリティの起動 を参照)、問題が発生したドライブの設定を **None** に変更します。次に、ドライブをコンピュータから取り外します。

書き込みエラー —

選択したドライブでの書き込みエラー —

ドライブの問題を参照してください。

<*ドライブ文字* >: にアクセスできません。ドライブの準備ができていません — 選択したドライブは、メディアを読み出すことができません。メディアのタイプに応じて、フロッピー、CD および ZIP ディスクをドライブに挿入し再度試してみます。

ソフトウェアおよびハードウェアの非互換性の解決

OS のセットアップ中にデバイスが検出されないか、検出されても間違って設定されている場合、デバイスマネージャまたはハードウェアに関するトラブルシューティングを使用して非互換性を解決することができます。

Microsoft® Windows® XP

デバイスマネージャで非互換性の問題を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**コントロールパネル** をクリックします。
2. **パフォーマンスとメンテナンス** をクリックして、**システム** をクリックします。
3. **ハードウェア** タブをクリックして、**デバイスマネージャ** をクリックします。
4. **デバイスマネージャ** リストで、間違って設定されているデバイスを確認します。

   間違って設定されているデバイスは黄色い感嘆符（!）で示され、デバイスが無効になっている場合には赤い X で示されます。

5. 感嘆符でマークされたデバイスをダブルクリックして、**プロパティ** ウィンドウを表示します。

   プロパティ ウィンドウの **デバイス** の状態領域に、再設定が必要なデバイスがレポートされます。

6. デバイスを再構成するか、または **デバイスマネージャ** からデバイスを削除します。デバイスの再構成の詳細に関しては、デバイスに付属のマニュアルを参照してください。

Windows XP のハードウェアに関するトラブルシューティングを使って非互換性を解決するには、次の手順を実行します。

1. **スタート** ボタンをクリックして、**ヘルプとサポート** をクリックします。
2. **検索** フィールドでハードウェアに関するトラブルシューティングと入力し、次に、矢印をクリックして検索を始めます。
3. **検索結果** の一覧で、**ハードウェアに関するトラブルシューティング** をクリックします。
4. **ハードウェアに関するトラブルシューティング** 一覧で、**コンピュータにあるハードウェアの競合を解決します** をクリックして、**次へ** をクリックします。

目次に戻る

目次に戻る

ウルトラスモールフォームファクターコンピュータ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

お使いのウルトラスモールフォームファクターコンピュータについて

注意: モニターをコンピュータの上に置かないでください。モニタースタンドを使用してください。

注意: コンピュータをセットアップする際は、ケーブルが引っ張られたり、もつれたり、踏まれないように、すべてのケーブルを作業場所の後側に置いてください。

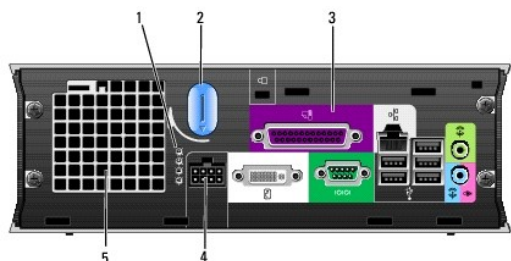
メモ: 机の下または壁面にコンピュータを設置する場合は、オプションの壁用設置ブラケットを使用してください。ブラケットの注文については、デルにお問い合わせください（困ったときは を参照）。

正面図

1	USB コネクタ（2）	ジョイスティックやカメラ、または起動可能な USB デバイスなど、時々接続するデバイスには、前面 USB コネクタを使用します（USB デバイスからの起動については、セットアップユーティリティ を参照してください）。 プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用することをお勧めします。
2	ヘッドフォンコネクタ	ヘッドフォンコネクタを使用して、ヘッドフォンおよびほとんどの種類のスピーカーを取り付けることができます。
3	マイク用コネクタ	マイクのコネクタを使ってマイクを取り付けます。
4	電源ライト	電源ライトは、点滅したり点灯することで異なる状態を示します。 l 消灯 - コンピュータの電源は切れています。 l 緑色の点灯 - コンピュータは、通常の動作状態です。 l 緑色の点滅 - コンピュータは、省電力モードです。 l 黄色の点滅または点灯 - 電源の問題 を参照してください。 省電力モードから復帰するには、電源ボタンを押すか、Windows デバイスマネージャで復帰デバイスが設定されている場合、キーボードかマウスを使います。休止モード、および省電力モードからの復帰の詳細に関しては、電力の管理を参照してください。 コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、システムライト を参照してください。
5	電源ボタン	このボタンを押して、コンピュータに電源を入れます。 **注意:** データの損失を防ぐため、電源ボタンを押してコンピュータの電源を切らないでください。電源ボタンを押す代わりに、オペレーティングシステムのシャットダウンを実行してください。詳細に関しては、コンピュータの電源を切るを参照してください。
6	通気孔	通気孔は、コンピュータのオーバーヒートを防ぎます。通気性を確保するため、これらの冷却用通気孔を塞がないでください。
7	モジュールベイ	D モジュールオプティカルドライブ、2 台目のハードドライブ、またはフロッピードライブをモジュールベイに取り付けます。
8	ハードドライブライト	ハードドライブライトは、コンピュータがハードドライブからデータを読み書きしている場合に点灯します。このライトは、CD プレイヤーなどのデバイスが動作中も点灯します。
9	通気孔	通気孔は、コンピュータのオーバーヒートを防ぎます。通気性を確保するため、これらの冷却用通気孔を塞がないでください。

側面図

1	通気孔	コンピュータ側面にある通気孔は、コンピュータのオーバーヒートを防ぎます。通気性を確保するため、これらの冷却用通気孔を塞がないでください。

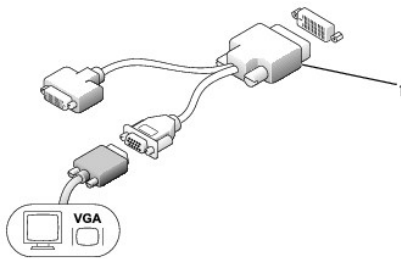
背面図

1	診断ライト	コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、診断ライトを参照してください。
2	コンピュータカバーリリースノブ	このノブを時計回りに回してカバーを取り外します。
3	背面パネルコネクタ	コンピュータのコネクタ（背面パネルコネクタ を参照）
4	電源コネクタ	電源ケーブルを差し込みます。
5	通気孔	通気孔は、コンピュータのオーバーヒートを防ぎます。通気性を確保するため、これらの冷却用通気孔を塞がないでください。

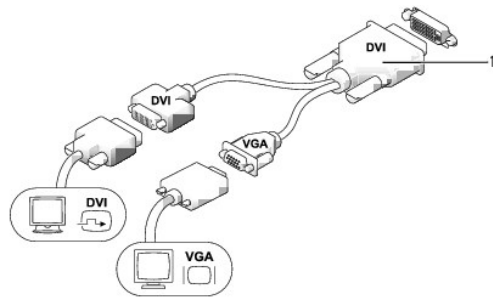
背面パネルコネクタ

1	パラレルコネクタ	プリンタなどのパラレルデバイスをパラレルコネクタに接続します。USB プリンタをお使いの場合、USB コネクタに差し込みます。
2	リンク保全ライト	・緑色 - 10 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・橙色- 100 Mbps ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・黄色 — 1000 Mbps（1 Gbps）ネットワークとコンピュータ間の接続が良好です。 ・オフ- コンピュータがネットワークへの物理的な接続を検出していません。あるいは、ネットワークコントローラがセットアップユーティリティでオフになっています。
3	ネットワークアダプタ	コンピュータをネットワークやブロードバンドデバイスに取り付けるには、ネットワークケーブルの片方の端をネットワークジャックやネットワーク / ブロードバンドデバイスに接続します。ネットワークケーブルのもう一方の端を、コンピュータ背面にあるネットワークアダプタコネクタに接続します。カチッと収まったらネットワークケーブルはしっかりと接続されています。 **メモ:** モデムケーブルをネットワークコネクタに接続しないでください。 ネットワークコネクタカードが搭載されたコンピュータの場合、カードのコネクタを使用します。 カテゴリ 5 のケーブルを使用して、ネットワークを接続することをお勧めします。カテゴリ 3 のケーブルを使用する必要がある場合、ネットワーク速度を 10 Mbps にして動作の信頼性を確保します。

4	ネットワーク動作ライト	黄色のライトは、コンピュータがネットワークデータを送信、または受信している時に点滅します。ネットワークトラフィックが多い場合、このライトが「点灯」の状態に見えることがあります。
5	ライン出力コネクタ	緑色のライン出力コネクタにアンプ付きスピーカーセットを接続します。
6	ライン入力 / マイクコネクタ	青とピンクのライン入力 / マイクコネクタには、カセット プレーヤ、CD プレーヤ、VCR などの記録 / 再生デバイスや、サウンドプログラムや電話プログラムへの音声入力または音楽入力用マイクを接続します。
7	USB コネクタ（5）	プリンタやキーボードなど通常接続したままのデバイスには、背面 USB コネクタを使用します。
8	シリアルコネクタ	ハンドヘルドデバイスなどのシリアルデバイスをシリアルコネクタに接続します。
9	ビデオコネクタ	DVI対応 モニターの場合は、背面パネルの白色のコネクタにモニター からのケーブルを接続します。 VGA モニターをお持ちの場合、VGA モニターの接続 を参照してください。
10	電源コネクタ	電源アダプタ用のコネクタです。
11	診断ライト	コンピュータのトラブルシューティングに役立つライトコードの説明は、診断ライトを参照してください。

VGA モニターの接続

VGA モニターをお持ちの場合、アダプタケーブルを白い DVI モニターコネクタに差し込み、モニターケーブルをアダプタに接続します。

1	アダプタケーブル

2 台のモニターの接続

1	ケーブルアダプタ

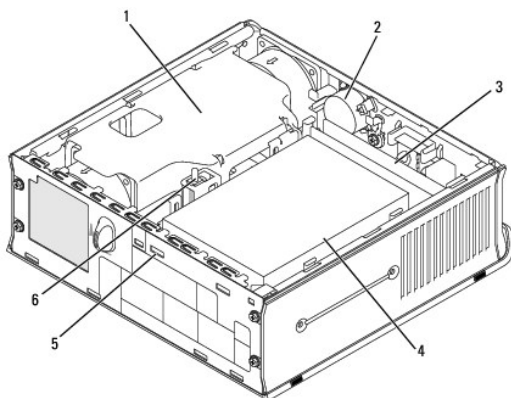
ケーブルアダプタを使って VGA モニターと DVI モニターを背面パネルの DVI-I コネクタに接続します。

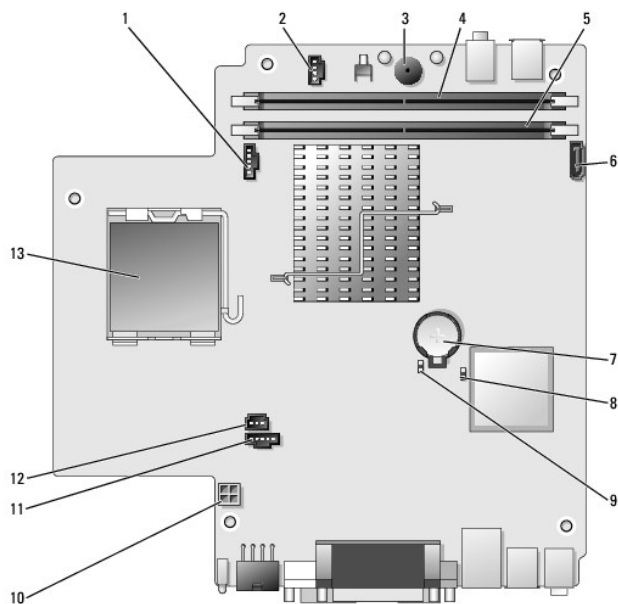
2 台のモニターを接続する場合、ドライバがこの接続を検出して、複数モニター機能を有効にします。

コンピュータ内部

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電を防ぐため、カバーを取り外す前に必ずコンピュータの電源プラグを電源アダプタから抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

1	ファンエアフローカバー / ヒートシンクアセンブリ	4	ハードドライブ
2	スピーカー（オプション）	5	セキュリティケーブルスロット
3	メモリモジュール（2）	6	シャーシイントルージョンスイッチ

システム基板コンポーネント

1	ファンコネクタ（FAN_FRONT）	8	CMOS ジャンパのクリア（RTCRST）
2	内蔵スピーカーコネクタ（INT_SPKR）	9	パスワードジャンパ（PSWD）
3	システム基板のスピーカー（BEEP）	10	ハードドライブ電源コネクタ（SATA_PWR）
4	チャネル B メモリコネクタ（DIMM_2）	11	ファンコネクタ（FAN_REAR）
5	チャネル A メモリコネクタ（DIMM_1）	12	イントルージョンスイッチコネクタ（INTRUDER）
6	SATA データケーブルコネクタ（SATA0）	13	プロセッサ（CPU）
7	バッテリ（BATT）		

ケーブルカバー（オプション）

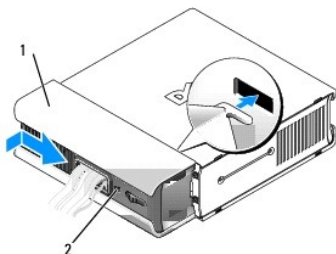
カーブルカバーの取り付け

1. すべての外付けデバイスケーブルをケーブルカバーの穴に通したかを確認します。

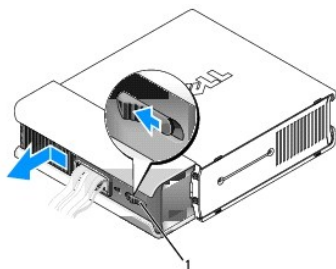
2. コンピュータの背面にあるコネクタにすべてのデバイスケーブルを接続します。

3. ケーブルカバーの下の部分を持ち、コンピュータの背面パネルにある 4 つのスロットに 4 つのタブを合わせます。

4. スロットにタブを差し込み、ケーブルカバーが確実に所定の場所に収まるまで、タブを診断ライトの方向にスライドさせます（図を参照）。

5. セキュリティ用デバイスをセキュリティケーブルスロットに取り付けます（オプション）。

1	ケーブルカバー
2	セキュリティケーブルスロット

ケーブルカバーの取り外し

1. セキュリティケーブルスロットにセキュリティデバイスが取り付けられている場合、デバイスを取り外します。

1	リリースボタン

2. リリースボタンを押してケーブルカバーをつかみ、カバーが動かなくなるまで左にスライドさせ、持ち上げて取り外します。

電源アダプタの接続

 警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

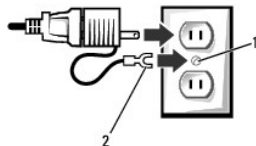
1. コンピュータ背面のコネクタに外付けの電源アダプタを接続します。接続を確実にするために、ラッチが完全にはまっているか確認してください（カチッという感触があります）。

2. AC 電源ケーブルの片端を電源アダプタに接続します。

警告: 電源アダプタケーブルに緑のアース線が付いている場合は、緑のアース線と電源のリード線が接触しないように注意してください。感電、発火またはコンピュータを損傷させる原因となります。

3. コンセントに接続するための緑色のアース線が AC 電源ケーブルに付いている場合、次の手順で金属製のアースコネクタをコンセントのアース端子に接続します（下図を参照）。

   a. アース端子を緩めます。

   b. 金属製のアースコネクタをアース端子の後ろ側へスライドし、アースのネジを締めます。

1	アース端子
2	金属製のアースコネクタ

4. AC 電源ケーブルをコンセントに接続します。

電源アダプタにはステータスライトがあります。AC アダプタがコンセントに接続されていない場合は消灯し、以下のさまざまな状態では緑色または黄色に点灯します。

- 緑色のライト - 電源アダプタが AC コンセントおよびコンピュータに接続されているとき緑色に点灯
- 黄色のライト - 電源アダプタが AC コンセントに接続されているが、コンピュータには接続されていないとき黄色に点灯 この状態では、コンピュータは作動しません。電源アダプタを USFF システムを接続する、または AC メインを外してから再接続して、電源アダプタをリセットしてください。

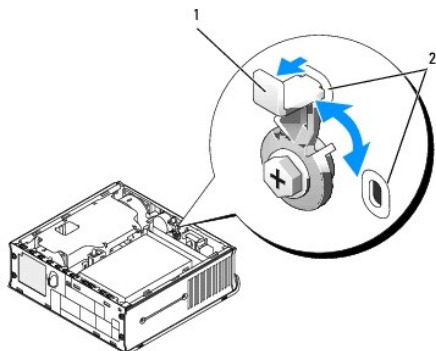
バッジ

⚠ **警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

コンピュータ正面のバッジは回転できます。バッジを回転するには、次の手順を実行します。

1. コンピュータカバーを取り外します（コンピュータカバーの取り外し参照）。

2. レバーを引いて、スロットからノッチを離します。

3. 目的の位置にバッジを回転させて、ノッチがスロットに確実にはまっていることを確認します。

1	リリースレバー
2	スロット

目次に戻る

モジュールベイ

⚠ **警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。**

フロッピードライブ、オプティカルドライブ、またはセカンドハードドライブなどの Dell™ ポータブルデバイスをモジュールベイに取り付けることができます。

お使いの Dell コンピュータは、モジュールベイにオプティカルドライブまたはエアベイ（ダミーカードフィラー）が取り付けられた状態で出荷されます。次の 2 つの方法でデバイスをモジュールベイに固定できます。

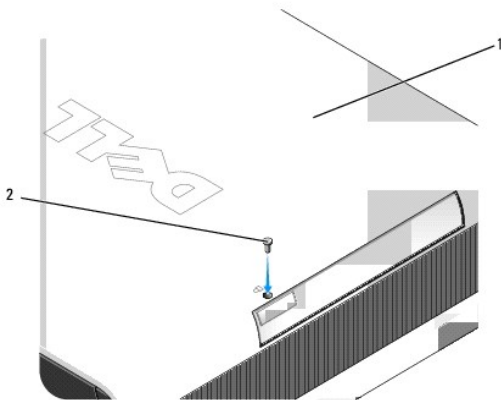
- ロックスイッチ（コンピュータカバーを外して使用）
- デバイスネジ（別梱包）

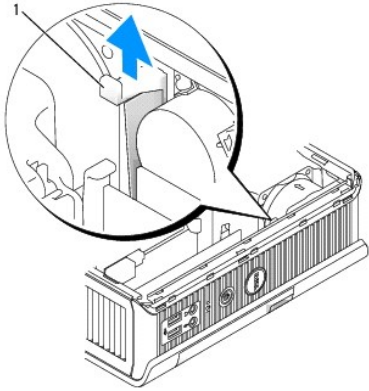
デバイスの取り付け方法については、デバイスのモジュルベイへの固定 を参照してください。

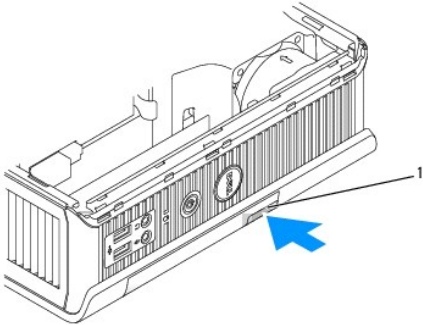
注意: デバイスへの損傷を防ぐため、コンピュータにデバイスを取り付けない場合、デバイスは、乾燥した安全な場所に保管し、上から力を加えたり、重いものを載せたりしないでください。

コンピュータの電源が切れている場合のデバイスの取り付け

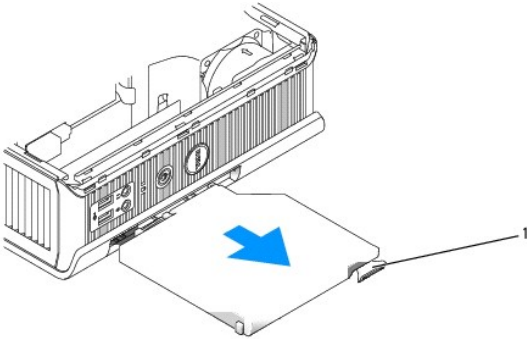
デバイスをモジュールベイに取り付けるには、次の手順を実行します。

1. モジュールベイにデバイスではなくエアベイが入っている場合は、モジュールベイからエアベイを引き出して、5ステップ に進みます。エアベイがロックされている場合は、デバイスネジを取り外します。

1	コンピュータの底面
2	デバイスネジ

2. モジュールベイにロックされているデバイスが入っている場合は、カバーを取り外してから（コンピュータカバーの取り外し を参照）、モジュールロックスイッチを上に上げて、アンロック位置にします。デバイスネジが使用されている場合は、ネジを外します。

1	モジュールロックスイッチ

3. デバイスリリースラッチを押してリリースラッチを解除します。

1	デバイスリリースラッチ

注意: コンピュータの上に重いものを載せないでください。重いものを載せるとシャーシが曲がり、モジュールデバイスを取り外しにくくなる可能性があります。

4. リリースラッチを持ってデバイスを引き出し、モジュールベイからデバイスを取り外します。

1	リリースラッチ

5. 新しいデバイスをモジュールベイにスライドします。

6. モジュールロックスイッチをロック位置に動かして、新しいデバイスをモジュールベイにロックすることもできます。

7. モジュールベイのデバイスをロックするためにカバーを取り外した場合は、コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外し を参照）。

Microsoft® Windows® を実行している場合のデバイスの取り付け

1. デバイスがモジュールに取り付けられている場合は、タスクバーの **ハードウェアの安全な取り外し** アイコンをダブルクリックします。

2. 取り外すデバイスをクリックします。

メモ: コンピュータの電源が入っていて、デバイスがモジュールベイにロックされている場合は、デバイスを取り外すことはできません。ロックされたデバイスを取り外すには、コンピュータをシャットダウンして、コンピュータの電源が切れている場合のデバイスの取り付け の手順に従ってください。

注意: コンピュータの上に重いものを載せないでください。重いものを載せるとシャーシが曲がり、モジュールデバイスを取り外しにくくなる可能性があります。

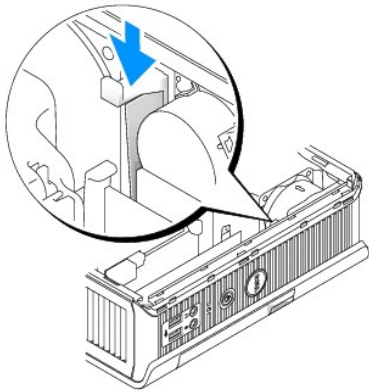
3. デバイスを取り外すことができることを示すコンピュータメッセージが表示されたら、コンピュータからデバイスを取り外します。

4. 新しいデバイスをモジュールベイにスライドします。

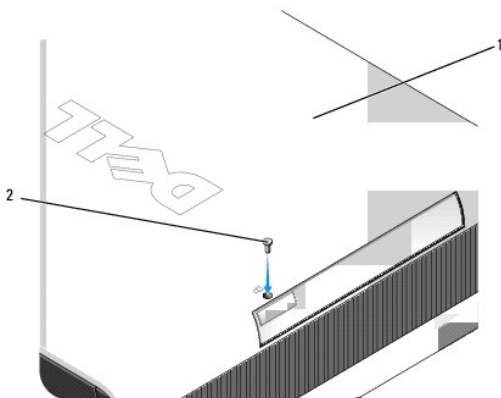
デバイスのモジュルベイへの固定

1. デバイスをモジュールベイに固定するために、コンピュータにはモジュールロックスイッチが装備されています。このスイッチを使用するには、次の手順を実行します。

   a. コンピュータカバーを取り外します（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

   b. 所定の位置にロックされるまで、モジュールロックスイッチを軽く押し下げます。

   c. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

   モジュールロックスイッチを引き上げて元の位置に戻すまでは、モジュールをコンピュータから取り外すことはできません。

2. デバイスネジ（別梱包）を使用しても、モジュールベイのデバイスを固定できます。

1	コンピュータの底面
2	デバイスネジ

プロセッサ

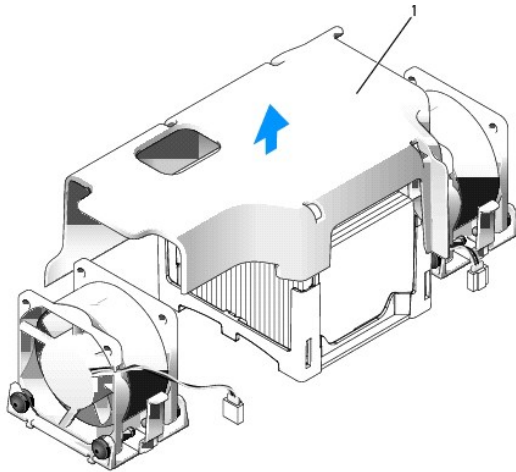
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、カバーを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ずコンセントから抜いてください。

注意: プロセッサを交換する際は、新しいプロセッサの底部に触らないようにしてください。

注意: プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

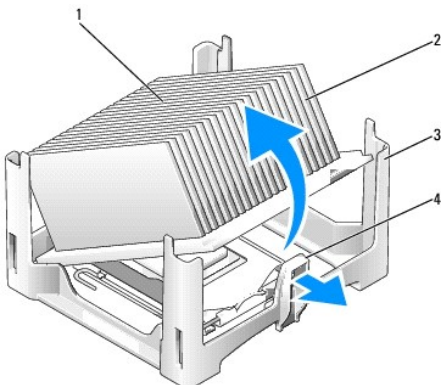
1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

2. ファンエアフローカバーを持ち上げてコンピュータから離し、ファンエアフローカバーを取り外します。

1	ファンエアフローカバー

警告: ヒートシンクは、非常に高温になることがあります。アセンブリに触れる前には十分に時間をかけ、ヒートシンクの温度が下がっていることを確認してください。

3. ヒートシンクを取り外します。

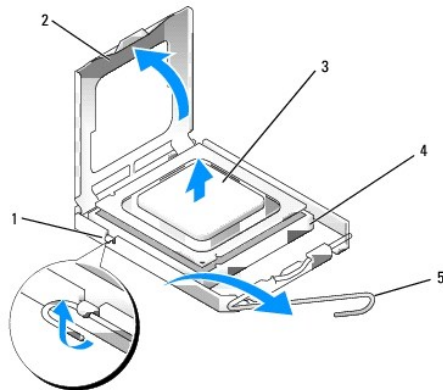
   a. ヒートシンクに 1 番近いメモリモジュールを取り外します（メモリの取り付け を参照）。

   b. ヒートシンクが外れるまで保持基板のリリースレバーを押します。

1	ヒートシンクの上部
2	ヒートシンク
3	保持基板
4	リリースレバー

c. プロセッサからヒートシンクを慎重に持ち上げます。

d. サーマルグリースが付いた面を上に向けて、ヒートシンクを上向きに置きます。

注意: 新しいプロセッサに新しいヒートシンクを取り付ける必要がある場合は、プロセッサを交換する際に、元のヒートシンクアセンブリを再利用してください。

4. プロセッサが外れるまでリリースレバーをまっすぐ引き上げ、プロセッサをソケットから取り外します。

1	センターカバーラッチ
2	プロセッサカバー
3	プロセッサ
4	ソケット
5	リリースレバー

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

注意: プロセッサを交換する際は、ソケット内側のピンに触れたり、ピンの上に物を落とさないようにしてください。

5. プロセッサの底部に触らないように気をつけながら、新しいプロセッサを梱包から取り出します。

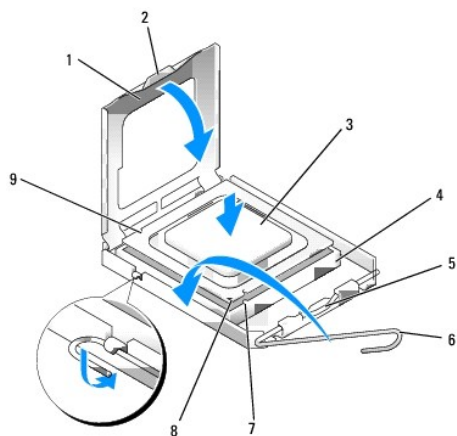
6. ソケット上のリリースレバーが完全に開いていない場合、その位置まで動かします。

7. プロセッサの前面と背面の位置合わせ用の切り込みを、ソケットの前面と背面の位置合わせ用の切り込みに合わせます。

8. プロセッサとソケットの 1 番ピンの角を合わせます。

注意: プロセッサへの損傷を防ぐため、プロセッサとソケットがきちんと揃っているか確認します。プロセッサを取り付ける際は、力を入れすぎないでください。

9. プロセッサをソケットに軽く置いて、プロセッサが正しい位置にあるか確認します。

10. プロセッサをソケットに完全に装着できたら、リリースレバーが所定の位置にカチッと収まるまで後ろ側へ回し、プロセッサを固定します。

1	プロセッサカバー	6	リリースレバー
2	タブ	7	前面位置合わせ用切り込み
3	プロセッサ	8	ソケットおよびプロセッサピン 1 番ピンの印
4	プロセッサソケット	9	背面位置合わせ用切り込み
5	センターカバーラッチ		

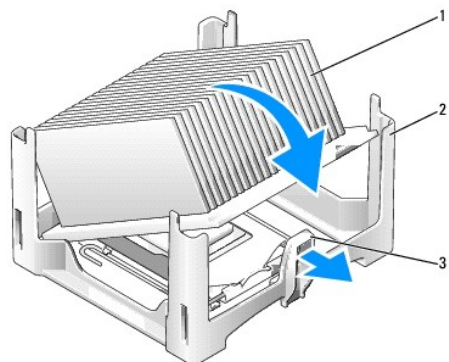
デルのプロセッサ交換キットを取り付ける場合、プロセッサは交換キットが送付されてきた同じパッケージに梱包してデルへ返送してください。

注意: コンピュータ背面の塗装されていない金属面に触れて、身体から静電気を除去してください。

11. ヒートシンクの下面からサーマルグリースを除去してください。

注意: 新しいサーマルグリースを塗ります。サーマルグリースは、重要な熱接着機能を持ち、プロセッサの最適稼動に必要です。

12. プロセッサの表面に、新しいサーマルグリースを塗ります。

13. リリースレバーと反対側の保持基板のタブの下に、ヒートシンクの片方の端を置きます。

1	ヒートシンク
2	保持基板
3	リリースレバー

14. ヒートシンクがもう一方の保持基板の端のタブの下にしっかり装着されるように、ヒートシンクをプロセッサの上に押し下げます。

15. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

16. ケーブルカバーを外した場合は、元に戻します（ケーブルカバー（オプション） を参照）。

目次に戻る

目次に戻る

ドライブ

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

お使いのコンピュータは、次のドライブをサポートします。

- SATA(シリアルATA)ハードドライブを 1 台
- モジュールベイのオプションの D モジュールドライブ、セカンドハードドライブ、またはフロッピードライブを 1 台

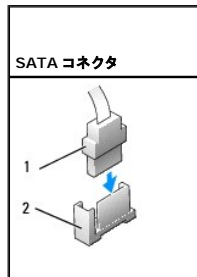
一般的な取り付けガイドライン

メモ: D モジュールドライブの取り付け手順については、オプションのデバイスに付属のマニュアルを参照してください。

SATAハードドライブは、システム基板の「SATA0」というラベルのコネクタに接続してください(システム基板コンポーネント を参照)。

ドライブケーブルの接続

ドライブを取り付ける場合、2 本のケーブル(DC 電源ケーブルとデータケーブル)をドライブの背面に接続します。

ドライブインタフェースコネクタ

SATA コネクタ

1	インタフェースケーブルコネクタ
2	インタフェースコネクタ

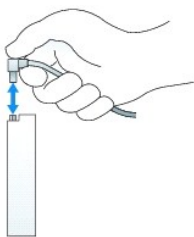
大半のインタフェースコネクタは、正しく接続されるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。これらのコネクタによって、ケーブルの 1 番ピンワイヤ(ケーブルの片側に色帯が付いています。シリアル ATA ケーブルには色帯は付いていません)が、コネクタの 1 番ピンの端に正しく接続されます。基板またはカード上にあるコネクタの 1 番ピンの端を示すために、通常、基板やカード上に直接「1」とシルクスクリーン印刷されています。

注意: インタフェースケーブルを誤った方向に差し込むと、ドライブが動作しなかったり、コントローラやドライブ、またはその両方を損傷する恐れがあります。

電源ケーブルコネクタ

1	電源ケーブル
2	電源入力コネクタ

ドライブケーブルの接続と取り外し

SATA データケーブルを接続または取り外す場合、それぞれの端にある黒色のコネクタを持って作業を行います。プルタブが付いたケーブルを取り外す場合、色付きのプルタブをつかんで、コネクタが外れるまで引っ張ります。

ハードドライブ

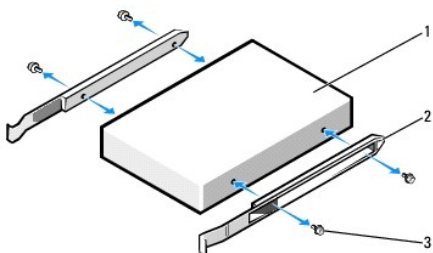
警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

警告: 感電防止のため、ハードドライブを取り外す前にコンピュータの電源プラグを必ず電源装置から抜いてください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

注意: ドライブへの損傷を避けるため、ドライブを硬い所に置かないでください。ドライブは、発泡樹脂製のパッドなど十分なクッション性のあるものの上に置いてください。

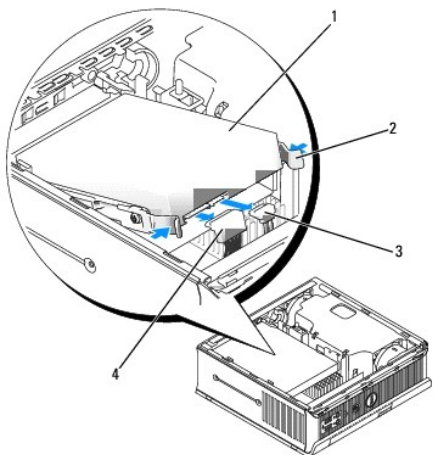
ハードドライブの取り付け

1. ドライブの交換ではなく新しいデバイスを取り付ける場合は、カバー内部にあるドライブレールを新しいドライブに取り付けて 8ステップ に進みます。

1	ドライブ
2	ドライブレール（2）
3	ネジ（4）

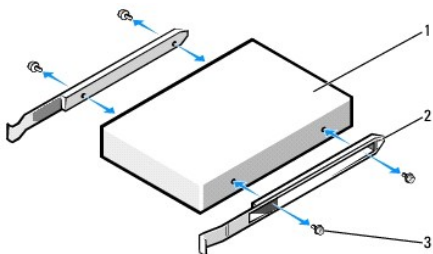
2. 残しておきたいデータを保存しているハードドライブを交換する場合、ファイルのバックアップを取ってから、次の手順を開始します。

3. ドライブに付属のマニュアルを参照して、ドライブがお使いのコンピュータに適した設定になっているか確認します。

4. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

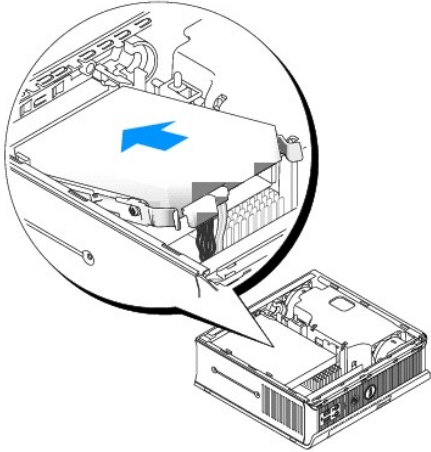
5. ドライブレールをつかみ、2 本のレールを互いの方へ押してドライブを前面に少しスライドさせ、ハードドライブを上の方に回転させてブラケットから外します。

1	ハードドライブ
2	ドライブレール（2）
3	電源ケーブルコネクタ
4	データケーブルコネクタ

6. データケーブルおよび電源ケーブルをドライブコネクタから外します。

7. 既存のハードドライブからドライブレールを取り外し、交換用のハードドライブに取り付けます。

1	ドライブ
2	ドライブレール（2）
3	ネジ（4）

注意： シリアル ATA データコネクタおよび電源コネクタは、正しく接続できるように設計されています。つまり、片方のコネクタの切り込みやピンの欠けが、もう一方のコネクタのタブや差し込み穴と一致します。 ケーブルをドライブに接続する際は、ケーブルをドライブに接続する前にコネクタを正しい方向に向けます。

8. データケーブルおよび電源ケーブルをハードドライブコネクタに取り付けます。ケーブルをドライブに接続する前に、コネクタを正しい方向に向けます。

9. ハードドライブをスライドさせてブラケットにはめ込みます。

10. コンピュータカバーを取り付けます（コンピュータカバーの取り外しを参照）。

11. ケーブルカバーを取り付けます（使用している場合）。

    ドライブの動作に必要なソフトウェアをインストールする手順については、ドライブに付属のマニュアルを参照してください。

12. コンピュータを再起動します。

13. 次の手順に進む前に、ドライブにパーティションを作成し、論理フォーマットを実行します。

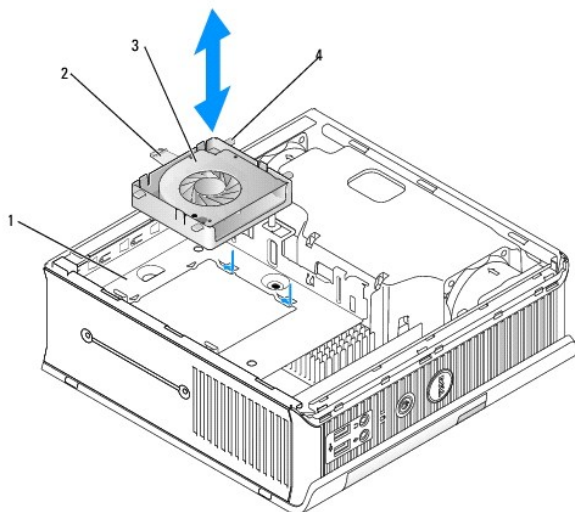
    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

14. Dell Diagnostics（診断）プログラムを実行して、ハードドライブをテストします（Dell Diagnostics（診断）プログラム を参照）。

15. ハードドライブにオペレーティングシステムをインストールします。

    手順については、オペレーティングシステムに付属のマニュアルを参照してください。

ハードドライブファンの交換

1. 作業を開始する前に の手順に従います。
2. ハードドライブを取り外します（ハードドライブを参照）。
3. 次の手順で、ハードドライブファンを取り外します。
    a. ファンのケーブルを抜きます。
    b. ファン背面のリリースタブを押します。
    c. リリースタブが外れないようにしながらファンをシステム前面方向にスライドさせ、ハードドライブブラケットのスロットからサイドタブを外します。
    d. ファンを持ち上げて、ハードドライブブラケットから外します。

1	ハードドライブブラケット
2	ファンリリースタブ
3	ファン
4	サイドタブ

4. 次の手順で、ハードドライブファンを取り付けます。
   a. 4 つのサイドタブとリリースタブの位置を、ハードドライブブラケットの 5 つのスロットに合わせます。
   b. 金属製のスロットカバーの下にリリースタブをスライドさせ、コンピュータ背面方向にファンをスライドさせると、他の4つのタブが留まります。

目次に戻る

[目次に戻る]

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

- コンピュータカバーの取り外し

コンピュータカバーの取り外し

警告: 本項の手順を開始する前に、『製品情報ガイド』の安全手順に従ってください。

注意: コンピュータ内の部品の静電気による損傷を防ぐため、コンピュータの電子部品に触れる前に、身体から静電気を除去してください。コンピュータシャーシの塗装されていない金属面に触れることにより、静電気を除去することができます。

1. 作業を開始する前にの手順に従って操作してください。

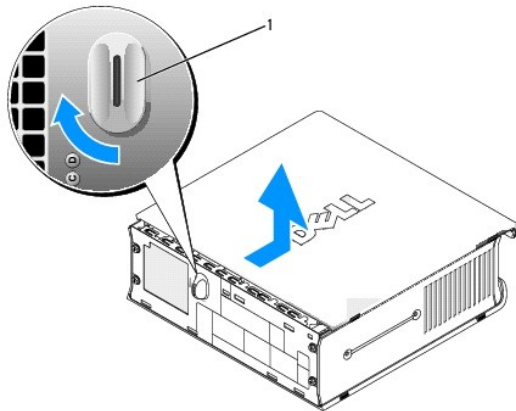
注意: コンピュータ内部の部品に触れる前に、塗装されていない金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。作業中も、定期的に塗装されていない金属面に触れて、内蔵コンポーネントを損傷する恐れのある静電気を除去してください。

2. ケーブルカバーがある場合は、取り外します（ケーブルカバー（オプション） を参照）。

3. コンピュータカバーを取り外します。

   a. 下図のように、カバーリリースノブを時計回りに回します。

   b. コンピュータカバーを 1 cm またはカバーが止まるまで前にスライドし、カバーを持ち上げます。

警告: グラフィックカードのヒートシンクは、通常の操作でも大変熱くなる可能性があります。グラフィックカードのヒートシンクの熱が冷めるまで十分な時間を置いてから触れるようにします。

1	リリースノブ

[目次に戻る]

目次に戻る

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

ウルトラスモールフォームファクターコンピュータの仕様

マイクロプロセッサ	
マイクロプロセッサの種類	Intel® Pentium 4® プロセッサ、Pentium D プロセッサ、Celeron® プロセッサ、Core™ プロセッサ
内蔵キャッシュ	512 KB 以上のパイプラインバースト、8 ウェイセットアソシエィティブ、ライトバック SRAM

メモリ	
タイプ	533 MHz または 667 MHz DDR2 SDRAM
メモリのコネクタ	2
対応するメモリモジュール	256 MB、512 MB、1 GB、または 2 GB 非 ECC
最小メモリ	デュアルチャネル: 512 MBシングルチャンネル: 256 MB
最大搭載メモリ	4 GB
BIOS アドレス	F0000h

コンピュータ情報	
チップセット	Intel® Q965 Express
データバス幅	64 ビット
アドレスバス幅	32 ビット
DMA チャネル	8
割り込みレベル	24
BIOS チップ（NVRAM）	8 Mb
NIC	DMTF によって定義されている ASF 1.03 および 2.0 サポートを組み込んだ内蔵ネットワークインタフェース 10/100/1000 通信が可能

ビデオ	
タイプ	デュアルモニターサポートの内蔵 DVI-I を装備した内蔵 Intel® グラフィックメディアアクセラレータ 3000

オーディオ	
タイプ	ADI 1983 HDA（ハイ・デフィニッション・オーディオ）
ステレオ変換	20 ビット AD 変換および 20 ビット DA 変換

コントローラ	
ドライブ	1 台のデバイスをサポートするシリアル ATA コントローラが 1台

拡張バス	
バスのタイプ	SATA 1.0a および 2.0 USB 2.0
バス速度	SATA: 1.5 Gbps および 3.0 Gbps USB: 480 Mbps

ドライブ	
外部アクセス可能	オプティカルドライブ、セカンドハードドライブ、またはフロッピードライブ用の D モジュールベイが 1 つ
内部アクセス可能	1 インチ幅ハードドライブ用ベイ × 1

コネクタ	
外付けコネクタ:	
シリアル	9 ピンコネクタ、16550C 互換
パラレル	双方向 25 ピンコネクタ(メス)
ビデオ	28 ピン DVI コネクタ
ネットワークアダプタ	RJ-45 コネクタ
USB	USB 2.0 互換コネクタ(前面パネルに 2 つ、背面パネルに 5 つ)
オーディオ	ライン入出力 / マイク入力用コネクタ × 2(背面パネル)、ヘッドホンおよびマイク用コネクタ × 2(正面パネル)
D-Dock	標準 D-Dock コネクタ、拡張ポートレプリケータおよび拡張ステーションなどのデバイス用
システム基板コネクタ:	
SATA	7 ピンコネクタ
ファン	3 ピンコネクタ × 1、5 ピンコネクタ × 2

キーの組み合わせ	
<Ctrl><Alt><Del>	Microsoft Windows XP では Windows Security ウィンドウを表示、MS-DOS モードでは、コンピュータを再スタート(再起動)
<F2> または<Ctrl><Alt><Enter>	内蔵のセットアップユーティリティを起動(システム起動時のみ)
<Ctrl><Alt><b>	セットアップユーティリティの **Boot Sequence** オプションのデバイスからではなく、PXE(リモート起動環境)によって指定されたネットワーク環境からコンピュータを自動的に起動(起動時のみ)
<F12> または<Ctrl><Alt><F8>	ユーザーが単一起動用のデバイスを入力できる起動デバイスメニュー(システム起動時のみ)、またハードドライブおよびシステム診断プログラムを実行するオプションを表示

ボタンとライト	
電源ボタン	押しボタン
電源ライト	緑色のライト - スリープモードのとき緑色に点滅、電源がオンのとき緑色に点灯 黄色のライト - 黄色の点滅は、インストールされたデバイスに問題があることを示し、黄色の点灯は内蔵電源の問題を示す(電源の問題 を参照)
電源装置状態ライト	緑色のライト - 電源アダプタが AC コンセントおよびコンピュータに接続されているとき緑色に点灯 黄色のライト - 電源アダプタが AC コンセントに接続されているが、コンピュータには接続されていないとき黄色に点灯
ハードドライブアクセスライト	緑色
リンク保全ライト(内蔵ネットワークアダプタ上)	10 Mb 伝送時は緑色のライト 100 Mb 伝送時は橙色のライト 1000 Mb(1 Gb)伝送時は黄色のライト
動作ライト(内蔵ネットワーク アダプタ上)	黄色の点滅ライト
診断ライト	背面パネルの 4 つのライト。診断ライトを参照してください。
スタンバイ電源ライト	システム基板の AUX_PWR

電源	
外付け DC 電源ユニット:	**メモ:** コンピュータの電源を抜くと、消費電力はゼロ
ワット数	220 W
熱消費	751 BTU/hr **メモ:** 熱消費は電源供給率に基づいて算出されます。
電圧	自動センサー電源装置 - 50/60 Hz で 90～135 V、50/60 Hz

	で 180～265 V
バックアップバッテリー	3 V CR2032 コイン型リチウムバッテリー

寸 法	
ケーブルカバー非装着時:	
縦幅	26.4 cm
横幅	8.9 cm
長さ	25.3 cm
重量	4.5 kg
標準ケーブルカバー装着時:	
縦幅	26.4 cm
横幅	8.9 cm
長さ	33 cm
重量	4.9 kg
拡張ケーブルカバー装着時:	12.34 kg
縦幅	26.4 cm
横幅	8.9 cm
長さ	36.1 cm

環 境	
温度:	
動作時	10～30 ℃
保管時	-40～65 ℃
相対湿度	20～80 %(結露しないこと)
最大耐久震度:	
動作時	0.25 G(3～200 Hz、0.5 オクターブ / 分)
保管時	0.5 G(3～200 Hz、1 オクターブ / 分)
最大耐久衝撃:	
動作時	50.8 cm / 秒の速度変化でボトムハーフサインパルス
保管時	508 cm / 秒の速度変化で 27 G フェアードスクエアウェーブ
高度:	
動作時	-15.2～3,048 m
保管時	-15.2～10,668 m

目次に戻る

Dell™ OptiPlex™ 745 ユーザーズ ガイド

ウルトラスモールフォームファクターコンピュータ

お使いのコンピュータについて

部品の取り外しと取り付け

メモ、注意、警告

メモ: コンピュータを使いやすくするための重要な情報を説明しています。

注意: ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

警告: 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

Dell n シリーズコンピュータをご購入いただいた場合は、このマニュアルの Microsoft Windows オペレーティングシステムについての説明は適用されません。

モデル DCTR、DCNE、DCSM、および DCCY

2006 年 6 月　KH288　Rev. A00

保証について

Dell™OptiPlex™745 ユーザーズ ガイド

コンピュータに関するデル保証情報については、『サービス ＆ サポートのご案内』を参照してください。